

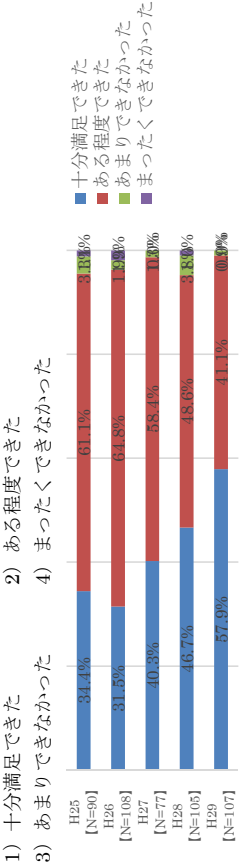
資 料

1. 地域科学部卒業生アンケートの集計結果(平成25-29年度)
2. 地域科学研究科修了生アンケートの集計結果(平成25-29年度)
3. 『社会活動演習報告書』(平成29年度)《抄》
4. 『地域学実習報告書』(平成29年度)《抄》
5. 卒業論文題目一覧(平成29年度)
6. 修士論文題目一覧(平成29年度)
7. ベネッセ(2014)「大学シンポジウム」、『VIEW21』
8. 「本当に強い大学 2016」、『週刊東洋経済』(160516)
9. 木村(2017)『大学大倒産時代』朝日新聞出版
10. 公開講座一覧
11. オープンカレッジ
12. CCN 連携事業
13. 社会貢献一覧
14. 教員の環境活動および地域連携等の活動(平成29年度)
15. 共同研究による共著書一覧
16. 教員の活動報告

地域科学部卒業生アンケートの集計結果 (H25-H29)

I. 【授業・カリキュラム等について】

1. 地域科学部では、地域が抱える問題を解決し、暮らしやすい地域社会を創り出す能力をもつ学生の育成をめざして指導し、自学自習を促してきました。4 年間の学習は、満足いくものとなりましたか。



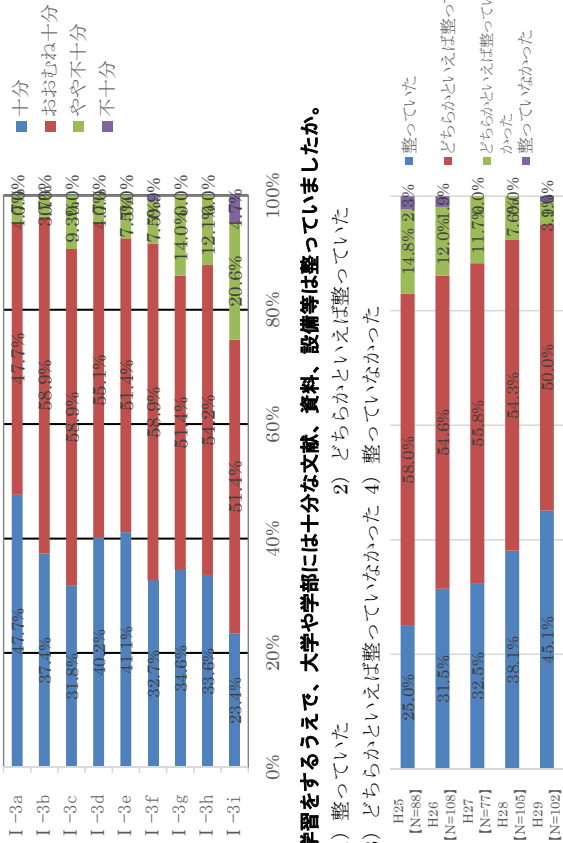
※グラフ内の数値は有効回答に占める割合 (以下同様)

2. 1で3) または4) を選択した方は、その原因は何であつたと感じますか。

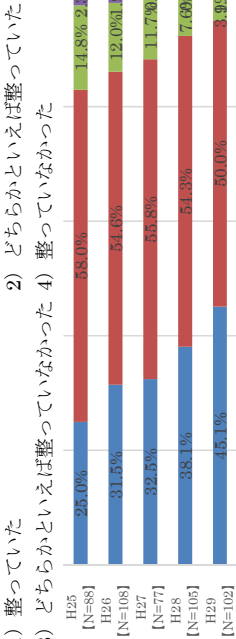
- 【H25】セルフマネジメントができず(時間等)勉強をさぼってしまった。
- 【H26】自分の怠慢です
- 【H27】授業がいまーリシェウ内容がバラバラだった。
- 【H28】講義の中で実践や学生どうしの人とのつながりが少ないと感じた。
- 【H29】努力不足。
- 【H30】再受験をする事になったこと、習いたかった教授が去ったこと、入りたかった研究室にも入れなかったこと、第一志望でなかったこと。
- 【H31】大学で学びたいことがしつかりとあつたので、様々なことができる地域のカリキュラムでは不慣れな講義を取る必要があつたので、その点が不満だった。
- 【H32】自分の目指すものを設定し勉強することができていなかった。
- 【H33】【H34】【H35】【H36】【H37】【H38】【H39】【H40】【H41】【H42】【H43】【H44】【H45】【H46】【H47】【H48】【H49】【H50】【H51】【H52】【H53】【H54】【H55】【H56】【H57】【H58】【H59】【H60】【H61】【H62】【H63】【H64】【H65】【H66】【H67】【H68】【H69】【H70】【H71】【H72】【H73】【H74】【H75】【H76】【H77】【H78】【H79】【H80】【H81】【H82】【H83】【H84】【H85】【H86】【H87】【H88】【H89】【H90】【H91】【H92】【H93】【H94】【H95】【H96】【H97】【H98】【H99】【H100】【H101】【H102】【H103】【H104】【H105】【H106】【H107】【H108】【H109】【H110】【H111】【H112】【H113】【H114】【H115】【H116】【H117】【H118】【H119】【H120】【H121】【H122】【H123】【H124】【H125】【H126】【H127】【H128】【H129】【H130】【H131】【H132】【H133】【H134】【H135】【H136】【H137】【H138】【H139】【H140】【H141】【H142】【H143】【H144】【H145】【H146】【H147】【H148】【H149】【H150】【H151】【H152】【H153】【H154】【H155】【H156】【H157】【H158】【H159】【H160】【H161】【H162】【H163】【H164】【H165】【H166】【H167】【H168】【H169】【H170】【H171】【H172】【H173】【H174】【H175】【H176】【H177】【H178】【H179】【H180】【H181】【H182】【H183】【H184】【H185】【H186】【H187】【H188】【H189】【H190】【H191】【H192】【H193】【H194】【H195】【H196】【H197】【H198】【H199】【H200】【H201】【H202】【H203】【H204】【H205】【H206】【H207】【H208】【H209】【H210】【H211】【H212】【H213】【H214】【H215】【H216】【H217】【H218】【H219】【H220】【H221】【H222】【H223】【H224】【H225】【H226】【H227】【H228】【H229】【H230】【H231】【H232】【H233】【H234】【H235】【H236】【H237】【H238】【H239】【H240】【H241】【H242】【H243】【H244】【H245】【H246】【H247】【H248】【H249】【H250】【H251】【H252】【H253】【H254】【H255】【H256】【H257】【H258】【H259】【H260】【H261】【H262】【H263】【H264】【H265】【H266】【H267】【H268】【H269】【H270】【H271】【H272】【H273】【H274】【H275】【H276】【H277】【H278】【H279】【H280】【H281】【H282】【H283】【H284】【H285】【H286】【H287】【H288】【H289】【H290】【H291】【H292】【H293】【H294】【H295】【H296】【H297】【H298】【H299】【H300】【H301】【H302】【H303】【H304】【H305】【H306】【H307】【H308】【H309】【H310】【H311】【H312】【H313】【H314】【H315】【H316】【H317】【H318】【H319】【H320】【H321】【H322】【H323】【H324】【H325】【H326】【H327】【H328】【H329】【H330】【H331】【H332】【H333】【H334】【H335】【H336】【H337】【H338】【H339】【H340】【H341】【H342】【H343】【H344】【H345】【H346】【H347】【H348】【H349】【H350】【H351】【H352】【H353】【H354】【H355】【H356】【H357】【H358】【H359】【H360】【H361】【H362】【H363】【H364】【H365】【H366】【H367】【H368】【H369】【H370】【H371】【H372】【H373】【H374】【H375】【H376】【H377】【H378】【H379】【H380】【H381】【H382】【H383】【H384】【H385】【H386】【H387】【H388】【H389】【H390】【H391】【H392】【H393】【H394】【H395】【H396】【H397】【H398】【H399】【H400】【H401】【H402】【H403】【H404】【H405】【H406】【H407】【H408】【H409】【H410】【H411】【H412】【H413】【H414】【H415】【H416】【H417】【H418】【H419】【H420】【H421】【H422】【H423】【H424】【H425】【H426】【H427】【H428】【H429】【H430】【H431】【H432】【H433】【H434】【H435】【H436】【H437】【H438】【H439】【H440】【H441】【H442】【H443】【H444】【H445】【H446】【H447】【H448】【H449】【H450】【H451】【H452】【H453】【H454】【H455】【H456】【H457】【H458】【H459】【H460】【H461】【H462】【H463】【H464】【H465】【H466】【H467】【H468】【H469】【H470】【H471】【H472】【H473】【H474】【H475】【H476】【H477】【H478】【H479】【H480】【H481】【H482】【H483】【H484】【H485】【H486】【H487】【H488】【H489】【H490】【H491】【H492】【H493】【H494】【H495】【H496】【H497】【H498】【H499】【H500】【H501】【H502】【H503】【H504】【H505】【H506】【H507】【H508】【H509】【H510】【H511】【H512】【H513】【H514】【H515】【H516】【H517】【H518】【H519】【H520】【H521】【H522】【H523】【H524】【H525】【H526】【H527】【H528】【H529】【H530】【H531】【H532】【H533】【H534】【H535】【H536】【H537】【H538】【H539】【H540】【H541】【H542】【H543】【H544】【H545】【H546】【H547】【H548】【H549】【H550】【H551】【H552】【H553】【H554】【H555】【H556】【H557】【H558】【H559】【H560】【H561】【H562】【H563】【H564】【H565】【H566】【H567】【H568】【H569】【H570】【H571】【H572】【H573】【H574】【H575】【H576】【H577】【H578】【H579】【H580】【H581】【H582】【H583】【H584】【H585】【H586】【H587】【H588】【H589】【H590】【H591】【H592】【H593】【H594】【H595】【H596】【H597】【H598】【H599】【H600】【H601】【H602】【H603】【H604】【H605】【H606】【H607】【H608】【H609】【H610】【H611】【H612】【H613】【H614】【H615】【H616】【H617】【H618】【H619】【H620】【H621】【H622】【H623】【H624】【H625】【H626】【H627】【H628】【H629】【H630】【H631】【H632】【H633】【H634】【H635】【H636】【H637】【H638】【H639】【H640】【H641】【H642】【H643】【H644】【H645】【H646】【H647】【H648】【H649】【H650】【H651】【H652】【H653】【H654】【H655】【H656】【H657】【H658】【H659】【H660】【H661】【H662】【H663】【H664】【H665】【H666】【H667】【H668】【H669】【H670】【H671】【H672】【H673】【H674】【H675】【H676】【H677】【H678】【H679】【H680】【H681】【H682】【H683】【H684】【H685】【H686】【H687】【H688】【H689】【H690】【H691】【H692】【H693】【H694】【H695】【H696】【H697】【H698】【H699】【H700】【H701】【H702】【H703】【H704】【H705】【H706】【H707】【H708】【H709】【H710】【H711】【H712】【H713】【H714】【H715】【H716】【H717】【H718】【H719】【H720】【H721】【H722】【H723】【H724】【H725】【H726】【H727】【H728】【H729】【H730】【H731】【H732】【H733】【H734】【H735】【H736】【H737】【H738】【H739】【H740】【H741】【H742】【H743】【H744】【H745】【H746】【H747】【H748】【H749】【H750】【H751】【H752】【H753】【H754】【H755】【H756】【H757】【H758】【H759】【H760】【H761】【H762】【H763】【H764】【H765】【H766】【H767】【H768】【H769】【H770】【H771】【H772】【H773】【H774】【H775】【H776】【H777】【H778】【H779】【H780】【H781】【H782】【H783】【H784】【H785】【H786】【H787】【H788】【H789】【H790】【H791】【H792】【H793】【H794】【H795】【H796】【H797】【H798】【H799】【H800】【H801】【H802】【H803】【H804】【H805】【H806】【H807】【H808】【H809】【H810】【H811】【H812】【H813】【H814】【H815】【H816】【H817】【H818】【H819】【H820】【H821】【H822】【H823】【H824】【H825】【H826】【H827】【H828】【H829】【H830】【H831】【H832】【H833】【H834】【H835】【H836】【H837】【H838】【H839】【H840】【H841】【H842】【H843】【H844】【H845】【H846】【H847】【H848】【H849】【H850】【H851】【H852】【H853】【H854】【H855】【H856】【H857】【H858】【H859】【H860】【H861】【H862】【H863】【H864】【H865】【H866】【H867】【H868】【H869】【H870】【H871】【H872】【H873】【H874】【H875】【H876】【H877】【H878】【H879】【H880】【H881】【H882】【H883】【H884】【H885】【H886】【H887】【H888】【H889】【H890】【H891】【H892】【H893】【H894】【H895】【H896】【H897】【H898】【H899】【H900】【H901】【H902】【H903】【H904】【H905】【H906】【H907】【H908】【H909】【H910】【H911】【H912】【H913】【H914】【H915】【H916】【H917】【H918】【H919】【H920】【H921】【H922】【H923】【H924】【H925】【H926】【H927】【H928】【H929】【H930】【H931】【H932】【H933】【H934】【H935】【H936】【H937】【H938】【H939】【H940】【H941】【H942】【H943】【H944】【H945】【H946】【H947】【H948】【H949】【H950】【H951】【H952】【H953】【H954】【H955】【H956】【H957】【H958】【H959】【H960】【H961】【H962】【H963】【H964】【H965】【H966】【H967】【H968】【H969】【H970】【H971】【H972】【H973】【H974】【H975】【H976】【H977】【H978】【H979】【H980】【H981】【H982】【H983】【H984】【H985】【H986】【H987】【H988】【H989】【H990】【H991】【H992】【H993】【H994】【H995】【H996】【H997】【H998】【H999】【H1000】

3. 地域科学部のカリキュラムが目指している以下の能力や知識の向上は、どの程度達成できましたか。

【H29 より追加項目】



4. 学習をするうえで、大学や学部には十分な文献、資料、設備等は整っていましたか。



5. 4で3) または4) を選択した方は、どこが不十分と感じましたか。

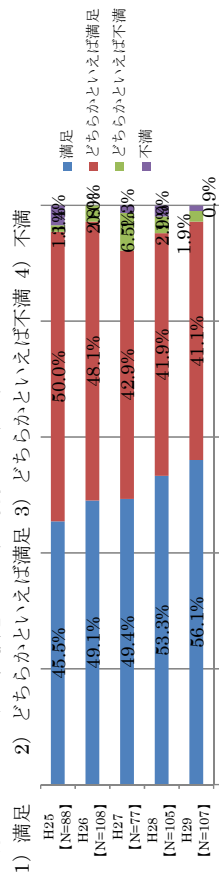
- 【H25】図書館の蔵書が少ない。(×8)
- 図書館での人文・社会科学関係の本が少ない。
- 図書館の資料が古く、役に立たなかった(×2)
- 図書館にある社会科学系の本が古いものが多かった。
- 図書館が使いにくい！！
- 法律などの本、雑誌が足りなかった。
- 【H26】Web の分野 * 数量が少なすぎる
- 図書館の蔵書数 (×2)
- ゼミ室がほしかった
- 法律系の雑誌、文献が少なかった (×2)
- 本の種類がなく、最新の本があまりにもそろっていないかった点
- * 必要とする文献・資料が少ない (×2)
- * 社会科学系に関する最新の雑誌等が全くといってない点。雑誌論文があれば、その分野の最新の情報を手に入れられる為充実して欲しいです。
- * 図書館の資料が古すぎる、経済系が少ない。
- * 文化構造のゼミの学生のために使えるパソコンがあると便利だと思った。 * 自習室
- 【H27】図書館に欲しい文献や資料がない事が多かった。
- * 社会科学系の最近の文献が不足していた。古典も網羅していると言えない。
- * (他の大学と比べて)もう少し図書館の本が欲しかった。

- * 学部 ネット環境が悪いです。
 * 学校の学部の特性上、図書館の蔵書に思うものがないことが多かった。
 * 図書館の蔵書をもう少し増やしてほしい。
 * 卒論の大学の卒論などがあまりない。
 * 卒論の文献が図書館にあまりなかった点。
- 【H28】
 * 経済学が不十分すぎる。あらゆる分野にまたがり集めてほしい。紀要や雑誌のバックナンバーも不足している。何度岐阜経済大図書館に通ったか分かりません。
 * 卒業論文で使用する文献が、大学の図書館にあまりなかったところ。です。
 * 自分の分野の文献があまりなかったため。
 * 自分の習いたいものがなかった。図書館等も自分の欲しい本を取り寄せるのに時間がかかった。
 * 何度他大図書館から取り寄せたから。図書館の設備。
 * 授業で使う教科書なのに図書館にも学部にもなかった。
 * 図書館の文献は不十分どころが多かったです。
- 【H29】
 * 社会科学（特に経済学）の文献が少なすぎる。
 * データベースアクセス(博士達の論文を読みたかった。卒論のため)
 * 図書館の経済学の本がもっと充実していると良かった。
6. 以下のカリキュラムについてそれぞれ評価してください。
- 1) 共通教育全般
- 1) 満足 2) やや満足 3) ふつう 4) 不満 5) 大変不満
-
- 2) 専門教育全般
- 1) 満足 2) やや満足 3) ふつう 4) 不満 5) 大変不満
-
- 3) 専門セミナー
- 1) 満足 2) やや満足 3) ふつう 4) 不満 5) 大変不満
-
7. 地域科学部では、TA 制度（※）を設けています。TA が参加している授業（情報演習、社会活動演習、地域学実習、専門セミナー等）を履修した方にお尋ねします。
 ※ティーチングアシスタントの略。TA となった大学院生は、授業担当教員の指導の下で教育補助業務をしています。授業に参加する場合は参加しないで教育補助業務を行う場合があります。また、TA がいない授業や専門セミナー等もあります。
- 1) TA がいて、質問しやすかった 2) TA がいて、討論が深められた
 3) TA は授業の準備等をしていて 4) かかわりがなかった
 5) いたかどうか不明
-
8. 地域科学部でもっと学んでみたかった科目やこれから必要と思われる科目があれば記述してください。
- 【H25】
 * 科目に関しては幅広く良かったと思う。
 * 学生が地域に出る、ないしは地域の方々が参加する授業
 * 他学部に出れば長く学習できるが、語学の学習レベルを増やしてほしい。
 * 心理学(人の心) * 情報教育、LINE や SNS の危険性などについて。
 * 英語 * まちづくりに関する科目 * 労働経済学 * 語学の授業がもっとあるといい。
 * 地域自治関連の科目がもう少しあったら受けたかった。 * 公共経済学
 * 公務員試験に直結する科目。 * 外国語: 留学制度の拡充とか。 * IT 系統
 * 経営学をより深く学んでみたかった。 * 法学系の科目 * 社会学 * 世界の歴史
 * 福祉についてもう少し学んでみたかった。 * 労働学
 * 国際関係
 * 【H26】
 * 福祉系科目 * 動物の生態などについて * 英語をもっと勉強したかった。(×2)
 * 国際関係(×3)
 * 他大学との交流などがもっとしてみたいかった。座学だけでなくフィールドワークも。
 * 都市計画について、もっと学びたいかった。
 * 全共で、まちづくりの実践を行う授業がありますが、それこそ地域科学部でやればいいの！と思います。知る機会があっても、実践するきっかけにはならない。
 * まちづくり * 理系分野と社会学分野を複合的に学べるような実学的な科目。
 * 多角的な視点を養う科目。社会のしくみを理解する科目。
 * まちづくり、中小企業とはどういう存在・意義があるのか。日本経済の歴史。
 * 労働組合について * 発達心理学とは別の心理学、地域に関わる授業
 * 心理学 * アリカ文学、アフリカ系アフリカ文学 * 英米文学だけの内容の科目
 * 文学 * 第三世界での貧困についての科目
 * より系統的なカリキュラムを組み、興味をもった分野について深く勉強できるようにしてほしい。
 * もっとフィールドワークを行う授業をやってみたかった。実際に地域の人々とふれあうようなフィールドワークがやりたいです。(老人ホーム・小学校・中学校や区民館などで)
- 【H27】
 * 政治学・行政学・地域に関すること。 * 哲学 人間とは何だ、ということ！
 * 外国人留学生に日本語を教える。
 * 国際化にともなうグローバルな授業が増えたら良いと思います。
 * もっとフィールドワークがある科目をつくってほしいです。
 * 科目ではないが、地域の人々との交流ができる機会があれば良いと思う。
 * 政治学。 * リーダーシップ論専門の人がいないのが超ざんねん。
 * 民俗学。 * 韓国語。 * 実習多め。

- * 経営学系の授業があると公務員試験で役立ったと思いました。
 - * メディア論をもっと学習してみたかった。 * ドイツ語または他の外国語。
 - * 国際的なコースが新設されることだったので、自分が受験生のときにこのコースがあれば、ぜひそこで学びたかったと思います。
 - * もっと専門的に知識が持てる科目選択ができるようなカリキュラムが欲しかったです。
 - * 公務員を希望する人が多いので、公務員試験に向けた対策の講義。
 - * ジェンダーの科目に、内容が幅広いとは感じない部分もあったので、もう少しほしい。教育に関する科目をもっと受けてみたかった。
- 【H28】
- * 経済学理論。なぜ1年生という、いろいろな学問に出会う時期に三井先生の授業しか学部として経済で学ばないのか。経済学に対する認識が狭まる要因となったことはいまありません。
 - * 経済分野の勉強。
 - * もっと観光学系の講義があったらおもしろかったかなあとあります。
 - * 古典系。 * 法学系の実学(理論を学ぶには、半期では短いため)。
 - * 英語。 * 経済に関する講義をもっと増やしてほしい。
 - * 英会話の授業や他の国の文化を深く知る授業があるといいと思う。
 - * 韓国語もっと上のクラスまであればよかったのになと思います。
 - * キャリア形成論のようなもの。 * フィールドワーク系が増えてもいい。
 - * 地方での経済や経営について、より実践的な理論を取り上げたもの。主に、地方活性のため起業しようとする人へのもの。
 - * 理数系の科目。 * 表象に関する科目。
- 【H29】
- * 哲学系の講義をもっと受けたかった。
 - * 一般常識、実践的な科目、経営全般、心理学、観光、心理、歴史、国際政治学
 - * 現代思想と分析哲学、語学、外国人教員、地域史、地城史(プラタモリのような)
 - * 社会学を学びたかったです。おおむね大満足でした。
 - * 法律科目、図書館学
 - * 農業分野、地域文化について、民俗学

Ⅱ. 【進路について】

1. 進路についての自分の選択をどのように評価しますか。



2. 1で3) または4) を選択した方は、その内容・理由などをお聞かせください。

- 【H25】
- * 就職失敗した。これに尽きる。半ば逃げるような形で進学してしまっった。
 - * 就活を遅く始めたため、受けられる企業が少なかった。
 - * 自分の力不足でした。
- 【H26】
- * まだ決定していないため。

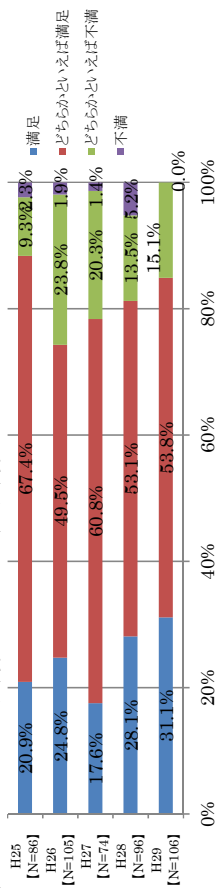
- 【H27】
- * 公務員になりたかったが、実現しなかったため。
 - * 消去法や世間の一般論を選ぶ理由にしまったから、自分の中で仕事をを選ぶ軸が就活を通してぶれすぎて最後まで一貫していなかったから。
 - * 公務員試験に失敗したため。
 - * 前もって早めに動いたら、また違った選択ができたかもしれないと思っています。
 - * 希望していた職種につけたから(1で「満足」を選択した学生の回答)。

- 【H28】
- * 第一志望のどこに行けなかったから。
 - * 結局自分のなりたいものも分からなくなってしまう、モチベーションも下がってしまった。

- 【H29】
- * 公務員から一般に途中で変更し、十分に悩んでいる時間なかったため。業界、業種はとも興味があるが、会社の雰囲気はあまり好きではない。
 - * 就職できていないから、結局就職浪人をする事になったが、できれば卒業前に就職したいと思っていたから

3. 就職・進学について大学や学部の支援は十分であったと思いますか。

- 1) 十分であった 2) どちらかといえば十分であった 3) どちらかといえば不十分であった 4) 不十分であった



4. 就職・進学についての支援に関して意見があれば記述してください。

【H25】

- * もう少し県外の紹介求人を増やした方がよい。
 - * 気軽に相談できる場所があるように思う。
 - * 内容に関しては十分だったが、友だちが少ない場合、情報を得ることが難しいと感じました。
 - * 大学で就職支援室をたくさん利用させてもらいました。いろいろな相談をすることができて助けられました。
 - * 先輩方の体験談をききたかった。
 - * 就職支援に関しては、資料の開示などがもっと利用しやすい仕組みにあるといいと思う。
 - * OB・OG と話す機会。
 - * あんまりキャリアセンターのお手伝いができなかった。セミナーはたくさんやってみたいですが…。
 - * もっと敷居を低くすべき。
- 【H26】
- * もっと面接練習の機会やグループディスカッションの練習の機会を増やしたいと思いました。
 - * とくに大学で何かをしてもらったという印象がありません。(合同セミナーもあり魅力的ではなかった)
 - * 進学希望のときに中間調査の紙が書きにくかった。
 - * 学部の就職支援は大学のものとは比べると弱いので、学部自体の就職支援をもっと強化すべきだと思います。
 - * 学務の方が気にかけて声をかけていただいたので頑張ろうと思った。
 - * もっと OG・OB の話をききたかった。
 - * キャリアセンターから正確な情報を与えられ、困惑したことがあった。他大学のキャリアセンターの職員さんと接する機会が個人的にあったのだが、岐大の就職支援は魅力的でないように感じた。より積極的な支援が必要だと思われる。
 - * 先輩と話す機会が少なかった。過去の ES 集とかがほしかった。

【H27】

- * 愛知県の就職先の情報がましかった。
- * 学部主催の合同企業説明会を開催してほしい。
- * ゼミの先生によると思います。自分とはとても満足です。
- * 冊子を渡すだけでなく実際のリアルな経験などの見きわめ方(ブラック企業など)が知れたかった。
ex. 新卒採用始めたばかりの企業は危ない、など。またキャリア形成についても指導してほしい。
- * 転職する時に有利な業界、職種など。
- * もう少し学部として強く支援した方がよいと思う。
- * 今後の支援は、知っている人・受けた人のみ受けられるものである。
- * 後期における就職支援。
- * 保健管理センターに医師がいない時があり、不便だった(学部のことではないですが)。学務の人が他の学部の窓口にくらべ親切。
- * キャリアセンターの閉館時間が早い。もう少し長くしてほしい。

【H28】

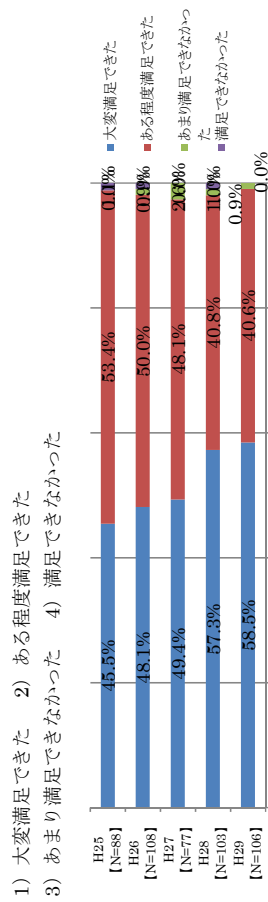
- * いわゆる就職活動をしておらず、大学からの支援も受けていません。
- * 自分たちで情報をあつめ進めていくことは大きな経験となった。大学は職業学校ではないはずなので、手を出しすぎるのはちがうと思います。(聖徳のように合宿してまで就活対策するのはどうかと思う。)
- * ゼミの教授の支えが頼りになった。
- * 就職セミナー等で聞ける話が、似たような内容のことばかりだったため、もっと様々な話や体験談が聞きたい。
- * お世話になりました。
- * 公務員志望の人間にできることを考えて。
- * もっと大学主催で企業展を行ったり、大学から会社を紹介してほしい。
- * 地域科学部全体でマナーや企業についてのセミナーを開いてほしい(特に3年生のときに)。
- * 気軽に利用できる個別支援(非予約制)。

【H29】

- * 大学院修了後の進路についてサポートをお願いしたいです。
- * 他地域へ就職希望のものへの支援
- * 情報をもっとオープンに公開してほしい。
- * もっと色々な求人を紹介してほしいと思います。
- * 3月や4月にある全体説明会で面接練習やグループ討論練習の案内が欲しいです。

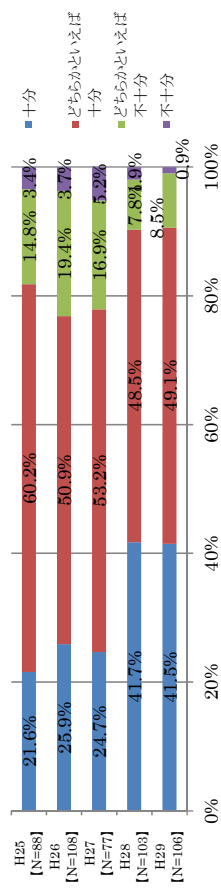
Ⅲ.【学生生活について】

1. 学生生活は満足いくものでしたか？



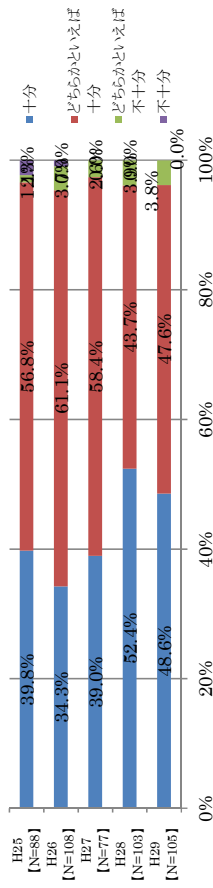
2. サークルやアルバイト等の課外活動に対し、大学や学部の支援は十分であったと思いますか。

- 1) 十分であった
- 2) どちらかといえば十分であった
- 3) どちらかといえば不十分であった
- 4) 不十分であった



3. 学生生活(生活、健康、ハラスメント等)に対する大学や学部の支援は十分であったと思いますか。

- 1) 十分であった
- 2) どちらかといえば十分であった
- 3) どちらかといえば不十分であった
- 4) 不十分であった



4. これらの支援について意見があれば記述してください。

【H25】

- * 学割の手続きはもっと簡易にいつでもどこでもできるようにならんたいと思います。

【H26】

- * 棟が新しくきれいだった。授業の内容がどの先生も個性豊かで楽しかったです。

- * (サークルで)休講扱いになっていて悲しかった。

- * 部室(BOX)足りない

- * 大学の体質が堅く、自由な学生の発想・活動を支援しているとは思えず、むしろ否定的なように感じた。

【H27】

- * サークルや施設利用の規約要綱は万人に開かれ分りやすいものとは到底言えないものだったと思います。

- * 学外合宿所などの規制が厳しくなったのが残念。

- * 全棟のクーラーが電源を落とされているので、熱くて授業に集中できないことが何度もありました。何棟になったら生徒でもスイッチを入れられるようにしてほしい。

- * 4年生も健康診断を実施してほしい。

- * 自転車置き場に屋根が欲しい(棟の近くに)。

- * LGBT 学生への支援があまり感じられないため、大学の中でも LGBT について教えてほしい。

【H28】

- * ホケカンの支援(簡易診察、カウンセリング[臨床心理士さんによる])に助けられたので、今後もつづいてほしい。また、経済的困窮におちいった時、学費の減免制度のおかげで退学(中退)せずに済みました。今後も学生に手広く手をさしのべてほしい。

【H29】

- * 忌引き制度がないと言われた。
- * 施設の整備に手をかしてもらえなかったもので、意見をきいてもらえらるうれしいです。

Ⅳ.【その他】

1. 地域科学部でよかったことについて、自由に記述して下さい。

【H25】

- * いろいろな学問に触れることができてよかった。
- * いろんなことが幅広く学べる点。
- * 専攻に関して網羅性が大きかったこと
- * 理系科目だけでなく、文系科目にも触れることができたのはとてもよかった。生活しやすい大学環境であった。
- * 広く学べることが一番の利点。
- * 幅広く学ぶことができたので、興味が広がった。自分のやりたいことができた。
- * まちづくりや地域の住民の方々を身近に感じながら、学ぶことができた点。
- * いろんな勉強をすることができた。
- * 学びたいこと、やりたいことが自分で自由に選べる。
- * 単位を取るのが楽なこと、自由な時間がたくさんあること。
- * 様々な学問を履修することができました。
- * 一つの分野ではなく、様々な分野を学習することができたこと。地域の人の関わりをもてる活動に参加できる授業があったこと。
- * 結構楽しかった。
- * 様々な分野を学習でき、視野が広がった。
- * 幅広い知識を身につけることができたこと。
- * 文系の分野も理系の分野も両方学べて良かったです。
- * 少人数ゼミで楽しく学べることが本当によかったです。
- * 様々な分野を学習できたと思う。
- * 入学する時、何がやりたいか決まっていなかったが、様々な科目を履修できて、やりたいことがみつけた。
- * 法学や経済学など、選考するコース以外の分野も勉強できたこと。
- * 建物が新しい。
- * 授業で産官と関わることもできたこと(地域学実習)。
- * 自分の興味のある分野を中心に学びつつ、分野の異なる講義もあるので教養を身につけられる点。
- * 様々な分野の学問が学べた。
- * 様々な内容の講義を受けることができ、勉強になった。
- * 専門科目で様々な科目が学べたこと。
- * 就職にそんなに困らなかった。
- * 自分の専門以外の科目も勉強できることです。「自由」の感じで、考えさせられるところも多いこととです。
- * やりたいことをのびのびと学習できた。
- * 様々な分野のことを学ぶことができました！！
- * 様々な分野の知識を得ることができて満足しています。
- * いろいろな分野の科目を学べたこと。
- * 様々な分野の勉強ができた。
- * 幅広い範囲の学問にふれられた。
- * 得に進路を決めていなかったため、様々な分野について広く学習することができたことがよかった。
- * いろいろな分野が学べた。
- * 個人の時間が多くとれるため、好きなことができたこと。

- * 様々な分野についての勉強ができたこと。ゼミ・セミナーなどの少人数制度。

- * 自由に時間を使えた。
- * いろんな進路が選べること。
- * たくさんの方の分野の講義が受けられた。
- * 教授。
- * 学びたいことを入学後に選ぶことができるのはよい。このような学部をずっと残していい。

【H26】

- * とても楽しい授業が多かった。
- * 教員のみなさんが学生にとってもよくしてくれました。(×4)
- * 自由に勉学に励むことができたこと。(×3)
- * 多くの友人ができた広い分野について学ぶことができた。高校卒業時に考えていなかったことを学べており、自分の進路選択に幅ができたと思う。
- * 様々な分野の勉強ができてよかった。(×15)
- * 先生との距離が近く、違う分野の先生にもお話を聞く機会があった。(×3)
- * 自分の興味に応じて自由に学習できた点(×10)
- * ゼミには非常にめぐまれたと考えています。
- * 様々なことに挑戦することができた。
- * 自分の進む道をゆくり決められるという強みが本当に良かったし、助かった。(×2)
- * 人数が少ないこと(学生の)
- * 柴田先生に出会えたこと！！
- * 講義数が多くないので自由に時間を使える(公務員予備校とかもできた)
- * 多角的視点に身についていた。
- * 社会科学だけでなく、統計学などの授業が充実していた点や、物理学などについても専門として学ぶことができたことが、とてもありがたかったです。
- * 全てよかった。入ってよかった。(×2)
- * 良い就職先をみつけることができた。
- * 現地調査で様々な経験をすることができたこと。
- * 岐阜を好きになったし、岐阜を好きな人たちと出会うことができた。
- * 時間割がほぼ自由に組めたこと。
- * 地域の中にどんどん飛びこんでいける環境だった。なにをしてもいいという自由さがたのしかった。
- * 学務の人がやさしくてよかったです。
- * アットホームな感じで学びやすい環境でした。
- * これまで岐阜に住みながら地元のことについて考えたことがなく、無関心であったが地域の授業が考えることのきっかけとなり、視野や興味が広がった。
- * いろんな分野を学べた。自分の時間が多くもてた。
- * ほかの学部比べて自由に使える自分の時間が多く、自主的に課外活動に取り組むことができ、価値観が広がり成長につながった。

【H27】

- * 入学してから自分のやりたい専門分野を選択できたところ。
- * 2年後期からゼミ配属がされた事・入学後にコース選択ができたこと。
- * 自由に好きなことは何でも学べた。
- * 自分の好きな事ができるので満足です。その分多くの選択肢があるのでよかった所です。
- * 自由に研究ができた事。資料が沢山あり調べやすかった。
- * 地域科学部は比較的自由な学部だと感じました。だからこそ自分の興味のあることを深めることができるし、アンテナをいろいろな分野に広げられると思います。
- * 必修が少なく、自分で選択できる仕組みであったため、興味のある講義を受けることができた。また分野が多様で楽しかったことです。
- * よい学部と考える。
- * よい意味でも悪い意味でも自由。しづりがけない。
- * 大変貴重な経験ができた4年間でした。学びたいことを学ぶことのできる“大学の学び”ができたことは大変ありがたかったです。

- * 各分野の勉強を好きになように受講できたこと。
- * 専門的なことにかたよらず、自分の学びたいことを自由に学ばせていただいたことが結果として知見が広がることにつながりました。
- * 地域について考えられる人になりました。学問全般広く学べたのが良かったです。
- * 様々な分野を学習することができ、視野を広げることができたため入学してよかったと思います。
- * ファイナルワークができたことは良かったし、広く浅くさまざまなことを学べたことは良かったです。
- * 自由に研究することができた。
- * もともと高校時代に進みたい分野を決められず、地域科学部に入学したので、1年間じっくり考えた上で自分の専門を決められたのはよかったと思います。
- * 様々なことについて広く勉強できた。
- * 自分の専門外の科目が学べる。
- * 履修がある程度学生に任されているところ。
- * 自由に学べたこと。様々な分野を取り扱っていること。それに関して教員が多いこと。
- * いい先生たちばかりで先生大好き！！
- * 自分の学びたいことについて、自由に勉強できることがよかったと思います。
- * 卒業に必要な単位も多すぎず少なすぎず、勉学とその他の活動のバランスがとりやすかったことがよかったと思います。
- * 自由な感じが好きです。
- * 自由な意思が好まれます。
- * 自由だっし、自分で行動する姿勢が身について。
- * 様々な科目を勉強することができたので、自分にとってもよい刺激になったと思います。
- * 様々な分野のことが学べるのがよかったです。また、生きていく上で大切だと思われることについて改めて知識を含めて学ぶことができたのでよかったです。
- * 色々なことを学ぶことができました。一つの分野に特化していけないことから、総合的な視野が得られた。
- * ジャンルにとらわれないで、幅広く学ぶこと。
- * やりたいことが明確に決まっていなくても、どうにかなるところ。自分でそれを考えながら学んでいけること。
- * いろいろな科目を学ぶことができ、広く知見が身についた点。
- * 時間が取れるため、自学自習の時間がとれた。
- * 地域に密着した学習が出来た。幅広い分野を学ぶことで、新しい知識を得たり興味を深めたり出来た。
- * 一緒に勉強したり遊んだり出来る仲間に出逢えた。
- * 広くある選択肢から自分の学びたいものを選ぶことができた。社会学を学ぶことができて、自分の視野が大きく広がった。
- * 興味のあることが沢山あったので、それを受講出来たことはよかった(科目が沢山)。ゼミも他の学部よりもはやくはじまるので、好きな学問を専門的に学べるのがよかった。
- 【H28】
- * 多種多様な講義を受講することができたのがよかった。
- * 授業の予定の組み方が他学部と違い、完全に自由だったため、自分の生活スタイル、状況に合わせて組めたこと。
- * 地域科学部の自学自習を促すカリキュラム構成がとても好きでした。課外や、自主ゼミなど、幅広く関心を持つきっかけをもてたのは、カリキュラムの枠組みがあったからこそだったと思います。また、研究に重きを置き、2年後期からの少人数ゼミは本当に価値あるものだと感じます。
- * 自分の学びたいことが自由に選択できること。
- * 教授の方々が非常に親身になってくださったこと。
- * 多分野について学ぶことができたこと。
- * 幅広く色々な分野のことを学べるため、入学後でも自分の新たな一面を発見することができること。
- * 教授が優しい。
- * 大学の中だけでなく、地域等の「外」でも学びの機会を頂けたこと。
- * 様々な分野を幅広く学ぶことができた。

- * 幅広く、文系理系問わず、さまざまな講義を受けることができた点がとてもよかったと思います。
- * 地域学実習や社会活動演習などで様々な研究分野を越えた体験ができたこと。
- * 何でも学べる環境がととのっているところがよかったです。
- * 最高の友だちに出会えた！
- * 幅広い教養を身につけることができたことは、この学部の一歩の誇りです。
- * 自由度が高い。
- * 広く浅く学ぶことができた。
- * 自由に学べたこと。
- * 自由な時間が多く、やりたいこと(部活)に打ちこめた。
- * 時間がたくさんありました。
- * 学部にとらわれずに、興味のある内容を学ぶことができた。
- * 部活と勉強の両方がしやすかったです。ゼミが2年後期からあることもよかった。
- * 多様なカリキュラムのおかげで、色々なことに興味のある人々と仲よくできた。
- * ゼミが少人数制のおかげで、学習がしやすかった。
- * 教員の方が、すばらしい人ばかりで尊敬できた為。
- * 事務の方が親身。ありがたうございました。
- * 自由な研究ができて、自分の思いにかなったことがやれたこと。
- * ファイナルワークができた。
- * 色々なことを広く学ぶことができてよかった。余裕を持って学生生活を送ることができ、課外活動も充実していた。
- * 様々な分野を学ぶことができて、視野が広がったと思う。ゼミ等、先生とお話しする機会が多く、とても影響を受けたと思う。
- * 良い先生達に出会えたこと。
- * 自由度の高い学科であり、自分のやりたいことができた。
- * 学生に対して教員の方々の人数が多く、密度の濃い学生生活でした。
- * 幅広い分野の勉強ができて、視野が広がった。専門ゼミナーでは、先生や先輩後輩と深くかかわることができ、とても有意義な時間をすごせた。
- * 一分野に特化するだけでなく、幅広い分野の科目を学ぶことができたこと。地域学実習の内容がよかったと思う。
- * 様々な分野について自由に学べたのでよかった。また地域の問題に向かい合うことができて考えることができてよかった。
- * ソウル科技大に交換留学ができて本当によかったです。今までの人生の中で一番充実した1年間でした。ゼミとは全く関係のないことなのにたくさん助けてくださった十二村先生には感謝です。先生のゼミでよかったです。ありがとうございました！！
- * 個性豊かな先生方に大変お世話になりました。自由にのびのびと大学生生活を送ることができました。
- * 幅広い分野について学べ、非常に自由な雰囲気です。
- * 先生や学務の方々がとても優しくあたたかい。
- * すごく楽しかったです。
- * 自分のやりたいことを大学に入ってからじっくり考えることができたこと。みんな違うことをやっているの刺激になったこと。
- * 先生や学務の方がとても親切で、いつも丁寧に対応していただいた。他の学部では聞かないことであり、地域科学部でよかったと感じている。
- * 公務員として行政に携わるための勉強ができた。
- * 幅広い学習が専門で出来るところがとてもよかったです。興味ある分野を中心に学べたのがよかったです！！
- * 色々な面において自由度が高いこと。先生方、学務の方がとても親切であること。広く学問を学べること。
- * ゼミの内容が多様であったこと。
- * 自分の興味のある授業を、比較的自由にとれたのはよかった。ゼミが先生との距離が近くよかった。
- * 進路の幅が広がった。
- * 幅広いことが学べてよかった。

- * 授業おもしろかった。
- * 分野が多岐にわたっており、面白い。
- * セミナーの先生に対する学生の数が少なく、より面倒をみてもらえてよかった。
- * 【H29】
- * いろいろな分野の勉強ができたこと。自分の専攻ではないが、興味があることを学べ良かった。
- * いろいろなことが学べたこと。
- * 様々なジャンルの分野を学べたのが良かったと思います。
- * もともと自分の興味があった分野だけでなく、興味の薄かったことや、全く知らなかったこと学ぶことで、とても良かった。
- * 大学の教授も含め、学生との距離間の近い先生が多く、楽しい学部生活だったと思う。
- * 社会の立方やそれに対して自分の身を守る方法など、生きていく上でとてもためになる講義をいくつも受けられました。新学部創設のため地域科学部が祝賀させられてしまうのは心苦しいですが、一学生としてどうか今の当学部が持つよさを保ち続けてもらいたいと切に願います。
- * 様々な分野の学問に触れることができて良かった。
- * 三井先生に出会えたこと。
- * いろいろ学べた。
- * 幅広い分野が学べた。
- * 幅広い科目選択
- * とにかく様々な分野の勉強ができたこと、地域学実習等実践的な勉強を行い学習が深められたこと。
- * 岐阜のことを学べたこと。
- * 良い意味で自由であること。
- * ゼミでの活動の内容が濃いものであったのが良かった。
- * いろいろな方向から物事を捉えたり考えたりすることができるようになりました。学んだことを生かし様々な見方ができるようになりました。
- * 自由な雰囲気でのびのびと勉強できたと思う、ゼミや学友に恵まれたことも、大きいと感じられた。
- * 教育、学問分野、トイルがきれい
- * 幅広く学問に取り組みことができ、知識の幅が大きくなり、コミュニケーションに多様に生かせることができるようになった。
- * 入学してからコースや学科を決められたところ。
- * 実際にまちに出て学ぶことができた。
- * 様々な領域の学問が学べたこと。
- * 研究生が少人数で1人あたりの学習量が十分とれている。
- * 文理を超えた柔軟な学習ができ、大変役に立った。教科書的でない発想を身につけることができた。
- * 専門分野にとどまらず、幅広い分野について勉強できたこと。特にゼミでの学びは本筋に良かったです。
- * 他分野も多く学べていろいろな視点から物事が見えるようになった。比較的ハードスケジュールにならず自分の勉強にも力が入れた。
- * たくさんの思い出ができました。ゼミのシステムが大変良かったです。
- * おだやかなところ(勉学についても、先生についても、友人についても)
- * 色々なことを学ぶことができました。ありがとうございました。
- * 分野を限定せず、様々な内容を学べたことが良かった。
- * 自由に色々興味をもったことを学べた。
- * 様々な分野の学習をすることができた点。少人数のゼミで自分の専門についてじっくり学ぶことができた点。
- * ゼミの同期がいろいろ人だったこと。ゼミの少人数制
- * 地域密着型で地域にある課題の把握、解決方法、これからの見通しなどを学べたのが良かったです。文学部や経済学部などは他大学でも学べますが、地域というのは大学でもまだ数が少なく、その土地独自のものが学べてとても貴重な時間でした。
- * 入ってから自分にあつたものを見つけ、進路を決めることができた。
- * 幅広く学べること!!入学当初とやりたいことが変わりました。本筋に学びたいことが学べる学部だと思えます!!!!
- * 様々な分野のことを学べたところが良かった。
- * 幅広い分野の学問が学べて良かった。ゼミでも自分が学びたいことが学べて良かった。
- * 自分の興味に従って幅広く学べること

2. 地域科学部にに対して期待すること、改善をお願いしたいことなどがあれば書いてください

- * 【H25】
- * 公務員対策を充実してほしい。外部からの先生を確保し、講座をもっと開いた方がよい。
- * よくも悪くも自由すぎ、染すぎるなと思いました。
- * 何単位必要なのか分かりにくい気がしました。
- * コースが多すぎて、地域科学部とは、一体どんな学部なのか不明確だと思う。
- * 法学系の科目を半期15回の講義で行うのは、難しいのではないかと思います。
- * 各セミナーや講座の学生や講師たちと多く交流があればいいと思います。
- * もっと一つの分野を深くしていくとさらに面白くなると思う。
- * 専門性を高めしてほしい。
- * 卒業式後にホテルで謝恩会！！
- * もっとフィールドワークがあれば授業も関連づけた活動ができるのでは。
- * 【H26】
- * 興味を持った分野に対して早いうち(2年くらい)から深く勉強できるようカリキュラムを組んでほしい。
- * 専門セミナーの分野の学習ができる授業がもっとあった。
- * もう少し専門的なことも勉強したいです。
- * もう少し科目を増やしてほしい。
- * 自由でのびのびした学部で、頑張れば頑張るほどやる気のある人は力を伸ばせる。自身の力を問われる学部だと思いました。
- * 文献がさらに充実するとありがたい。
- * コースによって選択できる幅が大きいコースと完全に科目が決まっているコースがあるので、どのコースも選択できると良いです。
- * 学習できる範囲が広く、自分の興味の幅を広げることができた。それと同時に自分が何を専攻しているのか分らなくなる状況に陥りかねないので、最終的には専攻を絞れるように学生を誘導してほしい。
- * 単位の計算をもっとわかりやすくしていただきたいです。
- * カリキュラムが複雑だった。
- * 卒論の中間発表をしたかった。
- * 地域科学部の学生がもっと地域にとびだしていいけると、もっと地域科学部の存在意義が出せると思います。(×2)
- * 大学の授業は高校までの“勉強”とは異なり、知識を増やしてコミュニケーションを円滑にするものだと考えています。よってその知識を活かして課外活動を行えるように機会を提供したり、広報に協力したりと、支援されるとより良いと思う。(×3)
- * 進路支援がもう少し充実すると良いと感じる。(×4)
- * 公務員になる学部というイメージがあるので、そこを変えられるとよいと思う。
- * 自動販売機を配置してほしいです。(×4)
- * 見守ってほしい。
- * 冬の教室がとにかく寒い。
- * 無くならずに続いてほしい。
- * 【H27】
- * 専門的に学習したい分野が見つかった時にその分野に詳しい教員が少ないと感じます。比較的人気のある学問分野の教員の充実を期待します。
- * 編入生に対する扱いに配慮が足りないことが多々あった。
- * 自由な時間が多いと、その分やるかやらないかわからないのは自分次第だと思うので、先生の指導によると思う。先輩も頑張ってほしい！！
- * 女子トイレが2つしかないため回転率が悪かったもので、増やしてほしいなと思いました。
- * コース、学科、講座があまりに感じます。単位計算がやりにくくて、きちんと取得できているか不安

安になります。

- * 講義の時間が重なってしまっ受けていたのに受けられないときがあった。2 年に1回の講義は他の講義と重ねないでほしい。単位は分かりにくく、条件を満たせているのかわかり辛い。
- * 走りながら常に改善していく。
- * もう少し学部としてのまとまりというか頑張る場がほしいと思った。頑張ろうと思っても学部の中で頑張れる場所や機会が少なくと思った。教員免許を取れるようにしてほしい。幅広い学びを求めているからそういった(資格)面、教員免許なども充実してほしいかったと切実に思います。そういうこともすると可能性の広がりが方も違うと思います。
- * 暖房の効きが少し弱いことが何度かありました。困ったわけではないですが、少し気になりました。
- * 特にありません(しいて言うなら、学部棟でスマホの電波がほとんど入らないのは、災害時等で危険だと思います。
- * 女子トイレの個数を増やしてほしい。屋根付きの自転車置場を増やしてほしい。
- * 学びたいことを学べる環境であり続けてほしいです。
- * 政府によって文系学科のカリキュラムが変更されてしまいう可能性が出ていますが、私としてはこのままの地域科学部であってほしいと思います。
- * 英語の授業等で言語に関するだけでなく、国際情勢に関すること等も授業に組み込むのもよいと思います。
- * 学務部の対応、職員さんによって良し悪しがある。単位を数えて下さいとお願した際に1 回目は断られたが2 回目の人はよくいっしょに数えてくれた。
- * シェアールームなどがあればリフレッシュに使えたかなと思います。また完全禁煙など夢のまた夢であるのできっぱり分煙にすべきだと思います。
- * 1年のうちの必修が、自治政、産まち系が多いので、コース選択でそっちにいきがちになってしまふ。
- * 地域学実習のような授業をもっと学びたいと思います。
- * ゼミの定員があふれた場合、どのような基準で選考しているのかを明確にしてみたい。就職活動中、ゼミが有るゼミと無いゼミがあり、不公平に感じたので、統一してもらいたい。
- * いろいろな分野について学ぶ人を育成し、視野の広い人を排出(輩出)してほしいと思う。
- * 隔年開講のものが1年と3年の時に、1年生は受講出来ないため、3年生で受講するしかないが、受講したくても他の講義と時間がかぶる時がある。

【H28】

- * ネットワーク環境の改善をお願いしたい。
- * 地域科学部の、自学自習に對する姿勢や少人数ゼミなど、良いところをこれからも継続・発展していつてほしいです。
- * 全階に渡り廊下をつくってほしい(全共と地域をつなぐ)。
- * 何やってくるかわからない文科系のゼミの活動内容を提示してほしい。
- * 学内の地域科学部の地位向上。
- * 単位取得の仕組みが複雑でわかりにくく、単位がちゃんととれているのか不安になるという点を改善してほしいと思った。
- * 英会話の方がのびるような授業をしてほしい。
- * 文理融合学部であり、地域に根ざした学部でもあるので、その学びの意義と魅力がより磨かれていくことを期待します。
- * 社会で活用できる何らかの資格を取得できるようなカリキュラムがもつとあると良いと思う。
- * 単位取得をもう少し厳しくしてほしいです。
- * ずっとこのまま変わらない「地域科学部」であってほしいです！
- * もう少し厳しく。
- * これからも地域の「良さ」が保ち続けられることを願ってます・・・。
- * 他学部との格差がある。棟付近に自販機をお願い。
- * 就職支援。
- * もっと地域について考えるゼミがあっても良いと思う。

【H29】

- * 今現在の多様性をなくさずに行って欲しい。
- * 経営学部ではなくて、100 年 200 年を地域科学部が続いて欲しい。

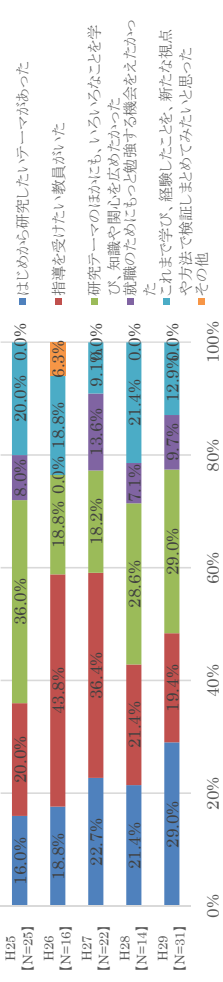
- * 地域学実習のような学習をもう少し増やしたりしてもいいのかなと思いました。
- * 地域科学部がこれから続き、さらに発展することを期待します。
- * ウォーターサーバーの設置、文献量、研究室貸出を向上させる。
- * ほかに大学との交流を行うフィードバックグループがあればより経験や知識が豊富なものになるのではないかと感じた。
- * 外国語や外国文化に関する講義がさらに多いと良いと思います。
- * 専門の知識が浅くならない様にもっと授業の分野を増やしたりそれを実践的にとらえることができる様な授業はこびを
- * 地域科学部を縮小しないで欲しいです。
- * 全共での外国語と応用外国語を全部対応させてほしい。学内の連絡事項をネット等でもっとやりやすいようにしてほしい。
- * 学生の求める幅広い要望に応じ、可能性を広げていくこと
- * 地域というのは例えば他大学に同じ学部があっても立地によって学ぶ内容が異なると思います。これから地方消滅を防ぐために地域の活性化が必ず重要になるのでぜひこのまま存続して地域に貢献する人を生み続けて欲しいです。
- * 開講していない科目がある。広範であるがゆいところに手が届かない感じ

地域科学研究科修士アンケートの集計結果（H25-H29）

※選択肢のある質問は複数回答可としている。したがって、必ずしも単純合計＝回答者数とはならない。

※自由記述回答は原文のまま掲載している。

I．【入学の動機】あなたは、なぜ地域科学研究科に入学しようと思ったのですか。（複数回答可）



その他 【H26】 * 行き場を失って

II．【授業・カリキュラムについて】

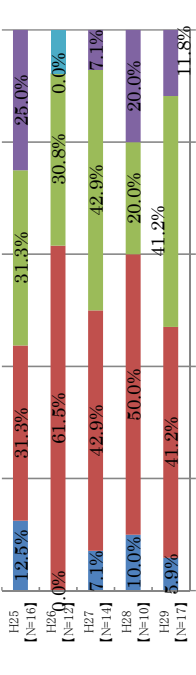
1．地域科学研究科の授業やカリキュラムについて、全体的にどう思いましたか。（複数回答可）



その他 【H26】 * いずれの授業も大変興味深く楽しく受講できました

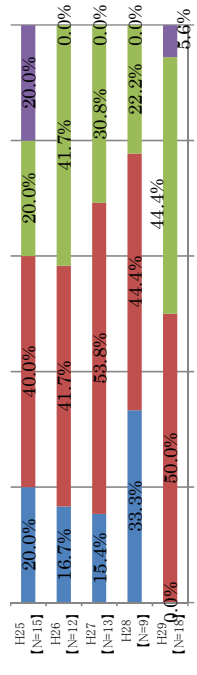
2．講義のレベルはどうでしたか。

2-1 自分の研究テーマに近い

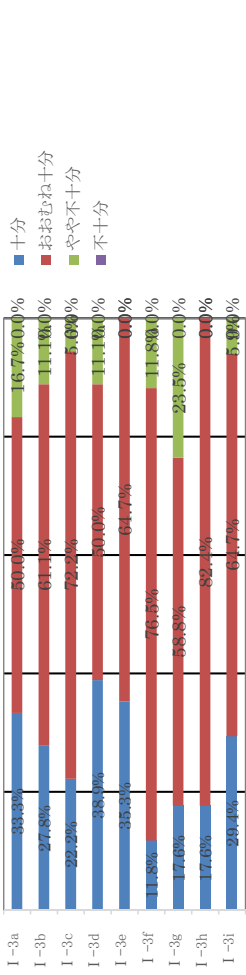


その他 【H26】 * 知的刺激を受けてよかった

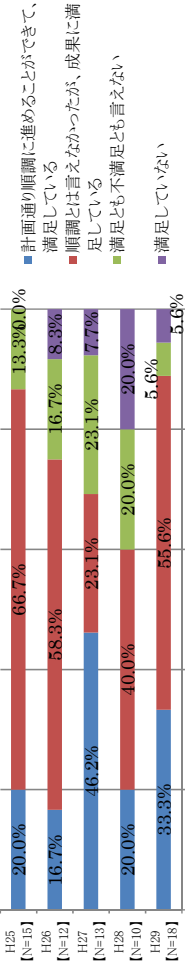
2-2 自分の研究テーマからやや遠い科目



3．地域科学研究科のカリキュラムが目指している以下の能力や知識の向上は、どの程度達成できましたか。a から i までの能力・知識について、それぞれ達成度を次の4段階で評価してください。



4．修士論文の執筆過程について、あなた自身はどう評価していますか。



5．4について、満足できた理由または満足できなかった理由を教えてください。

【H25】

- * この2年半年、論文の研究しながら、自己の視野、国際化考え方も広がってきます。また、論文のことでうちの指導先生及びまわりの方々からいろいろの手伝いしてもらいました。本当に満足しています（1）。
- * 満足。無事に完成、内容充実、研究したいことは全部書いた（2）。
- * 達成感を得ることはできたから（もっとできることはあったとは思いますが）（2）。
- * 時間が足りなかった。もっと出来た。それなりの成果と友を得た（2）。
- * 学力が足りず、やりたいことの半分もできなかったため（2）。
- * 研究がもっとやっていたらいいと思います（2）。
- * もっともっとと考察し、対象に迫った研究をすることができた（3）。

【H26】

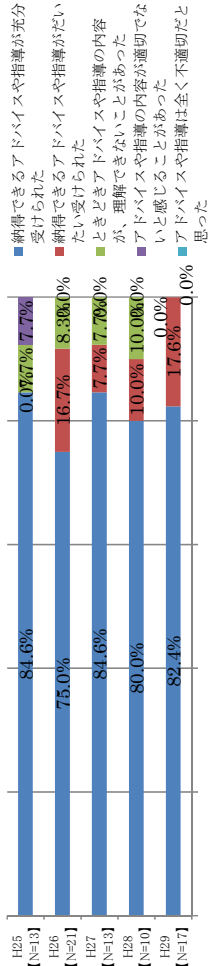
- * 修論を書くために、指導教員とゼミ生の協力を得て、順調にできました（1）。
- * 教員からの指導をたくさん受けられてよかった（2）。
- * 区切りをつけ、次の課題に進めそうです（2）。
- * 書くのが難しかったが、データの結果がよかった（2）。
- * 指導先生からたくさん参考資料をもらいました（2）。
- * 提出直前に教授からの指摘を受け、その誤りを修正するのに徹夜することになったから順調とは言い難かったがそれだけ完成度は高まったから（2）。
- * 論文作成の見通しができるまでは大変だったが、様々な人の協力を得られたことにより作成できたから（2）。
- * 聞き取り調査をしたかったが、できなかった（3）。
- * 面接時に考えていた内容との相違（3）。
- * 自身の能力不足、特に語学力の低さ（4）。

【H27】

- * 自分が執筆したいものはうまくまとめられませんが（4）
- * 予定通りになったことで満足している。（1）
- * 自分の考えをきちんと文章に表せ、まとめることができました。（1）
- * 順調ではなかったが、何とかまとめたので安心している。（3）
- * データ処理は時間がかかった。（2）
- * 大学時代の卒業論文よりずっといい論文を書きました。（1）
- * 指導教員の指導が十分であるから。（2）

- * 勉強になりました。まだ研究していない部分があって、満足できなかった。(2)
- 【H28】
- * もっととめたい事があったから。
- * 研究内容は難しかったが、のり越えてよかったと思います。
- 【H29】
- * とにかく、書き上げられてほっとしている。
- * テーダ(??)をもうすこし豊かにすれば良いと思っています
- * よく一緒にとうろんしていますので、とてもいいと思っています
- * 10月～2月に集中できてよかった。1年目2年目の内容も3年目につながった。
- * 指導教員の質が高かった為
- * 調査人数もっとほしかったなーと
- * テーマへの研究内容につまづきがあったため。
- * 結果としては完成したので

6. 「特別演習」や「特別研究」、「修士論文の執筆」に取り組むにあたって、教員の指導は適切でしたか。



7. 6について、どんな時に適切または不適切だと感じましたか教えてください。

- 【H25】
- * 担当の先生が、資料・文献等よく揃えて下さり、論文を作成するにあたり、とてもありがたかったです (1)。
- * 適切。研究方向、論文書き方、生活指導、日本常識、就職方向 (1)。
- * スライドや論文の添削の際に、適切に導いて頂いた (1)。
- * 指導教員の指導なくして完成しなかった。不満ない (1)。
- * 有本先生は、セミナーの時、学生と意見を交換して、学生の意見を自由に話せました (1)。
- * 方向性があまりよく理解しきれていなかったもので、もう少し道筋が明示されると研究を進めやすかったです (3)。
- * 学会の前の指導で、「これってどうなんでしょう…」と聞くと、「いいからやれ」と言われたこと。/ 修論執筆の際は、ほぼノータッチだった (4)。

【H26】

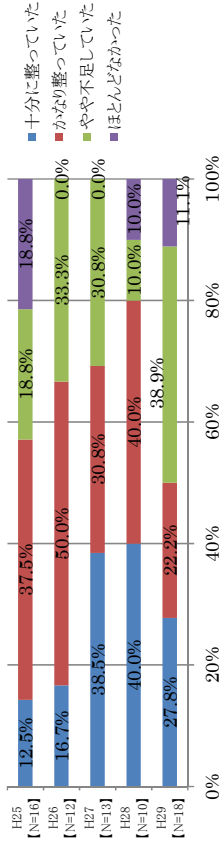
- * 研究内容に関しただけでなく、修論執筆の段取りまで、こまかくアドバイスをもらえてよかった (1)。
- * 指導教官の授業は非常に詳しく説明してくれた (1)。
- * 院生1年でもたくさんさんの本を借して、論文に関する情報をどんどん提供し、日本語の文法の方も直してくれました (1)。
- * 脚注の書き方や原本をあたる必要性の指導、その他論文の矛盾な点の指摘 (1)。
- * 好きなように研究を進められ、放任のようで放任でないところ (1)。
- * 資料、論文などをいつも提供して頂いたり、アドバイスを求めたら、すぐに答えていただいたりしたから (1)。
- * 研究以外の内容についての話だったとき (2)。
- * その時には、すぐに腹に落ちぬ部分はあったが、後々生きてきた (2)。
- * 最初何をすればいいかわからないときに、ヒントをいただいた (3)。

【H27】

- * 授業と論文書いているとき。(1)
- * 自分の考えをすじの通った考えにしていただけが一番です。(1)
- * 困ったときはすぐにアドバイスをもらえた。(1)
- * 最初から最後まで。(1)
- * 指導が充分にいただきました。(1)
- * 自分は留学生ですから、日本語もしくは日本人の考え方についてよくわからない時がありました。そういう時、先生がいつも理解しやすい説明方を考えて、指導してくれました。(1)

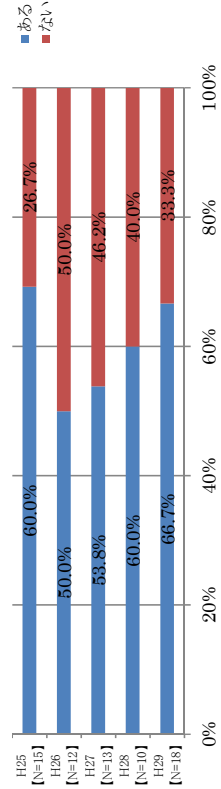
- * 論文の指導は適切だと思います。(1)
- * どんな問題でも留学生がわかりやすく説明して、指導してくれた。(1)
- 【H28】
- * テーマを考えるから、修士論文できたまですと適切だと思う (原文??)。
- * 自由度がなく、進めたい方向でまどめられなかった。
- 【H29】
- * 様々な場面での研究の相談できた
- * 研究を進まない時、(??)
- * たくさん発表でき、いつも先生は、しんぼう強く聞いて下さった。
- * 常に相談を受けてくれる姿勢だった。

8. あなたが、「特別演習」や「特別研究」、「修士論文の執筆」に取り組むに当たり、大学には文献・資料等がありましたか。

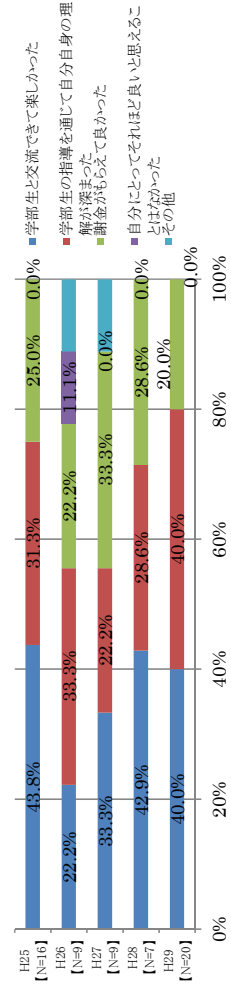


Ⅲ. 【TA (ティーチング・アシスタント) について】

1. T A になった経験はありますか？



2. 「ある」と答えた方にお尋ねします。T A になって良かったことは何ですか。(複数回答可)



その他

【H26】

- * 自分の生まれた土地や関係のない土地における実情や課題を把握し、いかに解決していくかを、調査方法も含め、理解できた。一筋縄ではいかない事案ばかりではあったが、その難しさや、課題解決に向けた動き、そして成功できた時の喜びは、TA として活動をして良かった点であると考える

【H27】

- * 勉強しました。

3. あなたは、T A 制度をどのように改善するとよいと思いますか。自由に書いてください。

【H25】

- * 座学のT A と、学外実習のT A では負担が大きくなってきます。内容によって時給を変えてみるというと思います。(検証が難しいですね。)
- * 座学のT A と学外実習のT A では時給を変えていただけると助かります。(疲労度が全然違う。)
- * 多くの優秀な学生に知らせ、いろんな国の学生と交流し、互に学習しながら、自分自身も指導を経験することができるよう改善するとよいと思います。
- * 広く、色々な講義に携われる場合もあるとよいと思う。
- * 特になし。
- * 実習の補佐に入ったが、他大学の学生であつたため、実習の流れを上手くつかむことができず、苦労しました。
- * タイムカード制にすればいいと思う。
- * 特に、なし。

【H26】

- * TA と併用しての自分の研究を進めることは厳しく、滞ってしまった面もある。先生から任せきりにされた、委任された面が多かったので、改善してほしい。
- * 院生ならではのと思えるものになると良いと思った。

【H27】

- * 時間はもっと多い方がいいと思っている。
- * “R”は事前説明が欲しい。(情報演習)
- * 特になし
- * 生活についてだけじゃなくて、日本語や日本についても教えた方がいいと思う。

【H28】

- * クラブ活動的 (R)、社会活動への展開があるとよいと思う。
- * 指導される学生の教授による推薦する制度を作ったら、TA の効果も高まると存じます (原文R)。

【H29】

- * よくわからない

IV 上記の他に、地域科学研究科に在籍して、感じたことや考えたことを自由に書き下さい。

【H25】

- * 地域科学研究科に在籍して、感じたことは多彩な研究分野が設けている。いろんな国から来ている学生もいる。皆と交流できてよかったと思った。自分が学びたい科目を設けていて、自分の専門性を高められることはとても幸せなことだと感じた (属性： 留学生)。

- * 色々な知識を勉強になり、充実な修士の二年間を過ごしました (属性未記入)。

- * 先生が退職されるなどして、シラバスに、「本年度未開講」の講義がいくつかあった。翌年度も、すぐに補充されることがなかったので、結局受講できなかった。/ 先生のゼミ (授業) の進め方で、多少大変でも、最初に先生との取り決めで、テキストを予習しておくことが徹底していれば、先生とゼミ生の間で議論が深まると感じた (属性： 社会人)。

- * 学務の対応、もう少ししっかりしてほしいです (属性未記入)。

- * 他の院生と親しくなれるような取組があればいいなと思います (属性未記入)。

- * 院から地域科学部 (研究科) に所属した人は知人が少なく寂しい学生生活になりました。講義やその他のを通して交流の機会があればよかったです。でもい3 年間でした (属性未記入)。

- * 全体的に暗い。地域にどの様に貢献しているのか地域に住んでいて見えない。地域科学部のアイデンティティがみえない。幅広いのは良いが幅広すぎる (属性： 社会人)。

- * 今までの研究と、異なった視点を得たくて入学したが、その異なった視点の間のミゾを埋めることができなかった (属性： 学部進学)。

- * 文・理どちらからのアプローチが可能という学部の触れ込みであるが、授業として学べても文理融合的な研究は難しい。学生のスタイルに合わせて、例えば副指導教員に文・理どちらからも携わって頂けるとよいと思う (属性未記入)。

- * 特に、なし (属性： 留学生)。

【H26】

- * この2 年間に先生たちのやさしい、丁寧に知しきを教えて外人の格差を感じなかったが感動しました (属性： 未記入)。

- * 2 年間ではありましたが、充実した時間を過ごすことができました。先生方は熱心にご指導いただいた事感謝しています。ありがとうございます。(終了できることを前提として) (属性： 社会人)。

- * 社会人になってもまた参加したいゼミ・講義が多かったです (属性： 学部進学)。
- * 学問的刺激を与えられ、自分の活性化につながった (属性： 未記入)。
- * 二年間、感謝です！ (属性： 未記入)。
- * 博士課程がないので中途半端になりがちではないか (属性： 社会人)。

【H27】

- * 留学生にたいする TA 制度があつてよかった！！日本の生活についていろいろ勉強した以外、みんなとなか良しになった。
- * いろいろな知識を身につけてよかったと思っている。
- * 3 年間通いしましたが、毎日充実し、論文を書くことをして精一杯努力でき、ありがたかったです。これを生かして、どこかの大学で講義がしたいです。
- * 単位の取り方がわかりにくいので、もう少しわかりやすくしてほしいです。

- * 研究室の中にプリンタもない、こまりますね！

- * お世話になって、どうもありがとうございます。

- * 地域科学研究科に在籍することとはとても幸せなことです。自分の研究についてはよく満足しています。自分の研究以外の科目では、いろいろな新しい知識を勉強しました。地域科学研究科の先生および事務の先生達に感謝の気持ちを申し上げますと思います。

- * 地域科学で、研究するテーマについて勉強し、研究して、楽しくて、楽しくいろいろな勉強できました。先生と学生でも優しく、先生から専門的な知識が教わりました。楽しく充実な院生の学生時代でした。

【H28】

- * 長期間にわたり研究等に関わって預 (R) きました皆様には大変感謝致します。自分の生涯学習及び生涯現役に今後生 (R) される様 前進してまいります。特に指導教官として幅広く理解預 (R) けました事には真から感謝申し上げます。

- * 文、理共に充実した学びの環境でした。多くの相談にのっていただきました事、お礼申し上げます。

- * 3 年間ありがと (R) ございました。

【H29】

- * 土岐先生にご教示いただき、感謝しています。

- * (II-8 について)大学以外の図書館も利用した。

- * 先生が各分野にいられるので学際的に学べてステキでした。

- * 学部とは異なり、幅広い年齢層の方々と関われたこと、各ゼミや先生方との距離が隔たりなく接点を

- * 持つことができ、勉学のみならず、学生生活についても充実した日々でした。

- * とても充実した6 年間でございました。ゼミ、最高でした！

●社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜県域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の8つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休業期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨てフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。

●地域学実習

地域学実習は、3年生の前期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の9プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。

社会活動演習報告書

目 次

1 裁判所・刑務所見学及びその成果発表	p. 1
担当教員 三谷 晋	
2 知的障がい者の授産施設：第二いぶき	p. 10
担当教員 竹内 章郎	
3 市民ラジオ番組の制作&番組企画・出演	p. 19
担当教員 野原 仁	
4 障害のある若者たちと一緒に創る「青年学級＝カレッジ愛」	p. 25
担当教員 土岐 邦彦	
5 「子育て支援」イベント（づくり）体験をしてみませんか！ —大学生が地域の「子育て支援」に参加する（14）—	p. 33
担当教員 近藤 真庸	
6 子どもの自然体験教室のサポーター	p. 49
担当教員 稲生 勝	
7 岐阜市歴史博物館で作業する	p. 51
担当教員 加藤 公一	
8 名証 IR エキスポ 2017 と名古屋証券取引所	p. 58
担当教員 三井 栄	

平成29年度

岐阜大学地域科学部

1. ねらい

本演習では、裁判所・刑務所見学を通して、受講生からすればもともと縁遠く、恐怖と憎悪の対象になりがちな人々（受刑者・被告人）の処遇等を実際に観察し、彼ら・彼女らが受刑者となる経緯やその更正や復帰、さらには地域社会（当然受講生を含む）との関わりを自己の問題として把握・検討してもらうことをねらいとしていた。今回は犯罪者・前科者を事例に社会から排除される人びとについて考えたが、排除されている又は包摂されるべき人びとが他にもいること、意識だけでなく社会的な仕組みも検討すべきことに気づいてもらいたいと思っている。

今回、参加学生には刑務所・裁判所見学の前に、刑務所の機能、犯罪の発生原因と防止方法、犯罪者の再犯とその原因等に関する研究論文を読んでもらった。見学の目的・動機等をはっきりさせ、主体的に見学してもらうための工夫であった。その後、刑務所(笠松女子刑務所)と裁判所(岐阜地方裁判所)を訪問し、実務家である刑務官や裁判所の事務員の方々からお話を伺い、受刑者の実態、裁判プロセス、受刑者となった経緯や更正について理解を深めた。またお話を伺うだけではなく、実際に施設を職員の説明を受けながら刑務所内を見学裁判所の刑事事件の裁判傍聴をし、現場のリアルさを体感してもらった。

その後、さらに別の犯罪者の社会復帰に関する論文等を読んでもらい、発表してもらうことにした。その発表会の際には、保護司業務の講義を岐阜保護観察所の石田さんにおいていただき、保護司の更正支援等の実務の話をうかがった。石田さんには発表会に最後までいていただき、実務の観点から学生の発表にコメントをいただいた。学生の発表は、論文への考察と見学での体験をうまくおりまぜており、石田さんからも高い評価をいただいた。

学生にはその発表会で石田さんから頂戴したコメントをふまえ、再度、練り直したレポートを提出してもらった。

2. 学生レポート

以下にあげるレポートは、今回の演習の学生レポートの一例である。上記「ねらい」は概ね達成できたように思う。みな良質のレポートであったが紙面の関係から、すべては載せられないため、数名分を紹介するにとどめる。

1 裁判所・刑務所見学及びその成果発表

【学生レポート】

「刑務所・裁判所を見学して考える社会的包摂について」

1177010071 中山 あずさ

—はじめに—

私は、この社会活動演習に参加するまで“罪を犯す”ということとはどのような理由があったも許されないことであり、犯罪者には厳しくするべきだと考えていた。しかし、保護司の方や刑務官の方のお話を聞いて彼らもまた私と同じ一人の人であり、人は誰でも失敗することはあるということに強く感じ、大事なことはまず、“なぜその人は罪を犯してしまったのか”を被害の大きさなどには関係なく、きちんと耳を傾けるということだと思った。

そこで、これまでの自分の考え方を振り返ると、やはり何も知らず、そもそも知ろうともせず、に罪を犯してしまった人を一概に“犯罪者”として心のどこかで距離を置きたい存在として認識していたことが一番の問題だと思った。私がそのような考えを持っていたのはこれまで私の生活や人間関係などあらゆる面で私は何自由なく過ごしてきたからだと思う。また、“犯罪者”と“犯罪者でない人”との差は周りの環境の差だと感じた。犯罪に至るまでには経済的な問題、人間関係、家庭環境といった様々な問題がとも複雑に絡んでおり、そうした自分を取り巻く状況の変化によっては“自分は犯罪とは縁遠い”と感じている人でも罪を犯してしまう可能性は十分にあると思った。そのため、どのような背景でそこに至ったのか、その要因は決して本人だけにあるわけではないということ私を含め、より多くの人が心に止めておくべきだと思った。

—見学を通して—

裁判所見学ではまず裁判の傍聴をした。初めは正直怖かった。思っていたよりも被告人と傍聴席との距離が近かったからだ。想像以上に裁判は淡々と進められていったが、一番印象に残ったのは検察の方が読んでいた被告人らの犯行に関する内容だった。これほどの証拠を集め、とても細かく日時や計画、行動を調べて資料を用意するのか、と少し驚いた。傍聴をした後は保護司の方のお話を聞いた。そこで“本人のためにも厳しく”と考えていた私の考えは一転した。突き放さずにきちんと寄り添うことも大切だと分かったからだ。特に未成年の場合、その先の人生がまだ長く、将来に対する不安や周囲との関係に悩んでいる人も多いということがわかった。映像資料からも心理学や社会学など様々な専門知識を備えた保護司の方の役割はとて大きく感じた。単に自分の犯したことの大きさや罪の意識を感じるようにはあおるのではなく、なぜそれをしたのか、それがなぜしてはならないことなのかを自分自身で考えられるようにサポートし、考えていることや悩みを引き出すということは容易ではないと思った。しかし、それが出来ればきつとその人の周囲に対する考え方、あるいは周囲のその人に対する考え方・態度も変わると思った。

刑務所見学では初めて知ることがとても多かった。今回見学したのは女性刑務所だったが、まず刑務所に入っすぐ思ったのは“静かだ”ということだった。私は“受刑者”や“刑務所”に対して根拠のないイメージを多々持っており、その多くが今回の見学で改められた。例えば、身なりである。女性ということもあるかもしれないが、想像よりも清潔感があった。毎日お風呂に入れるわけではないようだが、作業報奨金によって多少の日用品も購入でき、私の想像よりは良い生活を送ることが出来るのかなという印象を持った。そして最も驚いたのが充実した職業訓練である。やはり刑務所を出た後のことを考えて設けられている制度であり、とても重要だと思った。何か目標を立てればそれが生きがいにもなり、出所後は身につけたスキルや所

得した資格で就職する際に選択肢の幅が広がり、受刑者にとってもその役割はすごく大きいと感じた。

だが、高齢の受刑者はそうはいかないとも思った。年齢や体力的に就職できる状態でない方もみえるはずであり、そうした方々はきつと出所後の目標も見つかりにくいと思った。さらに出所後に頼れる人がいなければ、生活はきつと棄ではなく、最低限の生活は送ることが出来る刑務所に戻りたいと思うしまい、“再犯”を繰り返すという可能性も低くはないのではないかと思った。

しかし、それが事実だとしても“高齢者だから”といって指導をあきらめる理由にはならないということを知ることが出来た。社会活動演習の報告会で岐阜保護観察所の石田さんに上記のような高齢者の方について話を伺った際、石田さんは「考え方を変えるということとは難しいかもしれないが、きちんと問題点を探せば変えられる部分はある。」とおっしゃった。例えばお金の管理、使い方である。持っている限られたお金を何にどう使うのか、次にお金が入ってくるのはいつか、などを把握して先のことを考えて生活していくように指導することも重要なことであるそうだ。確かにお金を使い方も生活が苦しくなって再び犯罪をすることに大きくなることの1つだと思うため、すごく納得することが出来た。

—社会的包摂について—

上記のことに加え、見学の前に読んだ論文を踏まえて私は、“犯罪”あるいは“再犯”には本人の意志だけではなく周囲の環境や社会全体として犯罪者に対する考え方、制度による影響が大きく関わっていると考えた。どれだけ努力しても“受刑者”ということから働き口が見つからないことなどは本人だけではどうすることも出来ないからだ。論文に、「社会的排除を測る指標として、欧州共同体では『低所得、失業、地域社会の低い凝集性、早期の学校離脱、不健康な状態』などを挙げている。実はこの指標に最もよく当てはまるのが元受刑者であり、また、衰退した地域から多くの犯罪者が出ていることが認識されている。」(課題研究 犯罪者の立ち直りと犯罪者処遇のパラダイムシフト 犯罪者の立ち直りと地域のパートナーシップ/犯罪社会学研究 第34号 2009年)とあることから、そもそも犯罪に手を染めてしまうのを防ぐという点においても、再犯を防止するという点においても、生活環境に対する配慮の必要性は否めない。だが積極的に社会的包括政策を行ってきたイギリスとは異なり、日本では国や地域を挙げて社会的排除を克服する動きはない。その原因の一つとしては個々が自分の生活のことを考えるので精一杯だということもあると思う。しかしそうした社会的弱者と位置づけられる人々を支援するだけでなく、その人たちが社会的弱者になってしまっている“原因”を追及し、その“原因”を解決することは社会全体としてもとても重要なことだと考える。解決することは容易ではないが、解決していくこうとする姿勢がまず大切だと思う。そのためにはまず、私たちがこうした事についてもっと関心や問題意識を持ち、学んでいく必要があると考える。今回の見学や保護観察所の石田さんのお話を聞いてより強くそれを感じた。

—さいごに—

私はこの社会活動演習を通じて自分の無知さに改めて気づいた。無知であることにすら気がつかなかった為に、受刑者に対して勝手なイメージをずつと抱いていた自分を恥ずかしくも思った。だが、見学を通じて社会的弱者や受刑者にとつて何が必要なのか、何が問題なのかを肌で感じ、考えることが出来た事は私にとって大きな成果だと思う。今後も視野を広げてくさんの知識をつけていきたい。

私はこれまで社会的包摂について深く考えたことも考える機会もあまりなかった。しかし、今回社会活動演習で裁判所や刑務所を訪問したり、保護観察所で働いている人の話を聞いたりしたことを通して、社会的包摂について自分なりの考えを持つことができた。まずは裁判所と刑務所、それぞれを訪問した感想から示したい。

裁判所で実際に裁判を傍聴してみても、予想以上に厳粛な雰囲気の中で淡々と裁判が進められていることに驚いた。また調査官の方の話を聞いて、調査中は非行者の本当の気持ちを知るために気持ちを抑えて責めないことを心掛けているとおっしゃっていて、非行者と接する時はお互いに気持ちよく接しているということが分かった。岐阜家庭裁判所で実際にやっている社会奉仕活動として、非行者に被害者のことを考える機会や、芋掘り体験、商店を営む人にお話をしても、自ら機会を上げるための工夫をしているという話が印象的だった。もちろん非行者は自分が犯してしまっただけの罪を反省することも大切だが、その後どのように社会と適合していくかを考えることも大切なのだと感じた。そういった意味で先に述べたような活動は非常に有意義で、社会的包摂、つまり社会的に弱い立場の人も含めて社会の一員として受け入れるという概念に基づいていると考える。

刑務所では罪が重く部屋から出られない人から、工場で働く人や、食事を作ったり職業訓練を受けたりしている人など、刑務所の中でも様々な役割分担がされていることが分かった。受刑者が罪を償い社会に出たときにきちんと働くことができるように、職業訓練という取り組みがなされていてこれこそ社会的包摂の一つであると感じた。またそこで働いている刑務官の方の話で、受刑者と対話をしていてちょっととした言葉が相手に響いたと感じる時や、前向きに生きようとする受刑者が成長している姿を見るときや自分がいい感じだとおっしゃっていたことが印象的だった。また受刑者が再犯しないように社会に接してほしいこととして、一生懸命立ち上がる姿を受け入れてほしいとお話されていて、一度罪を犯したからといって社会から排除するのではなく受け入れていく姿勢も大切なのだと感じた。

以上のように、裁判所と刑務所の訪問を通して私は現状を知り、罪を犯してしまった人を社会がどう受け入れていくか、どのように支えていくかを考えさせられた。やはり罪を犯してしまうのは、現状に不満があったり、何か気がかりなことがあるたりと様々な理由がある。

そのような人達が社会に復帰するには、自分だけではなく他人のことも考えて行動ができるように思いやりや心の養いが必要だと考える。そのためには、人や地域社会と関わる機会を与え、成功体験をすることによって、自分に自信を持ってもらうことが大切である。

また犯罪を起こす前に周りに困っている人が手を差し伸べられる社会であることが理想であると考えた。例えば少年が学校でトラブルがあったり、悩みごとがあったりした時に、自分の家族や学校の先生にそれを打ち明けることができたら身が軽くなり、突発的に犯罪を起こすことが少なくなるかもしれない。一人で抱えこむことのしないように困りが異変に気づき寄り添ってあげることが大切であり、それこそが社会的包摂に繋がっていくと私は考える。

しかし、保護観察所で働いている方々の話にもあったように、現実的には釈放受刑者の再犯率が高いというデータがある。やはり受刑者は生活面や精神面で問題を抱えているケースが多い。釈放されても生活が再建できなければ再び犯罪を起こす可能性が高い。犯罪者を社会に統合して再犯を防ぐためには国や周からのサポートが必要不可欠であると考え、日本では受刑者

は釈放後、国から何らかの支援もなく社会に戻されている。イギリスでは犯罪者処遇がもっと重要視されていて政府による社会的包摂対策が充実している。国によって価値観や考え方は異なるが、日本もイギリスの犯罪者処遇から学ぶべきことは多く、弱者を社会全体で支援できる基盤づくりをする必要がある。

犯罪をした人や非行のある少年の立ち直りと再犯を防止するための更生保護制度の一つに保護観察があり、実社会の中で保護観察官と保護司が協働して指導監督を行っている。保護司の方は民間ボランティアであり、その地域の事情をよく知っているという特徴がある。その地域で暮らしているからこそ分かることも多く、保護観察対象者も心を聞きやすい。犯罪者を排除するのではなく、近隣地域に統合してこそ、地域に安全がもたれるため、地域が生んだ犯罪者を、地域で更生支援していく必要がある。

では私たちには社会的包摂のために何ができるのか。具体的に犯罪者の更生支援すること、は難しい。しかし、まずは身近な人を思いやったり、高齢者に気を遣ったり、そういった小さなことの積み重ねが社会的包摂につながっていくと私は考える。

参考文献：「犯罪者の立ち直りと地域のパートナーシップ」小長井賀興
：「非行少年たちの家族関係と社会的排除」岩田美香

「裁判所・刑務所見学レポート」

1177010090 福井 菜月

この社会活動演習では刑務所の見学、裁判の傍聴と保護司の方のお話を聞くという貴重な経験ができた。また、罪を犯してしまった人たちがどのように裁かれたように更生を遂げているのか、今まであまり気にしたことなかったテーマに興味をもつきっかけにもなった。

はじめに裁判所では刑事裁判を傍聴した。内容は自分が考えていたより形式的なもので、被告人が弁護人に返事の内容を指示されていたことに驚いた。次に保護司の方のお話を聞いた。保護司とは犯罪や非行を行った人の更生を助ける仕事で、少年の生活再建を図るために、保護者を含めた面会や行動の制限、学校の教員と情報を共有するなど様々なアプローチを行っていることを学んだ。

笠松女子刑務所の見学では、印象的なことが三つあった。一つ目は高齢者が多く収容されていたことだ。居室を見学した際に大人用のおむつがいくつも見られたことや、作業室で高齢者が多数作業している様子、乳母車を押して歩いている受刑者をみて、刑務所でも高齢化がすすんでいることがわかった。二つ目は、職業訓練の支援がしっかりと行われていたことだ。美容師やビル清掃の資格をとるための設備が整っていて、あくまで刑務所では社会に復帰すること、師が第一に考えられていることが伝わってきた。三つ目は、受刑者にある程度の生活の質が保障されていたことだ。見学に行く前は、集団部屋の中にトイレがあり、コンクリートに囲われている無機質な空間をイメージしていた。しかし実際は畳敷きでトイレも別にあり、時間に制限はあるもののテレビや新聞も見られ、ときには人間関係も考慮してもらえて、正直そんなに苦ではない生活が送れそうだと感じた。世の中には受刑者よりも苦しい生活を強いられている人もいるのではないかとも思った。

刑務所の方のお話によると、再犯によってまた刑務所に戻ってきてしまう人も少なくないということであった。刑期が終われば社会に戻っていったとき、周りとながりのない孤独感と安定しない生活を強いられる環境の中で暮らさなければならぬとして、その生活とある程度の質が保障されている刑務所の生活を天幹にかければ戻りたいと思うってしまう人もいるだろうと

感じた。一度前科がついてしまうと仕事をしにくくも働き口がなかなか見つからなかったり、世間から冷たい目で見られたりするために、社会復帰が難しくなることは容易に想像がつく。収容者の平均年齢が 48 歳と高いことや高齢者が多いのは、若い人と比べて再就職が難しいことも理由として挙げられるのではないかと考えた。

再犯率を減らすためには、社会に戻っていったときに「自分の居場所があること」「が、必要不可欠なのではないだろうか。仕事や地域とのつながり、経済面での余裕がある程度確保されてはじめて本当の意味での社会復帰がかなうといえる。実際に保護司の方の話でも、非行をおこなった少年たちに対して芋ほりや老人ホームでの手伝いなど、社会の中に実際に参加させるような取組の排除を受けている人々を、いかに社会に包摂していくかが治安維持のために重要な課題となっているそう。特にイギリスでは、犯罪者を生活人の一人として認識し、地域社会に再統合していくという取組みが行われている。(犯罪者の立ち直しと地域のパートナーシップより)ここからわかるように、刑期を終えた人間が社会復帰を果たすには、居場所を確保することで社会とつながりを持たせ世間が同じ市民として輪に入れることが必要だ。しかし現在の日本では「前科者」「という言葉があるように、犯罪者の対する世間の目は厳しく、罪を犯した人間が生活人の一人として社会に認識してもらうことは難しい。

こうした状況をふまえて、再犯を防ぐための解決策を三つ挙げる。一つ目は、釈放後の調査をすることだ。刑務所の方は、知らせがないのは良い知らせだと話していたが、実際に刑務所内で行われてきた職業訓練がどう活かしているのか調査なしではわからない。どのような取組みが再就職のために役に立ったのか、または役に立たなかったのかを知り、支援の仕方を改善していくためには追って調査するべきである。二つ目は、刑務所と社会の結びつきを強めることだ。刑務所というと、内部で何が行われているのかわからない、封鎖された縁のない場所というイメージが強い。私も今回見学に行っはじめてわかったことがたくさんあった。受刑者が釈放後に社会に受け入れられてもらうためには、どんな所でどのように更生してきたのか周知されている必要がある。笠松女子刑務所では見学会や催し物を開催するなど、外部に開いていくことで地域に受け入れてもらえる施設を目指していた。こうした傾向がもっと広がっていくことが大切だろう。三つ目は、犯罪者は社会から生まれるという認識を広めることだ。正直この社会活動演習に参加するまで、犯罪者は自分ひとりの都合のための犯罪に手を染め周りに迷惑をかけた、といった認識だった。しかし、犯罪者が生まれる背景には、貧困や家庭環境、不安定な雇用など、ひとくくりにはできない社会の問題がたくさん関わっていることを知った。私も今回このような機会があるが興味をもって積極的に調べない限り、考えもしなかったと思う。更生支援を行う保護司の方を中心に犯罪が起こってしまう背景についてもっと広めていけば、社会全体で犯罪を考え、罪を犯してしまった人たちの生活再建に協力していただけるのではないだろうか。

「犯罪者に対する偏見とその払拭」

1177010027 加藤 薫子

私は、裁判所と刑務所を見学する前に事前学習としていくつかの論文を読んだ。事前学習をするまで、犯罪者はどこか異常な側面を持っていると思っていた。しかし今回論文を読み、裁判所と刑務所を訪れリアルな現場を見て、そして後日保護観察官の方のお話を聞くことでその考えを改めることとなった。それは、実際に現場を見る機会を得て、受刑者が犯した非行の経緯や背景、内容を刑務所の方々に聞き、学ぶことができたからである。

今回の実習を通じて、私は非行を犯す人には貧しい環境の中で育った人や、虐待や暴力を受けてきた人、母親や父親がおらず児童保護施設で育った人などが多いといった何かしらの事情を持つ人が多いということを知った。そして、現代の社会は犯罪をしたことのある人に対する目がとても厳しい現状があるという問題も抱えていることも知った。刑期を終え、罪を償うことを全うした人に対しても同じことが言える。人々は犯罪者や受刑者に対して良い印象を持っていない。そして、それにより彼らは一層の苦勞をしている現実がある。そこで、私は一般の人々が受刑者に対して寛容になることが必要だと考えた。

裁判所では、初めて裁判を傍聴し、実際に裁かれる人やその現場を目の当たりにした。間近で見える裁判官や被告人、そして被告人の手首に付けられた手錠や腰に巻かれた紐を見たときの衝撃は予想していたより大きかった。被告人の顔は先入観からか、「悪い人の顔」に見えてしまうことがあった。しかし、ただ疲れているだけのようにも見え、たとえ彼が外を歩いても、たととしても普通の人の人しか見えないだろうと思った。犯罪者というレッテルが貼られていても、外見はほとんど「普通の人」と変わらない。だからこそ、私たちはその人が罪を犯したことがあつたという事実を知った途端にその人に対して先入観や偏見を持ち、その人は「普通の人」ではなく「犯罪者である」という認識をしてしまう。そのため、犯罪者は刑期という義務を果たし終えてもその後の人生を苦勞して送ることとなる場合が少なくない。中には一日を生きていくのが精いっぱいという生活を強いられている人もいる。そのような人がより良い生活を得るために、私たちは彼らを受け入れる必要がある。

刑務所では、実際に刑務所内で働く女性受刑者の姿を見た。彼女たちが働く環境は少し冷たく感じられた。なぜなら彼女らはテーブルに規則正しく並んで座っており、彼女らを監視する人がおり、その監視員から彼女らへ発せられる言葉が鋭かったからだ。その上、その言葉は私たち見学者へ興味を含む視線を向けずに仕事に集中しろというものだった。そこで私は、むしろ自分が働いている受刑者に対して好奇の視線を送っていることに気づき、申し訳なく思っていた。そこで働くのは受刑者であり、言い方を変えれば非行を犯した普通の人の人だ。立場は違っても中身は私たちと変わらない。中には自分の母や祖母くらいの年齢と思しき人もおり、受刑者というのは案外特別な存在ではないのだとより強く感じた。彼女らは綺麗で繊細なアクセサリーを作っていた。私は受刑者とアクセサリーというふたつの差異に面食らった。現場を実際に見るまで私は、受刑者は地味な作業をして地味なものを作っていると思っていた。

そして、保護観察官の石田さんのお話を聞き、印象に残ったお話がある。それは、非行を犯した人が「先生は話を聞いてくれるから好きだ」と言ったという話だ。つまり、彼らの周りにはいる人々は彼らの話を聞こうとしないのである。彼らは話を聞いてくれる人が欲しかったのかという彼らのその素直な気持ちに私は間の抜けた声が出るような驚きを感じた。彼らの話を聞いてくれる人がいないのはなぜなのか考えてみると、彼らの周りの人間が彼らの話を聞いても意味がない、話を聞く必要がないと感じてしまふからではないだろうかと考えた。特にそれが彼らの身近な人、たとえば家族や友人、学校の先生であれば少年たちのいる環境はより窮屈なものになってしまう。そういった環境が非行の直接的要因でないとしても、彼らの周りの人間が彼らの行為の原因の一端を担っていることを否定することはできないのではないだろう。こうして、私は犯罪者や受刑者に対して多くの勘違いをしていたことに気づかされた。

私がこの体験を通じて気づいた勘違いは、私だけでなく日本に住む多くの「普通の人」が持っている固定観念である。つまり、実際に犯罪者や受刑者を目の当たりにして彼らが決して異常で特別な存在でないことを認識しない限り、私たちの偏見や固定観念が払拭されることはな

い。では、どうすればその固定観念は払拭されるのか。そして前述したように、どうすれば彼らに対して寛容になれるのか。それは私がしたように彼らを実際に見て、実態を知り、知ることが必要である。

たとえば、裁判の傍聴が一般に公開されていることは周知の事実だろう。裁判員制度も施行されている現在、実際に裁判所に訪れ、裁判を傍聴するのは犯罪者を身近な存在だと感じることのできる良い機会である。一方、刑務所は一般公開されているのか気になった。調べてみると、一般人でも施設に問い合わせれば可能ということだった。施設によつては見学会を開いているところもあるという。私がこの事実を知らなかったように、この事実を知る人はかなり少ないだろう。もし興味があればぜひとも行ってみてほしい。そして私のように衝撃を受け、見たものを受け入れてほしい。そのように社会に復帰した人への対応は変わる人が増えれば、犯罪者や受刑者、刑を全うし社会に復帰した人への対応は変わるだろう。そうして人が変われば環境や社会も自ずと変わり、社会に復帰した人々も生活しやすくなる。

今回の体験は私の価値観を変え、固定概念を払拭し、犯罪者に対して寛容になることの必要性を考えさせる貴重な機会だった。現代の社会には刑期を終え、社会復帰を試みてもそれを快く受け入れない風潮がある。だからこそ、私たち一般人が彼らについて知ることこそが彼らが生きやすい環境を作るうえで非常に大事なこととなる。

「刑務所・裁判所見学を通して考える社会的包摂について」

私は、今回の社会活動演習で、実際に裁判所と刑務所を見学し、お話を聞かせてもらう貴重な体験をした。今までもこれからも関わることはないと考えていたため、見学先では知らないことも多く、犯罪の経緯や更生など様々なことを知り、今後私たちがどの様に過ごすべきかを考える良い機会となった。

刑務所の見学では、私の想像とは大きく異なる受刑者の落ち着いた姿に驚いた。私は、刑務所の中で過ごす人は、「普通ではない」と私たちとは区別して考えており、きちんと罪を償って出所しても、一般の人とは違うという偏見を持っていた。また、罪を犯した人は怖いという印象があり、出来るだけ関わることをないよう過ごそうという意識でいた。さらに、受刑者が出所後に社会参加や就職、他者との人間関係の形成が難しいものであっても、それは犯罪者の責任であり、上手く生活できなくても仕方のないことだとさえ考えていた。しかし、私が訪れた刑務所では、沢山の女性が真面目に働いており、私の想像する受刑者の姿とは大きく異なっていた。また、落ち着いた様子で刑務所内のルールを守り、規則正しい生活を送っているようであり、刑務所にいることを忘れるような普通な生活をしていたことに驚いた。刑務所内でも一定の生活習慣で、食事や労働、テレビや新聞も見ることのできる状況があり、出所後もすぐに社会に馴染め、働ける状態が作ってある様に感じた。

しかし、この様に、社会の中で十分過ごすことの出来る能力のある受刑者が多くいるにも関わらず、前科がつくことで、出所後の社会参加が難しい。出所後の受刑者は社会から排除され、生活の中の様々な場面で社会的弱者となり、地域の人々との関わりや仕事、住居などの個人だけではどうにもできないことが障壁となり、出所後の受刑者の人生に負担を与える。

出所後の受刑者の社会参加が難しい原因として、2つのことが考えられる。1つ目は、私たち一般市民の裁判所や刑務所、受刑者などに対する知識の少なさである。これは、私たちの裁判所や刑務所、受刑者などに興味・関心が薄いことや、情報を手に入れる手段が少ないことが

関係していると推測される。2つ目は、受刑者が出所時に他人との繋がりがいないことである。受刑者が刑期を終え出所したときには他人との繋がりがなく、孤立する場合がある。65歳以上の高齢の方は、2年以内の再犯率の割合が最も高く、繋がりのない社会に出るよりも刑務所の中の方が過ごしやすと感じさせ、この状態が起きているのではないかと考える。この様な、出所後の受刑者の社会参加を難しくさせる現在の状況は、出所後の受刑者に大きな負担を与え、再犯に繋がる大きな要因となるだろう。

刑務所では、再犯を防ぐために、居場所と出番(仕事)づくりが大切だと聞いた。また、出所後のサポートとして、職場探しや生計の立て方の指導、ハローワークに通うなどの活動も行われているそう。しかし、職を見つけてのことだけでは社会参加したとはいえない。生活再建のためには7つの経路(犯罪者の立ち直りと地域のパートナーシップより引用)があり、1)住居、2)教育、訓練、雇用、3)精神と身体健康、4)薬物とアルコール問題、5)収入、社会保障給付、負債、6)子育てと家族、7)態度、思考、行動、である。この7つの経路は犯罪を促進する要因であり、同時に犯罪者の生活再建のためのニーズでもある。この7つの経路が上手く組み合わされた状態のとき、本来の社会参加に繋がるだろう。出所した元受刑者の社会参加を可能にするために、社会の人々に裁判所や刑務所、受刑者の社会的包摂について知り、考えてもらう機会を作ることが必要である。また、保護司の方から学んだ、犯罪者だから、ということでも様々なことを決めつける「ラベリング」を、周囲の人が行わないことも重要である。実際に、私も今回の見学で沢山のことを学び、また、自分の間違った認識に気づく良い機会となった。自分の知らないことや誤った認識があることさえ知らなかったため、それを知ることは必要である。裁判所や刑務所を間近で実際に見学し、聞いたお話は強く印象に残り、それと同時に興味がわいた。犯罪社会や社会的包摂に関することについて知り、考える良い機会となった。そして、今後多くの人に社会的包摂について知ってもらうことが必要だと感じた。多くの人が知り、興味を持つことで、社会の包摂の正しい認識が広がり、今より社会的排除のない、誰もが参加できる社会に近づけることができるだろう。また、その知識を偏りなく多くの人に知ってもらうためには、教育の中で教え、知る機会を作ることが良いと私は考えた。多くの人が正しい認識を持ち、考える機会ができれば、良い社会に変わることにつながるだろう。

また、元受刑者の社会参加を進めるために、刑務所、裁判所の地域社会との繋がりを強めることが必要であると考えた。出所後の生活を長期的に見守ることで、一人一人に合った細かなケアをしやすく、再犯防止にも繋がるだろう。また、出所者の様子を見守ることで、補導援助である社会資源を活用することを促したり、その後の受刑者への対応に活かすことができるはずだ。

元受刑者の再犯防止のために社会が改善すべきこととして、立ち直る人たちの社会の受け入れや、人口減少の中で、住む場を安く与えることであり、このことは元受刑者を社会の一員として支えることに繋がるだろう。更に、周囲の人々が元受刑者に対してラベリングをせず、更生の意欲のある人には社会の一員として受け入れの気持ちを持つことが大切である。

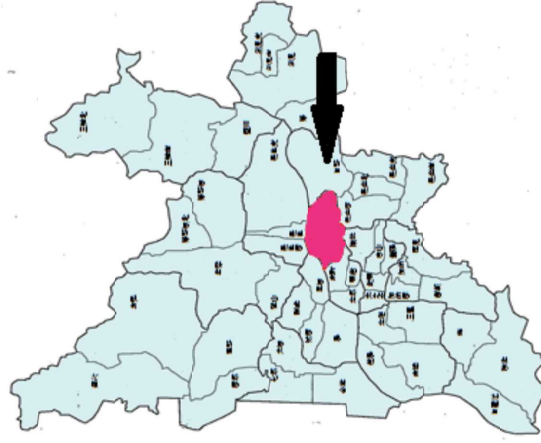
今回の社会活動演習を通して、私は知ることの大切さを感じた。裁判所、刑務所、犯罪者について話を聞き、今まで縁遠いと感じていたことが、社会の一員として誰もが関わることでありと学んだ。犯罪者に対する社会的包摂の考えは再犯防止としても必要であり、地域の繋がりを深め、誰もが平等に社会に参加し生活できることが重要である。

参考文献

犯罪者の立ち直りと地域のパートナーシップ ―犯罪者処遇の「第三の道」― 小長井 賀興

0. 調査の概要	1
1. 岐阜市中心市街地に暮らす高齢者の生活実態と買い物等日常生活維持のための課題	2
2. 岐阜市の歴史的地区における町家の活用、創業、景観	42
3. 金華地区における古民家 MAP	68
4. 企業や公的機関の職場に関する調査	74

岐阜市金華地区の位置



岐阜大学地域科学部・地域学実習報告書 パート 18



岐阜市金華地区：「買物難民」と「町家活用」

企業や公的機関の職場に関する調査

2018 年 3 月



古民家

アクセス

バス

JR岐阜駅
12番乗り場
13番乗り場
名鉄岐阜駅
4番乗り場

制作

岐阜大学地域科学部

井川知子・小島朱子・近藤亜都葉
又・結聖奈・平田美盛・山田真純
掲載「地域学実習」にて制作

協力

ぎふくん—Twitter: wagahai.gifu

岐阜の魅力
発信しているよ～

●古民家●

古民家とは、その名の通り「古い民家」のことです。定義は明確ではありませんが、一般的には戦前(50～60年前)に建てられたものを指します。古民家は木材の凹凸を組み合わせる伝統的な建築手法で建てられており、軒などの金物や筋交は使われていません。利用される木材も耐久性や見た目の美しさにこだわり、梁や外壁、内装など、場所によって種類を使い分けています。木材のみで建てられた古民家は、木造建築特有の優しさや雰囲気があり、見る人の心を癒してくれます。

現在日本では、古民家の伝統的な建築手法の良さを直し、町並みの景観保護のためにも古民家の再生が盛んに行われています。岐阜金華地区には、昔ながらの古民家はもちろん、古民家を改装したカフェや雑貨店など様々な種類の古民家が集まっています。

●岐阜金華地区●

岐阜金華地区は、東に自然豊かな金華山、北に鶴岡いで有名な清流長良川が流れる、どてのどかで穏やかなまちです。長い歴史の中で岐阜を襲った濃尾大震災や岐阜空襲からも奇跡的に免れた金華地区は、江戸時代から明治後半にかけての古民家が今でもたくさん残っています。そんな金華地区では今でもありのままの暮らしが残っており、地域住民も一丸となって歴史を重んじたまちづくりが行われています。

観光地としてはあまり有名ではありませんが、歴史とありのままの暮らしを感じられるまち並みは金華地区特有の魅力といっても過言ではありません。古民家や蔵を利用したカフェやギャラリーもたくさんあり、「古民家×金華山×長良川」がおりなす景色は絶景です。実際にまちを歩いてみると、ちょっと不思議なもの、なんだか落ち着く場所、誰かに伝えたくなることなど、初めての発見がいっぱいあります。是非あなたも「あなたの金華地区の魅力」を見つけてみてください。

古民家の見所

●屋根神様●

愛知県や岐阜県には、屋根の上に祠(ほくら)を祀っている古民家があります。屋根神とは、その祠に祀られている神様のことで、生活に密接な大層の神や疫病除けの神を身近に信仰したいという庶民の想いから発祥しました。屋根以外に場所が無かったため屋根に祠を祀るようになったとされています。一般的には熱田神宮、津島神社、秋葉神社の三社を祀ります。

●焼塼(しょうき)様●

焼塼とは、主に中国に伝わる道教系の神様です。日本では十九世紀末頃から、焼塼より強い魔除けとして、焼塼の像を屋根に置く風習が生まれました。主に近畿地方から中部地方にかけて多くみられますが、金華地区でも見ることができます。

●犬矢来(いぬやらい)●

犬矢来とは、古民家の軒下にある竹製の垣根です。古民家は木造建築であるため、雨や虫による腐食が壁にかかるため腐食の原因となってしまう。その腐食を防ぐと設置されたのが犬矢来です。犬矢来の名前は「犬をやらう(遠い払う)」からきており、犬が壁に尿をかけないようにする目的もあります。

ぎふくんからの挑戦状

写真の

古民家を

探せ!

ぎふくんからの挑戦状

金華地区には古民家でお店を営んでいるところがいっぱいあるんだ。その中から以下の3つのお店を見つけてね!

マップ横の写真と、地図上の④⑤⑥の場所がヒントだよ。ふふ。見つけたらお店の人とお話してみるのがオススメだよ!

●ふくろう絵工房●

ふくろう絵工房は、お店の入り口の引き戸が伝統的な千本格子になっています。引き戸の横にはスタンドグラスがあり、夜に見るとほっとした雰囲気に。店主手作りのふくろう雑貨はどれもかわいらしく、あなたもかみかみで飾られます。<入る前に引き戸の上を見てみて!>

〇www.gifucomi.net/shop/shopahtml?s=1066

●空穂屋●

空穂屋は、築120年以上のお店です。昔は蔵門屋として、長良川の水運で運ばれてきた和紙を金華地区の神社仏閣に供給していました。現在は、建物の保存をしつつ、雑貨屋、カフェ、骨董屋などを営んでおり、お茶会や展覧会などのイベントも企画しています。

〇utsuobuya.info

●DOKIDOKI工房●

DOKIDOKI工房は、「ナガラワフレーバー」の一角にある工房です。窯が設置されている工房では、岐阜の土を使った陶芸教室が開催されています。古民家の中で思いのままに「美濃焼」作りに興じてみてはいかがでしょうか。

<通りに面した一階の屋根の左上を見てみて!>

〇www.r-flavor.net

0. 調査実習の概要

0.1 テーマ

地域学実習を岐阜市の中心市街地から始めて18年目となる。2017年度は、岐阜県岐阜市の中心市街地北部の金華・京町地区(旧・岐阜町)での「買物難民」「町家活用」「町家カフェマップ」と、岐阜圏域を中心とした企業や公的機関の職場に関する調査が行われた。金華地区では2001年の地域学実習から、住民のまちづくり活動、景観保全の取り組み、老舗や新規の店舗、町家の暮らし、空き家対策、観光まちづくり(長良川おんぼく)など、さまざまな実習を続けてきている。今年度は、これまではなかなか町家の所有者と、利用希望者のマッチングが難しいという調査(2009年)から10年経って、意欲的な事業者や後継者、創業者が次々と現れてきたことをふまえて、店舗などへの聞き取り調査(2章)と町家カフェMAP(3章)の一方、人口減少と高齢化、さらに地元の近隣店舗の減少のなかで「買物難民」問題に対して、岐阜市福祉部などにもここちも聞き取り調査が行われた。同じ地域の中でもさまざまな動きが同時に進行していることを明らかにできたのではないかと考えている。

(富樫 幸一)

0.2 活動経過

詳細は調査グループごとに異なるが、各グループともに、おおよそ以下のような流れで調査実習を進めていった(表0.1)。

表0.1 活動経過

2017年	「地域学実習」のオリエンテーションとグループ分け
4月17日	テーマに関する文献・資料の検討
4月～5月	調査項目の検討・調査票の作成(一部は、調査を開始)
6月～7月	本調査
夏季休業期間	
9月22日	中間発表会
10月22日	「第11回 社会調査インターカレッジ発表会」(愛知大学)で報告

0.3 執筆分担とメンバー

1 章から4 章までの担当教員、参加した学生については、それぞれの章を参照のこと。

- 1 【高木和美】
- 2 【富樫幸一】
- 3 【合掌 顕】
- 4 【伊原亮司・宇山 翠】

1 と2 のグループは、2017年10月22日に愛知大学・豊橋校舎で開催された「第11回 社会調査インターカレッジ発表会」で報告した。



ごふんからの挑戦状

写真の

古民家を
探せ!



ふくろう絵工房



空穂屋



ナガラガワフレーバー



古民家Cafeマップ



【地域政策講座】

- 1) 青木 良樹 持続可能なベーシック・インカム制度
- 2) 井口 梨英 秘密保護法と憲法21条
- 3) 伊藤 光毅 地方競馬の動向と発展に関する考察～地方競馬活性化への提案～
- 4) 上村 美帆 産業観光まちづくりに関する考察 ～愛知県多半島を事例に～
- 5) 衣斐 七海 小規模多機能自治から見た制度とひと ～揖斐川町を生き残っていくために～
- 6) 太田 隼人 出生前診断と法の関係性
- 7) 大坪 奈美 コンパクトシティを目指す岐阜市のまちづくり
- 8) 大野 里紗 空き家・町家利用のまちづくり
- 9) 鍵谷 光 攻めの農林水産業は農業問題の解決になるのか
- 10) 加藤 春香 岐阜市の中心市街地活性化政策
- 11) 加藤 仁貴 生物多様性の保全について ―協働型自然再生事業の可能性―
- 12) 川脇 沙也佳 コミュニケーションによる販売
- 13) 北川 華帆 子どもが育たない社会 ―現代日本における女性労働と孤独な育児―
- 14) 衣笠 果歩 岐阜市のアパレル産業の盛衰と産業政策
- 15) 桑原 大知 ヘイトスピーチ規制 ―日米欧の比較と差別撤廃にむけて―
- 16) 小芝 啓太 大都市制度としての大阪都構想
- 17) 小寺 真理子 タックス・ヘイブン ―現代の租税回避の仕組み―
- 18) 近藤 寛人 コンパクトシティ政策で地方都市を集約できるか、 ―新たに始まった立地適正化計画制度を含めた考察―
- 19) 齊藤 天也 官民協働で進めるコンテンツツーリズム ～香川県観音寺市を事例に～
- 20) 佐々木 大輔 多様就業社会のためのワークシェアリング
- 21) 佐藤 菜央 労働現場における男女格差と今後の展望
- 22) 佐藤 はるか 日本の高齢者の貧困の現状とその最低所得保障―老齢基礎年金制度の視点から―
- 23) 妹島 大将 原子力発電所をめぐる裁制の調査研究―福島第一原発事故後の裁判を中心に―
- 24) 高木 真侑 愛知県における産業観光推進体制の形成過程 ―推進主体・政策・企業の取り組みの分析―
- 25) 竹中 悠人 観光ガイドブックにみる場所イメージの分析―岐阜県関ケ原町を事例に―
- 26) 田島 佳奈 図書館の自由と公共性に関する調査研究
- 27) 玉井 弘毅 伊勢神宮内宮門前町における観光まちづくりのあり方
- 28) 土屋 かすみ ヘイトスピーチが起こる原因について ―ヘイトスピーチの抱い手とレイシズムの関係性による検討
- 29) 西尾 健介 交通まちづくりに関する考察～岐阜県岐阜市、多治見市、山県市を事例に～
- 30) 白村 武士 女性の人生設計に立ち塞がる男女間格差

【地域政策講座】

- 31) 早川 観里 女性の就業意識に関する考察～ワークライフバランス実現に向けて～
- 32) 林 大智 岐阜市の現状と展望 ～コンパクトシティ政策と交通政策～
- 33) 原西 彩 地域密着型コンビニの成功要因―株式会社大津屋を事例に―
- 34) 坂 奈津希 非正規雇用者増加における公的年金制度改革
- 35) 平野 幸奈 PBとRBによる相乗効果を目指して ―「地域ブランド」の実態と地域連携の可能性―
- 36) 平松 真里 日本の長時間労働是正
- 37) 藤川 絃子 奈良県伝統野菜「大和伝統野菜」の事例からみる6次産業化
- 38) 藤田 佳央理 まちづくりの拠点としての図書館―みんなの森 ぎふメディアコスモスを例にして―
- 39) 真野 裕加 ご当地グルメを支えるボランティア団体のあり方 ―豊川いなち寿司で豊川市をもちあげ隊を中心に―
- 40) 水野 宏斗 「忘れられる権利」―位置づけと今後の対応―
- 41) 水野 利佳子 森林のレクリエーション利用と地域団体のあり方 ―岐阜県郡上市石徹白地区を事例に―
- 42) 武藤 克典 分業体制の強みを活かす関市地場産業産地―維持される体制と今後の展望―
- 43) 矢野 喜蒼 日本型雇用に関する考察―雇用システム改革の方向―
- 44) 山田 隆博 中小企業における日本型雇用システム
- 45) 木野 伶於人 東海環状自動車道は果たして環状になるのか？ ～未来の高速道路建設意義を問う～
- 46) 富田 夏美 グローバル化による自動車産業の構造変化と自動車産業に与える影響 ―部品サプライヤーの考察を中心に―
- 47) 二村 祐貴 冤罪被害者の救済

【地域環境講座】

- 1) 大久保 一也 岐阜市における浸水被害予測とその対策に関する研究
- 2) 尾崎 史織 流暢性と経験価値によるデザインの面白さについて
- 3) 熊谷 彩香 家族機能及び住まいの構造が自宅における果実・種子の消失過程について
- 4) 菅沼 亮太 ヘビガラスの樹上及び地上における果実・種子の消失過程について
- 5) 鷲見 隆良 市町村の地域公共交通に対する予算に関する研究
- 6) 清藤 由美 大学に対して大学生が持つ愛着を形成する要因について
- 7) 高井 有咲 室内の色彩環境がリラックスに与える影響について
- 8) 竹嶋 南夏 Formation of the Artificial Crystals; Wether Glass, Bismuth and Copper Sulfate
- 9) 西山 晃太 地域鉄道の経営と沿線の社会的環境との関連分析
- 10) 野田 千奈 長良川水系における淡水エビの分布
- 11) 山田 千晴 無農薬水田における水生生物の種構成
- 12) 後藤 克隆 Excelによる数値シミュレーション技法の研究
- 13) 瀬脇 啓弘 文庫本の表紙デザインが注意と購買意欲に与える影響
- 14) 久田 英 ラーニング・コモンズの利用実態と評価に関する研究 ―岐阜大学アカデミック・コアを対象として―

【地域文化講座】

- 1) 浅野 真優 日本における外国人留学生の変遷
- 2) 浅野 莉歩 『われらの時代に』における関係の軌跡
- 3) 東 優都 美と醜のアイロニー：福田タ映研究
- 4) 浦田 みほ トム・ジョードの「成長」：『怒りの葡萄』研究
- 5) 甲斐 葵衣 K-POPの日本進出ビジネス戦略
- 6) HUO CHUNZHU On the Distribution of the Particle *Suo* in Modern Chinese
- 7) 北村 麻好 若者たちが使用する「全然」について
- 8) 葛倉 修歌 所有への執着を超え、「今」を生きる ―エーリッヒ・フロムの著書に寄せて―
- 9) 酒井 祐美 LNBにおける顔文字、絵文字、スタンプの使い分けについて
- 10) 鈴木 仁美 算命術とは何か
- 11) 高橋 美由里 日本における人間と猫の関係性
～日本と欧州の動物愛護活動から考える～
- 12) 中島 桐生 女のいない男たちについて
村上春樹とアーネスト・ヘミングウェイの短編研究
- 13) 中村 えりな カラヴァッジョの明暗法とその影響
- 14) 林 亜沙香 美を求める女性たちと化粧
- 15) 林 実美香 セーフティーネットの有り様
- 16) 林 美里 若者たちが使用する「～っぽい」という表現について
- 17) 船渡 淳平 「中間」と「他者」について
- 18) 森 沙織 孫悟空とは、何者か。
- 19) 川田 慶信 日本におけるマンドリン音楽の受容
- 20) 深田 美夏 映画 *snake* 研究 ―「赦し」と「救い」の物語―
- 21) 森井 那奈美 The Center Test Versions of the Minimal English Test: A Study of Correlations Between Their Scores and the Scores on the TOEIC ITP
- 22) 永田 裕子 坂口安吾『堕落論』とその小説への反映―
- 23) 宮元 美保 ヅカオタ論～宝塚が魅せる夢と現実～
- 24) 山口 祐奈 シンデレラ物語における女性像の変化
- 25) 宇野 紀和子 社会の落ちこぼれが生きていくための逃亡肯定論～逃げろ逃げろ逃げろ！そして旅立て～
- 26) 丸山 純平 「LGBTの自治体政策における無関心の打破」
- 27) 荒木 智博 手塚治虫論

【地域創造講座】

- 1) 青木 友里 「おしゃべれ」がもたらす気持ちの変化とアイデンティティの確立
～肢体不自由の女性と母親への意識調査を中心に～
- 2) 耕田 碧 障がいのある子どもにとつての乗馬 ～「わくわく乗馬」の取り組みから～
- 3) 伊藤 愛 「No」といえない日本人 過剰サービスがもたらした過重労働
―ビジネスホテルを例に―

【地域創造講座】

- 4) 伊藤 颯 「ポスト真実」の時代～ベストセラーの変遷から読み解く～
- 5) 稲垣 寛之 軍隊と地域
- 6) 井上 佳純 加害の記憶と、方法としての「語り」
- 7) 岩村 瞳未 発達障害と学校におけるいじめの構造
- 8) 上松 史佳 女中と職業婦人
- 9) 大山 晴幸 高齢者の自動車事故を減らすために
～「運転免許返納」の先へ～
- 10) 小倉 知佳生 テレビがとりあげる障害者像～感動ボルノへの意識調査から～
- 11) 折戸 冨后 めいぐるみから「自立」できない大人たち―従来の発達理論を超えて―
- 12) 勝居 遥香 愛着障害に関する事例的研究
- 13) 河上 俊一 生きる力を育む学習支援室―食と健康の視点から―
- 14) 川瀬 椋太 ダンスという活動の発達の意味
～ダンスを楽しむダウン症の青年たちを通して～
- 15) 神戸 真理 人と犬の関係への考察
―マロン・セラピー・ドッグ協会でのセラピー活動から見ると―
- 16) 北川 翔 リーダーシップはどのように形成されるのか
～学生サークルリーダーから探る～
- 17) 小玉 千晶 「子どもの貧困」を生み出す社会のしくみに関する一考察
- 18) 齋藤 惇一 殺すことと食べること ―食肉加工処理施設から見る肉食文化への考察―
- 19) 澤田 真里奈 子どものための学校給食
- 20) 澤村 早留奈 新しいプロ野球ファン像の再検証 ―「カープ女子」を主たる事例に―
- 21) 島尻 七海 「友だち」って何だろう？
―重松 清『きみの友だち』を手掛かりに―
- 22) 多田 彩乃 岐阜県山県市における狩猟―狩猟することが引き起こす様々な展開―
- 23) 田中 堯裕 体罰のない部活動指導
―2つの部活動比例を通して―
- 24) 成瀬 楓 過労死の原因と対策を考える
- 25) 服部 将也 日本でプロレスが文化として定着するためには何をすべきか？
- 26) 松井 直人 科学技術の発展が労働市場に及ぼす影響
～あと10年でなくなる仕事ランキングを入口にして～
- 27) 丸山 未紗子 高齢者の社会的孤立の問題をどう捉えるか
- 28) 宮本 安希 DVにおける当事者たちへのさまざまなアプローチ
- 29) 宮脇 舞 <やんわり>と強要される社会 ―文字やモノと身体への介入に着目して―
- 30) 今井 瑞季 日本における女性の社会進出に対する意識のギャップが残る原因について
―フェミニズムの歴史とテレビCMを参考にして―
- 31) 岡 歩夢 思春期における本の役割
- 32) 田中 七海 生活問題の階層性の存在を捉える―2つの生活実態調査報告をもとに―
- 33) 戸野部 有紀 セクシュアル・マイリリティに対する
現代日本の友好的風潮と差別的言動のギャップについて
- 34) 三木 智尋 アメリカにおけるアフター・マティヴ・アクションの有用性と新たな提案

修士論文 岐阜大学大学院地域科学研究科 平成29年度修了生

【地域政策専攻】

葛谷 泰慣	デリバティブの拡大と大手金融機関の利益追求行動
ZENG LEI	中国型PPP事業における政府信用問題の解決に向けて —PPP契約の法律性質をめぐって—
NAN CUO JI	“田中角栄”の地域格差縮小政策の考え方について
松野 渉	犯罪被害者の二次被害の防止と救済 ～メディアを中心に～
高田 洋子	ジェンダー・クォータとパリティ・デモクラシー
森 有紀子	ご当地キャラクターにおける地域活動の現状と今後の展望

【地域文化専攻】

WU SHUJING	The Japanese Center Test Versions of the Minimal English Test for High School Students: A Study in Hebei Province of China
HUANG BITONG	異なる言語環境における言語表現の変化 —福原愛の日本語と中国語から考える—
小森 絢子	教育のための想像力
XU ZIWEI	The junior Minimal English Test and the Writing Test for Junior High School Students: A Study in Liaoning Province of China
ZHANG YUEHUAN	On the Cleft Construction in Modern Chinese
TIM PALMROOS	Bilingual cognition: A linguistic relativity approach to analyzing the expression of ‘self’ in native and non-native speakers of Japanese
土岐 航平	医学教育から見た作業療法教育の現状と課題 —発達障害領域で働く新人作業療法士の苦悩を通して—
松村 文菜	「大学生の不登校」に対する周囲の関わり・サポートのあり方について —当事者と支援者へのヒアリングをもとに—
LIANG JIANLONG	日本テレビアニメの制作方式の現状と問題点に関する研究 —制作委員会を中心に—
宮川 美樹	活動を制限されてきた若者の「就職・離職の経験」と「自己の育ち」 —脳性まひによる肢体機能に障害のある若者の語りを通して—
YANG XIAOBIN	消防職員の惨事ストレス —日本における惨事ストレス対策研究のあゆみ—
若井 基一	グループホームに入居する障害者の生活支援にかかわる一考察 ～発達、仲間集団、生活づくりに視点を当てて～

大学生基礎力調査の結果

平成23(2011)年度から平成25(2013)年度にかけて岐阜大学は、(株)ベネッセによる「大学生基礎力調査」を実施した。その結果、岐阜大学地域科学部の学生は、1年生よりも3年生のほうが専門への関心を高め、論理的思考力やコミュニケーション能力の発達があるとの結論を得た。これは、全国的にも極めて珍しく、(株)ベネッセのスタッフとともにその結果を分析し、その要因を考察した。そして、全国の大学にもこの岐阜大学地域科学部の方法を公開すべく、Benesse 大学シンポジウム2014「学生が成長する共学改革—学びに向かう動機づけの工夫と効果」で報告した。

地域科学部には、初年次セミナー、社会活動演習、基礎セミナーなど動機づけを高める科目が存在していること、初年次セミナーは岐阜大学のすべての学部で行われているが、地域科学部は多様な学問分野を学べることもあり、他学部とは異なり、学生が学問分野別におこなわれるセミナーを選択できるようになっており、未知の学問分野を体験できること、さらに、社会活動演習も基礎セミナーも選択の際に志望理由を書くことで、自己確認と動機づけとなっていること、などで学問への関心を高めているとの分析結果を報告した。

そして、2年の前期には、研究室訪問を実施し、教員と学生がじっくり話し合っ学生にとって事故の専門となる専門セミナーの選択を行っていることが動機づけ、学問的関心の高まりの決定的理由となっていると報告した。

シンポジウムでの報告ののち、ステークホルダーへの対応も『View』誌で取り上げられた。特に地域科学部では、全教員参加で高校への訪問、就職先企業への訪問を行い、聞き取りしていることが報告された。これはシンポジウムでも報告したが、カリキュラム上の工夫も含めて、他大学からの質問などで肯定的に評価された。

事例 1

教員全員が高校と企業に訪問し 対話から要望や期待を聞き取る

岐阜大学地域科学部

教養部を母体として設置された岐阜大学地域科学部は、学部独自の進化を遂げるために他大学や高校の声を聞き、学部内で共有し、話し合いをしながら教育課程を築いていった。その文化は今も受け継がれ、高校や企業の訪問は教員全員で行い、情報も共有している。

セミナー選択の仕組みを工夫し 学習への動機付けを高める

岐阜大学地域科学部は、地域がキーワードとなるさまざまな社会的課題について、人文科学、社会科学、自然科学の基礎学力を基にして総合的に探究できる能力を育てることを教育目標としている。2学科5コース制で、地域政策学科には「産業・まちづくり」「自治政策」「環境政策」の3コース、地域文化学科には「生活・社会」「人間・文化」の2コースがある。1996年に教養部を母体として設置されたこともあり、専門科目は法学、哲学、英米文学、教育学、生物学、化学など文系・理系の幅広い分野から学べる。

カリキュラムの特徴は、入学時に学部一括で募集し、2年生後期に学科・コース分けを行うことだ。1年生で多彩な内容を幅広く学び、総合的な知識を身に付けた上で、2年生後期に自分が専門的に学ぶ「専門セミナー」を決め、以降、4年生まで

所属して、そこで卒業研究も行う。

そのために、学生の興味・関心を引き出し、専門分野を学ぶ目的意識を高めるような仕掛けをしている。まず、1年生前期に「初年次セミナー」、1年生後期に「地域研究入門」、1年生後期と2年生前期に「基礎セミナー」（いずれも必修科目）によって、アカデミックスキルを習得しながら、各専門の導入部分を学ぶ。その上で、2年生前期にセミナーを見学したり、担当教員と話し合ったりして、学生は自分が履修する専門セミナーを選ぶが、この際、必ず三つ以上の研究室を訪問する決まりになっている。地域科学部で教務厚生委員長を務める稲生勝教授は、次のように説明する。

「情報を集め、検討し、自分で選択することの繰り返しだが、課題意識を発掘し、学習意欲を涵養します。たとえ第1希望のセミナーに入れないとしても、その決定に自分が主体的にかかわったからこそ、納得してその後の学びに取り組めるのです。卒業時のアンケートでは、約9割が専門セミナーに満足と答えています」

教員全員で分担し 3県 80校を高校訪問

そのような学部の特徴を踏まえて、地域科学部が学外の声聞く対象として重視するのが、高校と企業だ。

高校および企業への訪問は、専任教員全員（2014年度は46人）で分担して行う。負担を考慮して、高校の訪問年と企業の訪問年は交互になるようにしている。

前回、高校訪問を行ったのは2013年。教員が2人1組となり、各3～4校が割り当てられた。各自で高校に連絡を取った上で訪問したほか、出張講義やオープンカレッジ（岐阜大学地域科学部、岐阜経済大学、岐阜市立女子短期大学の3大学が共同開催する地域連携事業）を行う高校については、同日に訪問した。訪問校数は、岐阜県34校、愛知県43校、三重県3校の計80校で、地域科学部に出願者のあった高校が中心となる。

訪問先は、主に進路指導担当の教員だ。「高校訪問調査票」を用意し、各校共通の質問項目（P.4図1）に従って話を進める。地域科学部の特徴ある入試制度、カリキュラム選択の仕組み、卒業後の進路などを説明しつつ、高校側の意見を聞いていく。

高校側から話題によく上るのは入試制度だと、稲生教授は話す。

「本学部では、推薦入試以外の全ての入試で小論文を課しています。学術的に水準の高い課題文を読み、自分の考えを述べるという内容です。『いろいろな知識が問われるため、生徒の総合力を判断する問題だ』と評価する高校教員がいる一方で、セン



地域科学部教授

稲生 勝

いのお・まさる

一橋大学大学院社会学研究科哲学専攻。1992年、岐阜大学教養部に赴任。1996年の地域科学部の設置にもかかわる。専門分野は科学思想、環境思想。

ター試験の自己採点結果で合格可能性が高く出ても、個別学力試験で不合格という事態もあるため、進路指導がしにくいという意見もあります」

高校訪問は、高校側の意見を聞くと同時に、学部の意図を正しく理解してもらうためのコミュニケーション

ンの中でもある。地域科学部入試委員長を務めたこともある稲生教授は、小論文では文章力よりも読書量を見ていて、それが分かるような出題をしていると説明するという。

「本をたくさん読み、いろいろなことを吸収して、自分なりの課題意識

を持って入学してほしい、そうすることが入学後の学びに結び付くと、高校側には伝えています」

高校から聞いた内容は「高校訪問調査票」にまとめ、教授会で報告する。

「高校の先生方の意識もさまざま、入試制度一つをとっても賛否両論ですし、就職先を気にする教員もいれば、学生が選ぶカリキュラムの工夫を評価する教員もいます。学生を指導する際にも、そうした高校の進路指導の現状を知っておくことは重要だと捉えています」(稲生教授)

学生の精神面のケアも重要な質問事項

高校との対話でもう一つ重視しているのが、精神面で課題のある学生への対応だ。例えば、周囲と人間関係がうまく築けず、授業を欠席しがちな学生をどう支援していけばよいのか、高校と話をしている。

高校の声をヒントに生まれたのが「助言教員」「指導教員」制度だ。学生の取得単位、履修計画、休学・退学等の学業上の問題、就職・進学 of 進路問題、学生生活を過ごす上での問題など、学生のあらゆる相談に乗り、助言や指導する役割を担う。1 年生前期は「初年次セミナー」の担当教員、1 年生後期～2 年生前期は「基礎セミナー」の担当教員が「助言教員」をそのまま兼ねる。2 年生後期からは卒業まで履修する「専門セミナー」の担当教員が「指導教員」を兼ねる。1 学年約 100 人の学生に対して教員は 46 人であり、専門セミナーは 1 学年の上限を 4 人としているため、学生一人ひとりに行き届いた個別指導が可能となっている。

ただし、履修登録をしなければ、助言教員も指導教員も付かない。入学後、1 回も大学に来ないで休学というケースもあるため、履修登録を

図1 高校訪問時に使用する調査票の項目(抜粋)

- 地域科学部への進学を薦める理由として、次の項目をどれくらい重視しているか。(重視している、あまり重視していない、どちらともいえないの3段階で回答)

- 1 「具体的にどんな学問を学びたいか、まだ決めかねている」生徒、あるいは「大学ではいろんな学問を学んでみたいと考えている」生徒にとって、地域科学部には幅広い学問に接することができるカリキュラムが用意されていること。
- 2 大学で学びたい学問の方向性は定まっているが、物理的条件や難易度から他大学の専門学部への進学は困難と思われる生徒にとって、地域科学部は、法律・経済、哲学・文学・言語学、歴史・人類学、教育・心理、社会・福祉・メディア、環境などの学問分野についてそれぞれ専門とする教員スタッフがいて学ぶことが可能であること。
- 3 将来、公務員をはじめ地元での就職を希望している生徒にとって、地域科学部は実績として高い就職率を保っていること。
- 4 センター試験や受験科目の成績に照らして合格の可能性が高く、かつ地元の国立大学への進学を希望している生徒にとって、地域科学部はその条件に適していること。

【その他の項目】(質問項目の詳細は省略)

- ・入学者選抜方法についての意見
- ・カリキュラムについての改革要望
- ・高校とのコミュニケーション強化で重視したいもの
- ・地域科学部への進学後、向上を期待する能力

*同大学の資料から抜粋して編集部で作成

コラム 「地域協学センター」を設置し、組織的な地域貢献を推進

岐阜大学は、2013年度に文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に選定されたことを受け、「地域協学センター」を設置し、大学全体で地域社会活性化に貢献しようと活動を進めている。福士秀人センター長は、「本学は、古くから養鶏や枝豆栽培など、地域の特産品の発展において研究面で支援し、知の拠点としての機能を担っていました。ただ、それは個々の教員と地域とのかかわりであり、一方、地域の人々も個々に大学に依頼しており、横のつながりはありませんでした。そこで、大学と複数の自治体で包括協定を結び、本学が組織的に地域貢献が出来るようにしました」と説明する。柱の一つは、2015年度に始まる全学対象の「次世代地域リーダー育成プログラム」だ。地域とかわる実践的な科目を用意し、規定の科目を修得すれば、修了生の証明書を発行し、「ぎふ次世代地域リーダー」の称号を付与する。また、地域の人々や自治体職員、学生が意見交換する場「フューチャーセンター」も設け、学生が対話の中から課題を発見し、自ら活動していくような工夫もしている。



理事・副学長
(学術・情報担当)、
地域協学センター長
福士秀人
ふくし・ひでと

していない学生をきちんと把握し、教務厚生委員長が助言教員となり、学生の相談に乗り、場合によっては保護者と連絡を取って対応している。

このほか、3年生編入学の対象となる短期大学の訪問も行い、学部内容や入試制度の説明を行い、意見を聞いている。

卒業生の評価を直接聞き、教育の成果を実感する

企業訪問を初めて行ったのは、1期生が就職4年目となる2005年だ。それまでに卒業生が就職した岐阜県・愛知県の企業を中心に約100社をリストアップし、うち87社を訪問した。直近では2012年に実施。教員一人ひとりに企業が2～3社割り当てられ、人事部等に自ら連絡を取るという方法で行われた。卒業生が退職していたり、企業が倒産していたりということもあったものの、約70社を対象にし、62社を訪問した。

企業への質問項目は、①卒業生に関する状況把握、②採用状況、③採用時期と採用方法、④対象となる職種、⑤求める学生像に加えて、⑥地域科学部卒業生に対する評価、⑦地域科学部が重視している教育に対する評価を3択で尋ねる（図2）。

訪問時の様子や質問への回答は、企業ごとに「企業訪問の報告メモ」にまとめて、地域科学部就職委員会に提出。同委員会が「2012年度企業訪問報告書」に集約して、教授会で報告され、成果と課題を共有した。

「企業からは、大学教育に対してコミュニケーション能力や創造力などの育成に期待しているという声をよく聞きました。本学部では、少人数のゼミで学生が討論しながら学習を進めるスタイルが中心で、レポートを提出の機会もかなりあります。本格的に学問に取り組めば、社会で役立つ力が付くと自負しています。本学部が重視する教育に対する評価はおおむね良く、教育の成果を確認できました」（稲生教授）

学生の声を授業内容に反映し系統的な学びを構築

高校・企業訪問を教員全員で分担し、得た情報は教授会で共有、意識統一を図る風土が根付いているのは、1996年学部設立時の経緯が色濃く影響している。教養部を母体としながら、学部独自の進化をしていくために、学部の理念や特徴をどのように設定し、カリキュラムを編成すればよいのかが大きな課題だった。教

員は手分けをし、全国の文理融合型学部や学際系学部を訪問し、ヒアリングを行った。そうして集めた情報は学部で共有され、さまざまな検討を経て、地域科学部が生まれた。

更に認可後、教員全員で分担し、岐阜県や愛知県の高校を訪問した。「高校には学部案内を郵送すればよい」とする教員が大半だったが、「地域科学部」という名称が珍しく、学部の内容が理解されにくい状況を払拭するため、学部と入試制度の説明を行い、高校側の反応を教員間で共有した。そのようにして教員が力を合わせて学部を築いてきた文化が、今も教員間に生きているのだろう。

稲生教授は、高校訪問は教員個々の新学部への意欲を高め、教員間の意識統一に大きく貢献したと語る。

「教員の半数は教養部出身で、この先はどうなるのかと不安で、新学部には肯定的な意識を持っていませんでした。ところが、自分の口で新学部の内容を説明することによって、学部の意義や目的が消化されていったのでしょ。訪問後の雰囲気はがらりと変わり、地域科学部の教員としてやっていく覚悟のようなものが芽生えていました」

学部の教育課程完成後の2001年度にはカリキュラム改革を行い、以降は、学生の声を聞きながら、科目の内容をコースの系統性に合わせるといった調整を行ってきた。

「専門セミナーへの満足度が高いために、ほかの科目もそれに関連して系統的に学びたいという声は学生からよく挙がっており、時には正課外でも授業を行うなどして、きめ細かく対応しています。学生とは普段からよく話しますが、高校や企業は訪問しないと声は聞けません。今後も定期的に訪問し、丁寧な対話を重ねていきたいと思います」（稲生教授）

図2 企業訪問時に使用する調査票の項目（抜粋）

- ⑥ 地域科学部卒業生に対する評価（高い、普通、要改善の3つから回答）
 - 1 明るさ・元気（協調性）
 - 2 マナー・モラル（規律性）
 - 3 行動力（実行力）・積極性（主体性）
 - 4 コミュニケーション能力（発信力と傾聴力）
 - 5 プレゼンテーション能力（計画性、課題発見力、創造力）
 - 6 責任感と誠実性（やる気や熱意）
- ⑦ 地域科学部が重視している教育に対する評価（期待できる、要改善、不明の3つから回答）
 - 1 基礎的知性（課題の探求や論理的な思考、物事に公平・公正に対応する構え）
 - 2 総合的な視野（社会への関心や事象に対する総合的判断力）
 - 3 専門的能力（職場で取り組む課題に対し、基礎から学び応用・展開する力）
 - 4 国際的な視野（国際情勢への関心や時々の出来事に対する意見を持っている）

*同大学の資料を基に編集部で作成

『週刊東洋経済(臨時増刊号)』『本当に強い大学 2016』(2016 年5月25日刊)は、岐阜大学地域科学部を取り上げて詳しく論評している。

最初に、「地域系学部の成功事例として他校からベンチマークされることも多いのが岐阜大学の地域科学部」と明確に述べて本学部を紹介している。その上で、地域学実習等の実習教育、コミュニケーション能力や表現力も磨ける少人数の専門セミナー、文系科目も理系科目もフレキシブルに学べる学問分野横断的な仕組み、セミナー訪問や志望理由書作成などを通じて学生に真剣な判断を求めるセミナー選択プロセス等に言及して、自発的に学ぶ姿勢を身につける教育を自然に含み込んだ本学部のカリキュラムがもたらした教育効果、さらにその結果としての高い就職率等について評価している。併せて平成28(2016)年度から本学部が開始したグローバル化へ対応する「国際教養コース」についても紹介している。

そして、「同学部は、まさに地域に貢献する人材育成の拠点となっている」と本学部を極めて高く評価した総括を与えている。

「地域」と「国際」を融合

文部科学省が打ち出した、いわゆる国立大学の3類型の中で、最も手を挙げた大学が多かったのが地域貢献型。88ある国立大学のうち55大学が、地域活性化の拠点となり、地域に貢献する人材を育成することを自らのミッションとした。

文系学部の組織見直しを大学に促

す文科省の方針を背景に、教員養成学部を再編して、地域創生関連の新学部を設置する大学も出てきている。福井大学はその典型例だ。今年4月、教員養成を目的としない地域文化・地域社会課程を含んでいた「教育地域学部」を改組。教員養成課程を「教育学部」に、その他課程



「そもそも地域の問題は多種多様だ。理学系の知識や国際的な視点も学べる密度の高いカリキュラムを提供し、地域の創生を担う人材を育てたい」と寺岡学部長は話す。

パイオニアの岐阜大も「国際」に舵を切る

今年度からスタートした福井大学の国際地域学部に対し、地域系学部の成功事例として他校からベンチマークにされることも多いのが岐阜大学の地域科学部。1996年に全国初の地域系学部として開設された。

「地域社会でリーダーシップを発揮する人間を育てること。それが設置当初からの当学部の狙いだ」と、地域科学部の和佐田裕昭学部長は話す。そのためのカリキュラムで特徴的なのは、1年次と3年次に地域の課題に取り組む実習と、1年次から4年次まで継続するセミナーだ。

実習は福井大学と同様、提携している岐阜県内の企業や自治体、福祉団体、博物館などの現場で課題に取り組むスタイル。「岐阜の産業遺産調査」や「郡上市の行政財政運営に関する調査」といった実践的な課題解決を授業で経験できるわけだ。

セミナーは少人数制を徹底。2年の後期から卒業時まで続く専門セミナーは1クラスに1学年4人のみ

だ。当然、発表や議論の機会が増え、おのずとコミュニケーション能力や表現力が磨かれるという。

特筆すべきはセミナーの選考方法だ。1年次の初年度セミナーから志望理由書を提出させる。さらに専門セミナーを選ぶ際には最低でも三つ以上のセミナーを見学。教員から見学した証しの捺印をもらったうえで、志望するセミナーに1000字ほどの志望理由書を書いて提出する。そもそもは教員側が学生に真剣な選択を求めるために始めた仕組み



を「国際地域学部」として新設した。

地域創生に不可欠のグローバルな視点

「学部設立に至った理由は地元のニーズに尽きる」と福井大学国際地域学部の寺岡英男学部長は言う。

「昨年の県内の高校卒業者は約7400人だったが、福井県内5大学すべて合わせても人文・社会科学系学部の定員は430人のみ。若年層の県外流出を食い止める受け皿として、人文・社会科学系に当たる学部が必要だ」という認識があった(寺岡学部長)。

学部名に「国際」をつけたのも、地元ニーズを反映した結果だ。福井県の経済は繊維や眼鏡といったものづくりが支えられてきたが、近年はグローバル化の波にもまれ、解決すべき問題が山積している。

「福井に限らず、今や地域の課題の解決には、国際的な視点が必要だ」と寺岡学部長。国際地域学部は、その名前のとおり「地域」と「国際」を融合させたユニークなカリキュラムを用意している。

同学部は「徹底した英語教育と海外留学による異文化理解教育」を標榜。ネイティブの英語教員を中心に、1年次から集中的に英語を学習させる。学生は「グローバルアプロ

ーチ」と「地域創生アプローチ」という二つの履修スタイルを選択できるが、「グローバル」選択者は半年以上の海外留学が必修だ。

福井大学は文部省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業に採択され、4年前から英語教育の改革も行っている。グローバル人材育成で知られる国際教養大学から元国際センター長だった教員を招聘。そのコネクションを生かして、世界数十校と交換留学提携を結ぶ計画を実行している。国際地域学部の取り組みも、こうした土台があればこそだ。

「グローバル対応は全学的に加えていく方針だが、一気に進めるのは難しい。国際地域学部には、大学全体の国際化の牽引役になることも期待されている」(寺岡学部長)。

「課題探索プロジェクト」と銘打ったカリキュラムも同学部の特徴の一つだ。これは学生が企業や自治体に入り込み、それぞれが抱える課題解決に取り組む授業。地域の現実を即した実践的な学習となっている。

その他の開講科目も実に多彩だ。ユニークなのが医学部、工学部と連携した「文理融合型教育」を打ち出したこと。総合科学科目という専門科目を用意し、建築・住居環境や医療・保健などの基本を学ぶ。

だったが、このプロセスそのものが意外な効果を生み出している。

「セミナーの選択だけでなく、実習を選ぶときも含めて、学生はその都度、能動的にカリキュラムを調べ、志望理由書を書く必要がある。それが『学びたいこと』『将来やりたいこと』を内省する格好の契機になっている」(和佐田学部長)。

加えて、同学部では人文科学、社会科学、自然科学といった幅広い学問を横断的に学べる仕組みが用意されており、学生は文理両方をフレキ

シブルに受講できる。実習やセミナーを通して自発的に学ぶ姿勢を身につけ、進路選択に対するモチベーションが高まった学生の多様な学習ニーズにも対応が可能だ。

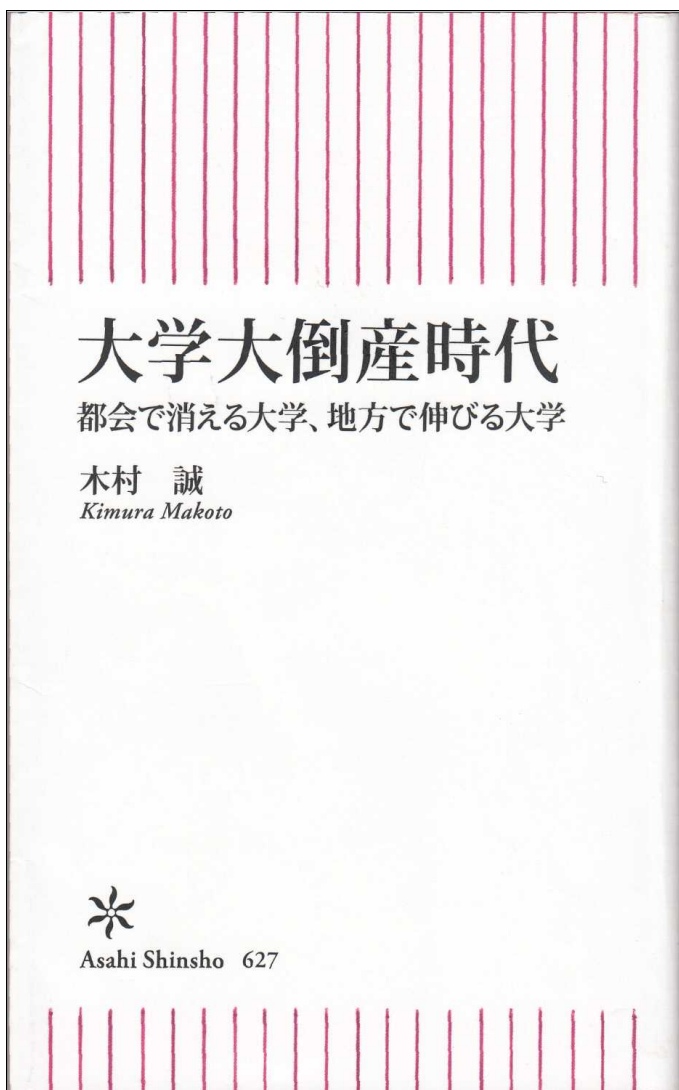
こうしたカリキュラム整備による教育効果は、就職率の高さにも表れている。地域科学部の学生の就職率はつねに90%以上。その内訳をみると、岐阜県または隣の愛知県で就職する学生が85%と極めて多い(15年度)。同学部は、まさに地域に貢献する人材育成の拠点となっている。「当初は『何を教える学部?』といふがしがらまれたが、今では県内企業から『地域科学部の卒業生は優秀だ』と学部名指しで評価される」(和佐田学部長)。

グローバル化への対応も進めている。今年度から「国際教養コース」の履修モデルを設け、1年の留学を単位として組み込んだ。「地域」と、岐阜周辺のことだけと思われがちだが、世界のどこに行っても、その地域が抱える課題の解決に取り組むことができ、人材を輩出するのが狙い」と和佐田学部長は話す。

福井大学も岐阜大学もグローバル志向という点では、共通の問題意識を持っているといえるだろう。地域貢献で大学に求められるのは「グローバル」な人材の育成なのだ。



木村誠著(2017)『大学大倒産時代』(朝日新聞出版)において、本学部の創立20年来の取り組みがとても高く評価されました。



木村 誠[著]

『大学大倒産時代』

朝日新書627 朝日新聞出版

2017年8月発行 定価(税込み821円)

**本書において、
地域科学部の創立
20年来の取り組み
が、とても高く評価
されました。**

次の①～④が本学部の特徴を表す主なポイント、⑤が本学部のことが紹介されている箇所
の全文です。

「地域科学では先駆者の岐阜大学」

(木村2017:188-190)

①「**岐阜大**地域科学部の出身者は**視野が広く、アンテナを広く張れる**」と**企業からの評価が年々高まっている**。就職氷河期と言われた10年前でも**就職内定率は95%**をキープしていた。

②同学部は、さまざまに変化する地域の問題に自主的に取り組み、**個々の問題意識に応じて必要な専門知識が身につけられるというカリキュラム**になっている。**教員1人あたり最大4人という少人数教育**を3年次(※【注】2年後期～4年後期)まで続け、その成果をまとめて卒業研究・卒業論文を作成する。

③漠然と「公務員の就職に有利かも」ぐらいの動機で入学した学生が、**地域の問題を研究していく中で問題意識が生まれ、各種の課題に取り組んでいくようになる**。**入学時より、だんだん学びへの意欲が高まっていく**。中退率が問題になる今、評価すべき点だ。

④最近、連続して生まれている国立大学の地域活性化を目標にした新学部も、**岐阜大学をモデルケース**に、さらに地元の特性を十分に取り入れて展開すべきだろう。

(木村2017:188-190)

⑤地域科学では先駆者の岐阜大学 (木村2017:188-190)

20年以上も前に岐阜大学がつくった地域科学部は、日本における地域科学のパイオニア的存在だ。しかし、その間は実に長い試行錯誤と地味な取り組みが必要だった。

開設当初は、その創立意図がなかなか広く理解されず苦勞したという。「地域科学」という言葉はアメリカでは一般化していたが、日本では定着していなかった。

数年前に「グローバル人材の育成」が大学教育のスローガンになったときに、ローカルと合せて、複眼的にアプローチする「グローバル」という造語を、元同学部長が積極的に提唱したが、その時でもまだ早すぎたのか、あまり注目されなかった。3～5年前くらいから、やっとなビジネス用語としてもポピュラーになった。前述した福井大学の国際地域科学部の、地域に根差しつつ、「世界に羽ばたく『グローバル化』というキヤッチフレーズ」が良い例だ。

大学教育の理念や取り組みが広く世間に受け入れられるようになるには、時間がかかる。その点は、地域活性化で画期的なプランやプロジェクトを提案しても、なかなか地元では受け入れられないという先例かもしれない。

ただ「岐阜大地域科学部の出身者は視野が広く、アンテナを広く張れる」と企業からの評価が年々高まっている。就職氷河期と言われた10年前でも就職内定率は95%をキープしていた。

同学部は、さまざまに変化する地域の問題に自主的に取り組み、個々の問題意識に応じて必要な専門知識が身につけられるというカリキュラムになっている。教員1人あたり最大4人という少人数教育を3年次(※【注】2年後期～4年後期)まで続け、その成果をまとめて卒業研究・卒業論文を作成する。漠然と「公務員の就職に有利かも」ぐらいの動機で入学した学生が、地域の問題を研究していく中で問題意識が生まれ、各種の課題に取り組んでいくようになる。入学時より、だんだん学びへの意欲が高まっていく。中退率が問題になる今、評価すべき点だ。

大学が地元で直接貢献できる即戦力の人材を育成するのはなかなか難しい。むしろ、地域におけるどのような仕事にも必要な適応能力やコミュニケーション能力を身につけることが大切だ。地域の問題を科学として教育研究することを目的としているので、どの地域にも共通するさまざまな問題について研究テーマになることが多い。当然、そのテーマは期間限定のプロジェクトでなく、息の長い教育研究が必要になってくる。そこに大学の価値がある。

最近、連続して生まれている国立大学の地域活性化を目標にした新学部も、岐阜大学をモデルケースに、さらに地元の特性を十分に取り入れて展開すべきだろう。

(※注記は本学部広報委員会)

地域科学部主催公開講座(直近4年間)

年 度	タイトル	人 数
平成26年度	岐阜の「地域再生」を考える(一般・学生対象)	80
	岐阜の「地域再生」を考える(郡上高校生対象)	187
平成27年度	地域における「共生」を考える(一般・学生対象)	56
	地域における「共生」を考える(郡上高校生対象)	160
平成28年度	岐阜の魅力から「地域再生」を考える(一般・学生対象)	65
	岐阜の魅力から「地域再生」を考える(郡上高校生対象)	133
平成29年度	地域科学部の授業(一般・学生)	190
	計	871

※平成26(2014)年度から、公開講座を無料化し、定員を拡充した。

公開講座テーマ一覧

年度	テーマ	申込人数	参加者数
H5			
H6	資料なしのため不明		
H7			
H8	いのち-〈生命〉の科学と文化-		
H9	いのちを考える		
H10	混乱の時代を超えて-今をいかに生きるか		
H11	20世紀とは何だったのか？		
	川と生きる		48
H12	地域に生きる-地域社会と生活-		43
H13	地域に生きるパート2-地域経済と生活-		43
H14	資料なしのため不明		66
H15	近代日本の人物像Ⅱ		89
H16	地域に学ぶ		12
H17	近代日本の人物像Ⅲ		55
H18	戦争と平和を考える		69
H19	戦争と平和を考えるⅡ		59
H20	戦争と平和を考えるⅢ		53
H21	〈地域〉を研究する楽しみ		42
H22	育てよう！”♡地球人”考えよう！地球環境の未来	27	26
H23	長良川の自然、文化と地域科学	27	23
H24	戦争と平和を考えるⅣ	36	35
H25	「若者たちのいま」を考える	28	25
H26	岐阜の「地域再生」を考える	100	80
	(郡上高校)		187
H27	地域における「共生」を考える	72	56
	(郡上高校)		160
H28	岐阜の魅力から「地域再生」を考える	87	65
	(郡上高校)		133
H29	地域科学部の授業	103	93

高校生のための街なかオープンカレッジ:岐阜県内の三大学連携による社会貢献事業

岐阜県の高校生の県外流出問題に関して、岐阜県の呼びかけにより、岐阜経済大学、岐阜大学地域科学部及び岐阜県が連携して「高校生のための街なかオープンカレッジ」を平成20(2008)年度から始めた。その後、当該事業に岐阜市立女子短期大学も加わり、県内の国公立の三大学の協定(平成22(2010)年)を基本に、中京学院大学、関係市町村とも連携しながら継続し、現在に至る。

当該事業は、地元の大学でも、経済学・経営学、まちづくり・自治・環境・文化・社会、デザイン・ファッション、まちづくりなどの多彩なテーマについて高校生の住む「地元」を素材に学ぶことができることを、ミニ講義及びフィールドワークを通じて体験してもらうとともに、高校生と大学生の交流も図っている。その狙いは、ソーシャルキャピタル及びシティズンシップの醸成、つまり地域とや人びととの結びつきを意識・重視し、行動する市民を発見・養成することにある。これまで岐阜市、大垣市をはじめとして、高山市、郡上市、多治見市、美濃加茂市など、県内各地で開催してきた。

平成26(2014)年以降は、高校や行政、NPO などとも連携して、夏に岐阜市の柳ヶ瀬やメディアコスモス周辺、秋に中津川市・恵那市地域において開催している。まちづくりに関心のある希望者が参加しており、主目的とは別に、結果として、各大学への推薦入試から実際の入学までも繋がる成果を挙げている。協力いただく自治体サイドからも、地方創生の取組みの中で、若者の定住や U ターンまでを視野に入れたひとづくり・まちづくりの事業として理解を得ている。

平成 30 年度の岐阜市と中津川市でのオープンカレッジ

高校生のための街なかオープンカレッジ in 岐阜



高校生の皆さんは、大学で何を学びますか。
そもそも大学で学ぶとはどういった事でしょうか？
大学の先に、社会や地域で何が待っているのでしょうか？

岐阜大学地域科学部と岐阜市立女子短期大学がオープンカレッジを開催し、岐阜市の街なかで地域に開かれた学びの場を提供します！！

□日時 : 2018年8月11日(土) 10時30分から15時30分
□会場(集合) : みんなの森 メディアコスモス 考えるスタジオ (解散) : 柳ヶ瀬あい愛ステーション
□プログラム
午前の部 : 10時30分から12時頃
『建築空間の見方』 日井直之(岐阜市立女子短期大学)
人気施設「みんなの森 メディアコスモス」の魅力を建築学の視点から説明します。
昼食 : 12時頃から13時頃 (各自ご持参ください)
午後の部 : 13時頃から15時30分頃
『まちなかの魅力 - 新しくなった柳ヶ瀬商店街を探索する -』
富樫幸一(岐阜大学)
メディアコスモスから柳ヶ瀬あい愛ステーションまで歩きながら、岐阜の街を観察しまちの成り立ちを地理学の視点から解説します。さらに、柳ヶ瀬商店街での新たな動きと将来の展望について、皆で議論するワークショップを行います。

□申込み : 当日参加可能ですが、整理の都合上、事前にお申し込み頂けると幸いです
□申込み期間 : 7月2日より27日まで
□申込み方法 : 「問合先」へ、郵送、FAX、e-mail いずれかの方法にて
個人で、あるいは高校でまとめて申し込み、どちらでもOKです
□問合先 : 岐阜大学地域科学部 (担当: 富樫)
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
TEL: 058-293-3002 FAX: 058-293-3008
Mail: chiki@gifu-u.ac.jp
□会場
みんなの森 メディアコスモス 柳ヶ瀬あい愛ステーション



主催 : 岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学・岐阜経済大学 / 後援 : 岐阜県・岐阜市

申し込み用紙(8月11日の街なかオープンカレッジに参加します)

_____ 高校 _____ 学年 氏名 _____

地域連携プロジェクト 岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学・中京学院大学
後援: 恵那市・中津川市・岐阜県

高校生のための街なかオープンカレッジ 2018 in 東美濃 中津川の街を考える／歩く

高校生の皆さん、今、受験や進学に向けて、どのような大学や学部で学びたいのか、いろいろと考えていませんか。岐阜県の大学が共同で開催する街なかオープンカレッジは、こんなことを皆さんに伝えたいと思っています。

■「まち」を素材に「研究」すること。「まち」を素材に「稼ぐ」ということ。
私たちが住む「まち」。実は、いろんな分野からのアプローチが可能です(経済学、経営学、法学、まちづくり、地理、建築、デザイン・・・)。大学での学びを体感してください。講師は岐阜大学の富樫さん。
私たちが住む「まち」。実は、まだまだビジネスの可能性が広がります。その一コマを実践者の立場から話してもらいます。講師は一般社団法人ヒガシミノ団地の松下山さん。
私たちが住む「まち」。富樫さんと松下山さんの話を通して、大学での学びのさらにその先——自分にとっての「まち」——をあらたに発見し、考えてみませんか？

10月14日(日) 中津川市中央公民館
午前の部: 10時～11時半

◇ 富樫幸一さん(岐阜大学地域科学部):
岐阜市川原町のまちづくり: 協定、無電柱化、長良川おんぼく

◆ 松下山広さん(一般社団法人ヒガシミノ団地):
僕たちと皆さんで、地域と社会に新しい余白を作ります。

古い町並みを活かしたまちづくりについて、2つの町を比べながらトークをします。

午後の部: 12時半～15時半:
○ 中津川市本町のまちあるきとワークショップ
安藤嘉之さん(中津川歴史資料館館長)
矢野順子さん(中山道こまの会)
中山道館を歩いて、歴史的な遺産や町並みの整備などを学びます

□会場: 中津川市中央公民館
中津川市本町2丁目3-25

□連絡先: 岐阜大学地域科学部
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学地域科学部
代表: TEL 058-293-3002 FAX 058-293-3008
chiki@gifu-u.ac.jp

10月10日(木)までに上記FAXまたはE-mailへ高校名、学年および氏名をご連絡いただくか、申し込み用紙を郵送してください。

申し込み用紙 (10月14日の街なかオープンカレッジに参加します)

氏名	_____ 高校 _____ 学年
----	-------------------




CCN 連携事業

平成28(2016)年3月22日に岐阜大学地域科学部とシーシーエヌ株式会社は連携に関する協定書を交わし、連携協定締結後の共同事業として、地域科学部を紹介する15分番組を制作・放送した。



カテゴリから選ぶ

情報/ワ..暮らし...(3)

ケーブル局から選ぶ

シーシーエヌ(株)(3)

タグから選ぶ

検索条件

ぎだいずむ



検索結果一覧

並び順: おすすめ順 ▲ 人気順 新着順

ぎだいずむ #3



シリーズ

提供元: シーシーエヌ(株)

公開日: 2018年12月4日 ~

岐阜大学地域科学部の取り組みや学生を紹介する番組「ぎだいずむ」。岐阜大学地域科学部は、幅広い教養を身につけるとともに実習などを通じて地域の抱える問題などを実践的に考えるための学部です。その地域科学部も設立から20年余りが経ち、多くの卒業生が地域社会で活躍しています。今回は、現役の地域科学部の学生が卒業生の職場を訪問し、活躍ぶりや地域科学部で学んだことをどのようにいかしているのか「取材」をしてきました。その取材で学生たちが感じたこととは！？

ぎだいずむ #2



シリーズ

提供元: シーシーエヌ(株)

公開日: 2018年1月18日 ~

岐阜大学地域科学部の取り組みや学生を紹介する番組「ぎだいずむ」。第2回目となる今回は、学生たちの「実習教育」を取り上げます。実習教育では大学の外に出て、地域をフィールドにすることで社会やまちづくりについて実践的に学びます。フィールドワークの様子をご紹介しますとともに前回放送した地域科学部国際教養コースの留学生の「いま」の様子も合わせてお伝えします。地域を学び、活動する学生達の姿を是非ご覧ください！！

ぎだいずむ #1



シリーズ

提供元: シーシーエヌ(株)

公開日: 2017年9月4日 ~

岐阜大学地域科学部の取り組みや学生を紹介する番組「ぎだいずむ」。第1回目となる今回は、昨年度新設された「国際教養コース」の取り組みを紹介します。国際教養コースは1年間の海外留学が卒業要件となっています。留学を間近に控えた学生たちにスポットをあて、留学に対する思いや目標、将来の夢などを語ってもらいました。

地域科学部地域貢献一覧表(H25～29)

人数

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
岐阜県各委員会委員	14	7	13	14	14
岐阜市各委員会委員	29	20	34	32	25
岐阜県内市町村各委員会委員	19	10	9	11	14
愛知県各委員会委員	1	0	1	2	2
愛知県内市町村各委員会委員	3	2	2	4	4
計	66	39	59	63	59

平成25年度県市町村各種委員一覧

	兼業先	内容	期間	職名
1	岐阜県	岐阜県私立学校審議会委員	H22.12.15 ～ H26.12.14	准教授
2	岐阜県	岐阜県公益認定等審議会委員	H23.10.1 ～ H26.9.30	准教授
3	岐阜県	岐阜県労働委員会委員	H23.12.24 ～ H25.12.23	准教授
4	岐阜県	森林審議会委員	H24.4.1 ～ H26.3.31	准教授
5	岐阜県	事業評価監視委員会委員	H24.4.1 ～ H26.3.31	准教授
6	岐阜県	岐阜県屋外広告物審議会委員	H23.12.1 ～ H25.11.30	准教授
7	岐阜県	県営住宅退去者滞納家賃回収委託業務プロポーザル評価会議構成員	H25.7 ～ H25.9.30	准教授
8	岐阜県	岐阜県屋外広告物審議会委員	H25.12.1 ～ H27.11.30	准教授
9	岐阜県	行財政改革懇談会委員	H24.10.1 ～ H25.9.30	教授
10	岐阜県	岐阜県男女共同参画21世紀審議会委員	H24.6.1 ～ H26.5.31	教授
11	岐阜県	社会資本メンテナンスプラン検討委員会委員	H24.5 ～ H26.3.31	教授
12	岐阜県	教育委員会専門支援員	H25.6.10 ～ H26.3.31	教授
13	岐阜県	商工労働部労働委員会委員	H25.12.24 ～ H27.12.23	准教授
14	岐阜県	都市建築部営公園指定管理者評価員	H25.5.1 ～ H27.4.30	教授
15	岐阜市	優良農林水産事業者表彰審査委員	H24.1.29 ～ H27.1.28	教授
16	岐阜市	岐阜市都市計画審議会委員	H24.8.1 ～ H26.7.31	教授
17	岐阜市	岐阜市住民自治推進審議会委員	H25.6.2 ～ H27.6.1	教授
18	岐阜市	岐阜市都市経営戦略会議委員	H25.5 ～ H26.3.31	教授
19	岐阜市	岐阜駅北口土地区画整理審議会委員	H20.9.19 ～ H25.9.18	教授
20	岐阜市	岐阜市商工観光部指定管理者評価委員会委員	H24.8.1 ～ H28.7.31	准教授
21	岐阜市	岐阜市環境審議会委員	H25.1.1 ～ H26.12.31	准教授
22	岐阜市	岐阜市ものづくり産業集積地企業選定委員	H25.4.1 ～ H27.3.31	准教授
23	岐阜市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H23.10.1 ～ H25.9.30	准教授
24	岐阜市	岐阜市屋外広告物審議会委員	H25.5.1 ～ H27.4.30	准教授
25	岐阜市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H25.10.1 ～ H27.9.30	准教授
26	岐阜市	岐阜市行財政改革推進会議委員	H25.5.27 ～ H27.3.31	准教授
27	岐阜市	岐阜市職員倫理審査会委員	H23.8.1 ～ H25.7.31	准教授
28	岐阜市	岐阜市個人情報保護審議会委員	H23.10.1 ～ H25.9.30	准教授
29	岐阜市	岐阜市農林部指定管理選定委員	H24.10.10 ～ H28.9.30	准教授
30	岐阜市	岐阜市自然環境保全検討会議検討委員	H23.11.1 ～ H26.3.31	教授
31	岐阜市	岐阜市自然環境保全検討会議委員	H21.3.17 ～ H26.3.31	准教授
32	岐阜市	岐阜市市民参画部指定管理者選定委員会委員	H23.10.7 ～ H28.10.6	教授
33	岐阜市	岐阜市高齢者福祉計画推進委員会会長	H23.6.3 ～ H26.3.31	教授
34	岐阜市	岐阜市介護保険施設等整備法人選考委員会委員	H25.9.1 ～ H25.9.30	教授
35	岐阜市	岐阜市住民自治推進審議会委員	H23.6.2 ～ H25.6.1	教授
36	岐阜市	岐阜市市民活動支援事業審査委員会委員	H25.5.27 ～ H26.3.31	教授
37	岐阜市	岐阜市市民参画賞選考委員会	H25.8.26 ～ H25.10.1	教授
38	岐阜市	岐阜市外国人市民会議委員	H24.9.1 ～ H26.8.31	教授
39	岐阜市	教育委員会文化財審議会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	教授
40	岐阜市	中市民健康センター心理判定員	H25.4.1 ～ H26.3.31	教授
41	岐阜市	にぎわいまち公社評議員	H25.7 ～ H28.3.31	教授
42	岐阜商工会議所	岐阜市中心市街地活性化協議会会長	H25.10 ～ H29.3.31	教授
43	(財)岐阜市にぎわいまち公社	わがまち探検マップコンクール審査員	H25.4.1 ～ H26.3.31	准教授
44	多治見市	多治見市環境審議会委員	H25.5.25 ～ H27.5.24	教授
45	中津川市	中津川市リエアのまちづくりビジョン策定委員会委員	H24.6.1 ～ H26.3.31	准教授
46	中津川市	座長	H25.7 ～ H26.3.31	教授
47	中津川市	副座長	H25.7 ～ H26.3.31	准教授
48	郡上市	市役所和良振興事務所コーディネーター	H25.9.1 ～ H26.3.31	准教授
49	郡上市	市役所和良振興事務所コーディネーター	H25.9.1 ～ H26.3.31	教授
50	本巣市	本巣市笑顔のまちづくり懇談会委員	H25.6 ～ H26.3.31	教授
51	本巣市	本巣市事務事業評価外部評価委員	H25.10.1 ～ H25.12.25	准教授
52	本巣市	男女共同参画推進懇話会委員	H23.7.1 ～ H25.6.30	准教授
53	恵那市	恵那市総合計画推進市民委員会会長	H25.6 ～ H28.3.31	教授
54	恵那市	恵那市行財政改革推進審議会のオブザーバー	H25.6 ～ H27.3.31	教授
55	大垣市	行政改革推進審議会委員	H23.6.1 ～ H25.5.31	教授
56	大垣市	大垣市行政改革推進審議会委員	H25.10.1 ～ H27.9.30	教授
57	各務原市	個人情報保護審議会委員	H24.4.1 ～ H26.3.31	教授
58	可児市	まちづくり活動助成審査委員会委員	H24.5.1 ～ H26.4.30	教授
59	可児市	まちづくり審議会委員	H24.7.1 ～ H26.6.30	教授
60	大野町役場	大野町北部山麓の森林整備まちづくり委員	H24.8.2 ～ H26.8.1	教授
61	揖斐川町役場	揖斐川町男女共同参画推進審議会会長	H25.4.1 ～ H27.3.31	准教授
62	御嵩町	御嵩町湿地保全検討委員会委員	H25.8.9 ～ H26.3.31	教授
63	愛知県	愛知県長良河河口堰最適運用検討委員会委員	H25.4.1 ～ H26.3.31	教授
64	愛西市	子どもの心の健康づくり事業推進実行委員会委員	H25.4.1 ～ H27.3.31	教授
65	一宮市	一宮市都市計画審議会委員	H24.6.1 ～ H26.5.31	教授
66	春日井市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H25.4.1 ～ H27.3.31	教授

平成26年度県市町村各種委員一覧

	兼業先	内容	期間	職名
1	岐阜県	事業評価監視委員会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	准教授
2	岐阜県	岐阜県屋外広告物審議会委員	H25.12.1 ～ H27.11.30	准教授
3	岐阜県	岐阜県男女共同参画21世紀審議会委員	H24.6.1 ～ H26.5.31	教授
4	岐阜県	商工労働部労働委員会委員	H25.12.24 ～ H27.12.23	准教授
5	岐阜県	都市建築部県営公園指定管理者評価員	H25.5.1 ～ H27.4.30	教授
6	岐阜県	岐阜県私立学校審議会委員	H22.12.15 ～ H26.12.14	准教授
7	岐阜県	岐阜県公益認定等審議会委員	H23.10.1 ～ H26.9.30	准教授
8	岐阜市	優良農林水産事業者表彰審査委員	H24.1.29 ～ H27.1.28	教授
9	岐阜市	岐阜市都市計画審議会委員	H24.8.1 ～ H26.7.31	教授
10	岐阜市	岐阜市住民自治推進審議会委員	H25.6.2 ～ H27.6.1	教授
11	岐阜市	岐阜市商工観光部指定管理者評価委員会委員	H24.8.1 ～ H28.7.31	准教授
12	岐阜市	岐阜市環境審議会委員	H25.1.1 ～ H26.12.31	准教授
13	岐阜市	岐阜市ものづくり産業集積地企業選定委員	H25.4.1 ～ H27.3.31	准教授
14	岐阜市	岐阜市屋外広告物審議会委員	H25.5.1 ～ H27.4.30	准教授
15	岐阜市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H25.10.1 ～ H27.9.30	准教授
16	岐阜市	岐阜市行財政改革推進会議委員	H25.5.27 ～ H27.3.31	准教授
17	岐阜市	岐阜市職員倫理審査会委員	H25.8.1 ～ H27.7.31	准教授
18	岐阜市	岐阜市農林部指定管理選定委員	H24.10.10 ～ H28.9.30	准教授
19	岐阜市	岐阜市自然環境保全連絡会議検討委員	H26.4.1 ～ H29.3.31	教授
20	岐阜市	岐阜市自然環境保全連絡会議検討委員	H26.4.1 ～ H29.3.31	准教授
21	岐阜市	岐阜市市民参画部指定管理者選定委員会委員	H23.10.7 ～ H28.10.6	教授
22	岐阜市	岐阜市住民自治推進審議会委員	H25.6.2 ～ H27.6.1	教授
23	岐阜市	岐阜市外国人市民会議委員	H24.9.1 ～ H26.8.31	教授
24	岐阜市	岐阜市教育委員会文化財審議会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	教授
25	岐阜市	中市民健康センター心理判定員	H26.4.1 ～ H27.3.31	教授
26	岐阜市	にぎわいまち公社評議員	H25.7 ～ H28.3.31	教授
27	岐阜商工会議所	岐阜市中心市街地活性化協議会会長	H25.10 ～ H29.3.31	教授
28	恵那市	恵那市総合計画推進市民委員会会長	H25.6 ～ H28.3.31	教授
29	恵那市	恵那市行財政改革推進審議会のオブザーバー	H25.6 ～ H27.3.31	教授
30	大垣市	大垣市行政改革推進審議会委員	H25.10.1 ～ H27.9.30	教授
31	各務原市	各務原市個人情報保護審議会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	教授
32	多治見市	多治見市環境審議会委員	H25.5.25 ～ H27.5.24	教授
33	可児市	まちづくり活動助成審査委員会委員	H24.5.1 ～ H26.4.30	教授
34	可児市	まちづくり審議会委員	H24.7.1 ～ H26.6.30	教授
35	可児市	まちづくり活動助成審査委員会委員	H26.5.1 ～ H28.4.30	教授
36	揖斐川町役場	揖斐川町男女共同参画推進審議会会長	H25.4.1 ～ H27.3.31	准教授
37	大野町役場	大野町北部山麓の森林整備まちづくり委員	H24.8.2 ～ H26.8.1	教授
38	春日井市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H25.4.1 ～ H27.3.31	教授
39	愛西市	子どもの心の健康づくり事業推進実行委員会委員	H25.4.1 ～ H27.3.31	教授

平成27年度県市町村各種委員一覧

	兼業先	内容	期間	職名
1	岐阜県	岐阜県私立学校審議会委員	H27.8.1 ～ H31.7.31	教授
2	岐阜県	岐阜県公益認定等審議会委員	H26.10.1 ～ H29.9.30	教授
3	岐阜県	事業評価監視委員会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	教授
4	岐阜県	森林審議会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	教授
5	岐阜県	職業能力開発審議会委員	H26.6.1 ～ H28.5.31	教授
6	岐阜県	リニア岐阜県駅・駅周辺整備協議会委員	H26.9 ～ H31.3.31	教授
7	岐阜県	岐阜県河川整備計画検討委員会委員	H26.12.1 ～ H28.3.31	教授
8	岐阜県	岐阜県開発審査会委員	H27.6.20 ～ H29.6.19	教授
9	岐阜県	岐阜県屋外広告物審議会委員	H27.12.1 ～ H29.11.30	准教授
10	岐阜県	岐阜県災害廃棄物処理計画検討委員	H27.5.1 ～ H28.3.31	准教授
11	岐阜県	岐阜県男女共同参画二十一世紀審議会委員	H26.6.1 ～ H28.5.31	教授
12	岐阜県	教育委員会発達障がい県専門支援員	H27.4.1 ～ H28.3.31	教授
13	岐阜県	岐阜県商工労働部労働委員会委員	H27.12.24 ～ H29.12.23	教授
14	岐阜市	岐阜市市街地活性化創造会議委員	H27.4 ～ H28.3.31	教授
15	岐阜市	岐阜市都市計画審議会委員	H26.6.1 ～ H28.7.31	教授
16	岐阜市	みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会委員	H27.2.18 ～ H29.2.17	教授
17	岐阜市	岐阜市住居表示審議会委員	H26.6.1 ～ H28.5.31	教授
18	岐阜市	岐阜市商工観光部指定管理者評価委員会委員	H24.8.1 ～ H28.7.31	教授
19	岐阜市	岐阜市環境審議会委員	H27.5.1 ～ H30.4.30	教授
20	岐阜市	新庁舎建設業務委託事業者審査委員会委員	H27.1.1 ～ H27.5.31	教授
21	岐阜市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H27.10.1 ～ H29.9.30	准教授
22	岐阜市	岐阜市屋外広告物審議会委員	H27.5.1 ～ H29.4.30	准教授
23	岐阜市	岐阜市行財政改革推進会議委員	H27.5.20 ～ H29.3.31	准教授
24	岐阜市	岐阜市個人情報保護審議会委員	H26.6.2 ～ H27.9.30	准教授
25	岐阜市	岐阜市職員倫理審査会委員	H25.8.1 ～ H27.7.31	准教授
26	岐阜市	岐阜市個人情報保護審議会委員	H27.10.1 ～ H29.9.30	准教授
27	岐阜市	岐阜市農林部指定管理選定委員	H24.10.10 ～ H28.9.30	准教授
28	岐阜市	岐阜市産・農振興創造会議委員	H27.6.1 ～ H28.3.31	准教授
29	岐阜市	岐阜市グリーンツーリズム体験プログラム調査業務委託事業者審査委員会委員長	H27.5.1 ～ H28.3.31	准教授
30	岐阜市	岐阜市自然環境保全連絡会議検討委員	H27.6.29 ～ H29.6.28	教授
31	岐阜市	岐阜市ユニバーサルデザイン賞専攻委員会委員	H27.7.1 ～ H28.3.31	准教授
32	岐阜市	岐阜市自然環境保全推進委員会委員	H27.6.29 ～ H29.6.28	准教授
33	岐阜市	岐阜市自然環境保全連絡会議検討委員	H26.4.1 ～ H29.3.31	准教授
34	岐阜市	岐阜市みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会委員	H27.4.1 ～ H29.3.31	教授
35	岐阜市	岐阜市市民参画部指定管理者選定委員会委員	H23.10.7 ～ H28.10.6	教授
36	岐阜市	岐阜市外国人市民会議委員	H26.10.1 ～ H28.9.30	教授
37	岐阜市	岐阜市住民自治推進審議会委員	H27.7.11 ～ H29.7.10	教授
38	岐阜市	岐阜市民参画賞選考委員会	H27.8.24 ～ H27.10.1	教授
39	岐阜市	岐阜市市民活動支援事業審査委員会	H27.6.3 ～ H28.3.31	教授
40	岐阜市	岐阜市職員倫理審査会委員	H27.8.1 ～ H29.7.31	助教
41	岐阜市	岐阜市教育委員会文化財審議会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	教授
42	岐阜市	岐阜市教育委員会青少年会館運営委員会委員	H26.8.1 ～ H28.7.31	准教授
43	岐阜市	心理判定員	H27.4.1 ～ H28.3.31	教授
44	岐阜市	にぎわいまち公社評議員	H25.7.1 ～ H28.3.31	教授
45	岐阜商工会議所	岐阜市中心市街地活性化協議会会長	H25.10 ～ H29.3.31	教授
46	(財)岐阜市にぎわいまち公社	わがまち探検マップコンクール審査員	H27.4.1 ～ H28.3.31	准教授
47	本巣市	本巣市事務事業評価外部評価委員	H26.11.7 ～ H26.11.19	准教授
48	恵那市	恵那市総合計画審議会会長	H26.5 ～ H28.3.31	教授
49	恵那市	教育委員会恵那南地区中学校再編委員会委員オブザーバー	H27.5.20 ～ H28.3.31	教授
50	大垣市	大垣市行政改革推進審議会委員	H25.10.1 ～ H27.9.30	教授
51	大野町役場	大野町北部山麓の森林整備まちづくり委員	H27.10.21 ～ H30.3.31	教授
52	各務原市	各務原市個人情報保護審議会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	教授
53	各務原市	各務原市教育委員会スポーツ推進計画策定委員会委員	H26.6.1 ～ H28.3.31	教授
54	美濃市	美濃市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定会議委員	H27.4.17 ～ H29.3.31	准教授
55	本巣市	本巣市計画審議会委員	H27.2 ～ H29.2.28	准教授
56	可児市	まちづくり審議会委員	H26.7.1 ～ H28.6.30	教授
57	愛知県	愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員	H27.4.1 ～ H28.3.31	教授
58	春日井市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H27.4.1 ～ H29.3.31	教授
59	春日井市	春日井市開発審査会委員	H27.4.1 ～ H29.3.31	教授

平成28年度県市町村各種委員一覧

	兼業先	内容	期間	職名
1	岐阜県	「リニア岐阜県駅周辺整備概略設計に係るにぎわい創出基本調査委託業務」グローバル評価会議委員	H28.6.15 ～ H28.7.31	教授
2	岐阜県	岐阜県屋外広告物審議会委員	H27.12.1 ～ H29.11.30	准教授
3	岐阜県	事業評価監視委員会委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
4	岐阜県	職業能力開発審議会委員	H28.6.1 ～ H30.5.31	教授
5	岐阜県	森林審議会委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
6	岐阜県	教育委員会発達障がい県専門支援員	H27.4.1 ～ H28.3.31	教授
7	岐阜県	リニア岐阜県駅・駅周辺整備協議会委員	H26.9 ～ H31.3.31	教授
8	岐阜県	岐阜県私立学校審議会委員	H27.8.1 ～ H31.7.31	教授
9	岐阜県	岐阜県開発審査会委員	H27.6.20 ～ H29.6.19	教授
10	岐阜県	岐阜県行政不服審査会委員	H28.4.1 ～ H31.3.31	准教授
11	岐阜県	岐阜県県営住宅退去者滞納家賃回収委託業務ビロボーガル評価会議構成員	H28.7.20 ～ H28.8.30	准教授
12	岐阜県	岐阜県公益認定等審議会委員	H26.10.1 ～ H29.9.30	教授
13	岐阜県	岐阜県男女共同参画二十一世紀審議会委員	H26.6.1 ～ H28.5.31	教授
14	岐阜県	岐阜県商工労働部労働委員会委員	H27.12.24 ～ H29.12.23	教授
15	岐阜市	岐阜市屋外広告物審議会委員	H27.5.1 ～ H29.4.30	准教授
16	岐阜市	岐阜市外国人市民会議委員	H26.10.1 ～ H28.9.30	教授
17	岐阜市	岐阜市環境事業部指定管理者選定委員会委員	H28.10.1 ～ H32.9.30	教授
18	岐阜市	岐阜市環境審議会委員	H27.5.1 ～ H30.4.30	教授
19	岐阜市	岐阜市行財政改革推進会議委員	H27.5.20 ～ H29.3.31	准教授
20	岐阜市	岐阜市行政不服審査会委員	H28.4.15 ～ H30.4.14	准教授
21	岐阜市	岐阜市グリーンツーリズム体験プログラム調査業務委託事業者審査委員会委員長	H28.5.13 ～ H28.10.31	准教授
22	岐阜市	岐阜市個人情報保護審議会委員	H27.10.1 ～ H29.9.30	准教授
23	岐阜市	岐阜市自然環境保全推進委員会委員	H27.6.29 ～ H29.6.28	准教授
24	岐阜市	岐阜市自然環境保全連絡会議検討委員	H27.6.29 ～ H29.6.28	教授
25	岐阜市	岐阜市自然環境保全連絡会議検討委員	H26.4.1 ～ H29.3.31	准教授
26	岐阜市	岐阜市市民活動支援事業審査委員会	H27.6.3 ～ H28.3.31	教授
27	岐阜市	岐阜市市民活動支援事業審査委員会委員	H28.5.24 ～ H29.3.31	教授
28	岐阜市	岐阜市市民参画部指定管理者選定委員会委員	H23.10.7 ～ H28.10.6	教授
29	岐阜市	岐阜市住居表示審議会委員	H26.6.1 ～ H28.5.31	教授
30	岐阜市	岐阜市住民自治推進審議会委員	H27.7.11 ～ H29.7.10	教授
31	岐阜市	岐阜市商工観光部指定管理者評価委員会委員	H24.8.1 ～ H28.7.31	教授
32	岐阜市	岐阜市職員倫理審査会委員	H27.8.1 ～ H29.7.31	助教
33	岐阜市	岐阜市教育委員会青少年会館運営委員会委員	H26.8.1 ～ H28.7.31	准教授
34	岐阜商工会議所	岐阜市中心市街地活性化協議会会長	H25.10.1 ～ H29.3.31	教授
35	岐阜市	岐阜市都市計画審議会委員	H28.8.1 ～ H30.7.31	教授
36	岐阜市	岐阜市農林部指定管理選定委員	H24.10.10 ～ H28.9.30	准教授
37	岐阜市	岐阜市教育委員会文化財審議会委員	H26.4.1 ～ H28.3.31	教授
38	岐阜市	岐阜市民参画賞選考委員会	H27.8.24 ～ H27.10.1	教授
39	岐阜市	岐阜市民参画賞選考委員会委員	H28.8.23 ～ H28.10.3	教授
40	岐阜市	岐阜市みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会委員	H27.4.1 ～ H29.3.31	教授
41	岐阜市	岐阜市ユニバーサルデザイン賞専攻委員会委員	H27.7.1 ～ H28.3.31	准教授
42	岐阜市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H27.10.1 ～ H29.9.30	准教授
43	岐阜市	みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会委員	H27.2.18 ～ H29.2.17	教授
44	可児市	まちづくり審議会委員	H26.7.1 ～ H28.6.30	教授
45	御嵩町	御嵩町行政改革推進委員会委員	H28.11.1 ～ H30.10.31	教授
46	美濃市	美濃市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定会議委員	H27.4.17 ～ H29.3.31	准教授
47	本巣市	本巣市計画審議会委員	H27.2 ～ H29.2.28	准教授
48	本巣市	本巣市事務事業評価外部評価委員	H28.11.7 ～ H30.11.6	准教授
49	大垣市	大垣市都市再生整備計画事後評価委員会委員	H28.11.1 ～ H29.3.31	教授
50	恵那市	恵那市教育委員会学校運営協議会講師	H28.11.29 ～ H29.3.31	教授
51	川辺町	川辺町教育委員会小学校将来構想策定委員会委員	H28.5.24 ～ H29.5.31	教授
52	関市	関市行政不服審査会委員	H28.4.1 ～ H31.3.31	准教授
53	関市	関市公文書公開審査会委員	H28.4.1 ～ H31.3.31	准教授
54	関市	関市個人情報保護審査会委員	H28.4.1 ～ H31.3.31	准教授
55	多治見市	多治見市環境審議会委員	H27.6.1 ～ H29.5.24	教授
56	大野町役場	大野町北部山麓の森林整備まちづくり委員	H27.10.21 ～ H30.3.31	教授
57	各務原市	各務原市個人情報保護審議会委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
58	愛知県	愛知県地価調査会議委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
59	愛知県	愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員	H28.4.1 ～ H29.3.31	教授
60	瀬戸市	企業立地審査会委員	H28.4.1 ～ H28.12.31	教授
61	瀬戸市	都市計画・都市交通マスタープラン検討委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
62	春日井市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H27.4.1 ～ H29.3.31	教授
63	春日井市	春日井市開発審査委員会委員(経済部門)	H27.4.1 ～ H29.3.31	教授

平成29年度県市町村各種委員一覧

	兼業先	内容	期間	職名
1	岐阜県	岐阜県公益認定等審議会委員	H29.7.1 ～ H32.9.30	教授
2	岐阜県	岐阜県私立学校審議会委員	H27.8.1 ～ H31.7.31	教授
3	岐阜県	岐阜県庁立体駐車場整備事業プロポーザル評価会議構成員	H29.10.27 ～ H29.11.6	教授
4	岐阜県	岐阜県公安委員会委員	H29.12.19 ～ H32.12.18	教授
5	岐阜県	リニア岐阜県駅・駅周辺整備協議会委員	H26.9 ～ H31.3.31	教授
6	岐阜県	岐阜県開発審査会委員	H29.6.20 ～ H31.6.19	教授
7	岐阜県	事業評価監視委員会委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
8	岐阜県	森林審議会委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
9	岐阜県	職業能力開発審議会委員	H28.6.1 ～ H30.5.31	教授
10	岐阜県	岐阜県屋外広告物審議会委員	H27.12.1 ～ H29.11.30	准教授
11	岐阜県	岐阜県行政不服審査会委員	H28.4.1 ～ H31.3.31	准教授
12	岐阜県	岐阜県男女共同参画二十一世紀審議会委員	H28.6.1 ～ H30.5.31	教授
13	岐阜県	教育委員会発達障がい県専門支援員	H29.4.1 ～ H30.3.31	教授
14	岐阜県	岐阜県商工労働部労働委員会委員	H27.12.24 ～ H29.12.23	教授
15	岐阜市	みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会委員	H29.4.19 ～ H31.3.31	教授
16	岐阜市	岐阜市都市計画審議会委員	H28.8.1 ～ H30.7.31	教授
17	岐阜市	岐阜市住居表示審議会委員	H28.6.1 ～ H30.5.11	教授
18	岐阜市	岐阜市民参画賞選考委員会委員	H29.8.24 ～ H29.10.2	教授
19	岐阜市	岐阜市環境事業部指定管理者選定委員会委員	H28.10.1 ～ H32.9.30	教授
20	岐阜市	岐阜市環境審議会委員	H29.5.1 ～ H31.4.30	教授
21	岐阜市	岐阜市市民活動支援事業審査委員会委員	H29.5.17 ～ H30.3.31	教授
22	岐阜市	岐阜市都市建設部指定管理者評価委員会委員	H29.10.1 ～ H33.6.30	教授
23	岐阜市	岐阜市屋外広告物審議会委員	H28.5.1 ～ H31.4.30	准教授
24	岐阜市	情報公開・個人情報保護審査会委員	H29.10.1 ～ H31.4.30	准教授
25	岐阜市	岐阜市行政不服審査会委員	H28.4.15 ～ H30.4.14	准教授
26	岐阜市	岐阜市行財政改革推進会議委員	H29.5.26 ～ H31.10.1	准教授
27	岐阜市	岐阜市個人情報保護審議会委員	H29.10.1 ～ H31.9.30	准教授
28	岐阜市	岐阜市市民課窓口受付等業務委託事業者審査委員会委員	H29.8.1 ～ H29.10.31	准教授
29	岐阜市	岐阜市自然環境保全推進委員会委員	H29.7.1 ～ H31.6.30	教授
30	岐阜市	岐阜市ユニバーサルデザイン賞専攻委員会委員	H29.5.17 ～ H30.3.31	准教授
31	岐阜市	岐阜市自然環境保全推進委員会委員	H27.6.29 ～ H29.6.28	准教授
32	岐阜市	岐阜市みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会委員	H29.4.19 ～ H31.3.31	教授
33	岐阜市	岐阜市文学芸術振興推進策定委員会	H28.7.13 ～ H30.3.31	教授
34	岐阜市	岐阜市外国人市民会議委員	H28.11.1 ～ H30.9.30	教授
35	岐阜市	岐阜市職員倫理審査会委員	H29.8.1 ～ H30.3.31	准教授
36	岐阜市	岐阜市教育委員会文化財審議会委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
37	岐阜市	岐阜市教育委員会教育振興基本計画検討委員会委員	H29.5.1 ～ H31.4.30	准教授
38	岐阜市	中市民健康センター心理判定員	H29.4.1 ～ H30.3.31	教授
39	岐阜市	市立図書館文学年表の監修	H28.10.3 ～ H30.3.31	教授
40	関市	関市公文書公開審査会委員	H28.4.1 ～ H31.3.31	准教授
41	関市	関市個人情報保護審査会委員	H28.4.1 ～ H31.3.31	准教授
42	関市	関市行政不服審査会委員	H28.4.1 ～ H31.3.31	准教授
43	大垣市	大垣市都市再生整備計画事後評価委員会委員	H29.11.1 ～ H30.3.31	教授
44	大野町役場	大野町北部山麓の森林整備まちづくり委員	H27.10.21 ～ H30.3.31	教授
45	各務原市	各務原市個人情報保護審議会委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
46	多治見市	多治見市環境審議会委員	H27.6.1 ～ H29.5.24	教授
47	安八郡輪之内町	輪之内町公共施設等総合管理計画検討委員会委員	H29.10.18 ～ H31.10.17	教授
48	川辺町	川辺町まち・ひと・しごと創生審議会委員	H29.9.19 ～ H30.3.31	教授
49	御嵩町	御嵩町行政改革推進委員会委員	H28.11.1 ～ H30.10.31	教授
50	美濃市	美濃市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定会議委員(兼美濃市総合計画審議会)	H29.6.13 ～ H30.3.31	准教授
51	美濃市	美濃市教育委員会州原神社ブッポウソウ繁殖地保護管理計画等検討委員会委員	H28.10.1 ～ H32.9.30	教授
52	本巣市	本巣市事務事業評価外部評価委員	H28.11.7 ～ H30.11.6	准教授
53	柳津町商工会	柳津地域経済活性化共有会議及び経営発達支援計画委員会委員	H29.4.1 ～ H33.3.31	教授
54	愛知県	愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会委員	H29.4.1 ～ H30.3.31	教授
55	愛知県	愛知県地価調査会議委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
56	春日井市	春日井市開発審査委員会委員(経済部門)	H29.4.1 ～ H31.3.31	教授
57	瀬戸市	都市計画・都市交通マスタープラン検討委員	H28.4.1 ～ H30.3.31	教授
58	瀬戸市	企業立地審査会委員	H29.1.1 ～ H30.12.31	教授
59	愛西市	愛西市子どもの心の健康づくり事業推進実行委員会委員	H29.4.1 ～ H31.3.31	教授

本学部教員による平成29(2017)年度における特徴ある諸活動(教育、研究および社会連携等)の一覧です。これには、「岐阜大学環境方針」に基づく環境活動も含まれます。

●<参考>「岐阜大学環境方針」

岐阜大学は、本学が掲げる理念を達成するとともに、「環境ユニバーシティ」としての取組みを継続発展させ、環境に配慮した大学環境を創り出すとともに環境を担う優れた人材育成に努めます。

【基本方針】

- 1.岐阜大学の特長を生かした環境教育・研究を推進します。
- 2.岐阜大学の持つ教育力や研究力を生かし、地域社会に貢献します。
- 3.教育・研究活動の環境側面を常に認識し、環境影響を評価し、環境汚染の予防に努めます。
- 4.省エネルギー・省資源を推進し環境負荷の一層の軽減に努めます。
- 5.教育・研究に関わる環境関連法規制及び岐阜大学が同意するその他の要求事項を徹底順守します。
- 6.環境マネジメントシステムの見直しの枠組みを設定し、継続的な改善を図ります。
- 7.毎年度活動目標を設定し、達成していきます。

岐阜大学は、この環境方針を学内外に周知し、広く公開します。

※緑色の番号は環境活動を表す

1	【授業】地域科学部「地域学実習」：岐阜市中心市街地の高齢者の買物環境を生活の実情や健康状態と照らし合わせるように、調査・分析した。岐阜市、金華地区民生委員協議会の協力を得て調査した。調査報告書は、各協力者によるまちづくりの取り組みに活用して頂く。(高木 和美 教授)
2	【授業】地域科学部「化学実験」、「化学演習」、「微分方程式」：一部で、自然環境中の生物数の変化の数理など、環境問題に関する内容を扱った。(和佐田 裕昭 教授)
3	【授業】地域科学部「化学1」：一部で、環境と関連する化学物質の基礎について、量子論の観点から扱った。(和佐田 裕昭 教授)
4	【授業】地域科学部「専門セミナー」：一部で、結晶、気象との関連等、環境問題に関する内容を扱った。(和佐田 裕昭 教授)
5	【授業】地域科学部「卒論研究」：環境問題における公私協働をテーマにする学生がいるのでその指導を行った。(三谷 晋 准教授)
6	【授業】全学共通教育「環境マネジメントと環境経営」：講義1回5月8日月曜日2限目(三谷 晋 准教授)
7	【授業】地域科学部「地域研究入門」：一年時配当科目。「SATOVAMA学際研究」コーナーを始めた。講師は、向井貴彦准教授(6月23日(金))、山口未花子助教(6月30日(金))、林琢也准教授(7月7日(金))、その後のワークショップ(7月14日(金))、21日(金))。(三谷 晋 准教授)
8	【授業】全学共通教育「環境マネジメントと環境経営」：前学期月曜日2時限目。環境マネジメントシステムの枠組みを学び、EMSの実践活動につなげていくことの一環として「環境経営と環境経済」の講義を行った。(三井 栄 教授)
9	【授業】全学共通教育「環境マネジメントと環境経営」：後学期月曜日3時限目。環境マネジメントシステムの枠組みを学び、EMSの実践活動につなげていくことの一環として「環境経営と環境経済」の講義を行った。(三井 栄 教授)
10	【授業】全学共通教育「地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る」：前期講義(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]
11	【授業】全学共通教育「フューチャーセンター実践Ⅰ」：前期講義(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]
12	【授業】全学共通教育「地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る」：後期講義(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]
13	【授業】全学共通教育「フューチャーセンター実践Ⅱ」：後期講義(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]

教 育

※緑色の番号は環境活動を表す

14	【授業】フューチャーセンター実践Ⅱ報告会：12月9日に多治見市ながせ商店街で開催した第9回ふふフューチャーセンターに参加した「フューチャーセンター実践Ⅱ」の受講生が、事前学習、フューチャーセンター当日の内容及びその後の考察を踏まえ、空き店舗の活用方法や、商店街に多くの人が集まるにはどうしたらいいか、どのような場所が必要かを地域の方々に提案する報告会を開催し、その進行之務めた。参加者：多治見まちづくり株式会社、岐阜県、多治見市、商店街の方々など。ながせ商店街クラフトショップながせ3号館。1月11日(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]
15	【授業】全学共通教育「地域資源の活用と観光デザイン」：後期講義(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]
16	【授業】自治体協働型インターンシップのファシリテーター：7月26日(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]
17	【授業】COC+サマースクールへの参加：9月5日～7日(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]
18	【授業】地域科学部「専門セミナー」：都市における環境問題を取り上げ、それらの発生するメカニズムや問題点等について講義した。(十二村 佳樹 准教授)
19	【授業】地域科学部「専門セミナー」、「農村振興論」：講義の中で、環境保全と観光開発に係る問題や住民の環境意識、エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、環境保全型農業・有機農業等に関する内容を取り扱った。(林 琢也 准教授)
20	【授業】地域科学部「専門セミナー」：「ぎふグリーン農業」を実践する生産者の圃場においてブドウの援農活動を行った。(JAぎふ長良支店の企画に協力)2017年6月10日(林 琢也 准教授)
21	【授業】地域科学部「専門セミナー」：ゼミの学生が卒業論文のテーマとして、森林の保全・活用、森林空間のレクリエーション利用について取り上げ、郡上市石徹白地区において調査・研究を行った。(林 琢也 准教授)
22	【授業】地域科学部「化学実験」、「化学演習」、「微分方程式」、全学共通教育「教養の化学(化学概論)」：廃液等の処理、自然環境中での生物数の変化の数理など環境問題に関する教育内容を含んだ授業を行った。(楠本 智裕 准教授)
23	【授業】全学共通教育「環境マネジメントと環境経営」：前期。 「生物多様性と環境」の講義を行った。(向井 貴彦 准教授)
24	【授業】地域科学部「動物生態学」：前期。環境問題を理解する上で必須となる生態系の構造、機能、生物間相互作用などについて講義した。(向井 貴彦 准教授)
25	【授業】地域科学部「専門セミナー」：前期。野生生物の生態、遺伝的多様性、絶滅危惧種の保全、外来種問題などについての講義と、学生自身による課題設定と学習を行った。(向井 貴彦 准教授)

教 育

※緑色の番号は環境活動を表す

教 育	26	【授業】全学共通教育「環境マネジメントと環境経営」：後学期。「生物多様性と環境」の講義を行った。(向井 貴彦 准教授)
	27	【授業】地域科学部「生物学I」：後学期。環境問題を理解する基礎となる生物学について、生物の多様性、遺伝子、進化などの重要な項目を講義で詳しく説明した。(向井 貴彦 准教授)
	28	【授業】地域科学部「環境保全論Ⅱ」：後学期。環境問題についての具体的な事例をもとに、その原因、解決のための取り組みなどを多角的に、また学外での見学などを含めて講義した。(向井 貴彦 准教授)
	29	【授業】地域科学部「専門セミナー」：後学期。野生生物の生態、遺伝的多様性、絶滅危惧種の保全、外来種問題などについての講義と、学生自身による課題設定と学習を行った。(向井 貴彦 准教授)
	30	【授業】地域科学部「卒業研究」：後学期。岐阜県内の河川に生息する淡水エビの分布や、無農薬水田の生物相についての卒業研究を指導した。(向井 貴彦 准教授)
	31	【授業】全学共通教育「日本国憲法(基本的人権と社会権)」：後期火曜1時限目。環境権の講義としてニュージーランドと日本の環境法比較ビデオを視聴し説明を行った。(近藤 真 教授)
	32	【学外授業】オーブン・カレッジ：岐阜市メディアコスモス。8月5日(三谷 晋 准教授)
	33	【学外授業】出前講義：「絶滅危惧種vs.外来種―身近な自然を守るために」と題した環境問題に関する出前講義を行った。開催は本巣松陽高校(本巣市)にて6月22日。(向井 貴彦 准教授)
	34	【学外授業】出前講義：「地域の自然を活かしたまちづくりを考える」と題した環境問題に関する出前講義を行った。開催は知立東高校(愛知県知立市)にて8月22日。(向井 貴彦 准教授)
	35	【学外授業】出前講義：「絶滅危惧種vs.外来種―身近な自然を守るために」と題した環境問題に関する出前講義を行った。開催は津西高校(三重県津市)にて9月22日。(向井 貴彦 准教授)
研 究	1	【研究】原発に関する労働環境と地域環境の研究：原子力発電所における被曝不可避の労働環境で働く労働者の状態、労働者とその家族の健康・生活問題との関連についてのこれまでの研究をいっしょに整理し、論文「若狭地域住民は原発関連事業所とどのように関わっているか(労働環境と地域環境)」(2017年9月)と著書『原発被曝労働者の労働・生活実態分析―原発林立地域・若狭における聴き取り調査から―』(2017年10月)で公表した。その内容を高木が担当する専門セミナーで紹介し意見交換した。講演テーマは、「若狭地域住民は原発関連事業所とどのように関わっているか(労働環境と地域環境)」。(高木 和美 教授)
	2	【研究】平成29年度COC「地域志向学プロジェクト」プロジェクトA：「乗鞍岳を活かした観光振興策：小型自動販売機を用いた社会実験」研究代表者。地域振興と自然環境保全の観点から乗鞍岳を活かした観光振興策を検討するため、近年増加しつつある自転車道(山頂を目指して登っていく「乗鞍スカイラインサイクルヒルクライム」)に注目し、乗鞍岳周辺の観光振興策として小型自動販売機を用いた社会実験：クーポン付きガチャチャ事業を行った。カプセル内に乗鞍産の記念品(バッチ、飲食等のクーポン・マナー啓発チラシ)を入れ、観光振興に併せて、環境協力費徴収の可能性を模索した。(三井 栄 教授)[COC、COC+事業]

※緑色の番号は環境活動を表す

研 究	3	【研究】環境適応都市に関する研究：環境問題に適応した都市のあり方に関する研究に取り組んだ。(十二村 佳樹 准教授)
	4	【研究】「フエアーマーズマーケットの役割を考える―JAあぐりパーク食彩村・パルコde朝市を事例に―」：県内の自治体職員と行っている「地方自治政策研究会」(岐阜市役所)において研究成果を発表した。開催日は10月2日。(林 琢也 准教授)
	5	【研究】「経済地理学会 中部支部 12月例会」：環境保全や食の安全・安心に配慮した農産物を販売するフエアーマーズマーケットや観光農園について、「名古屋大都市圏の中核都市にみる食と農のダイナミズム―岐阜市におけるフエアーマーズマーケット・観光農園の現状分析―」と題するテーマで研究発表を行った。開催は中京大学名古屋キャンパスにて12月9日。(林 琢也 准教授)
	6	【研究】生物保全・外来種：魚類・甲殻類等の水生生物保全と外来種問題についての研究を行った。(向井 貴彦 准教授)
	1	【研究会等】岐阜地方政策研究会：5月23日、7月27日、10月2日、11月13日、12月13日、2月8日。岐阜市役所。近藤真教授、富樫幸一教授、山本公徳准教授、林琢也准教授とともに参加した。(三谷 晋 准教授)
	2	【研究会等】岐阜愛知政策法務研究会：サテライトキャンパス。7月27日14時～、2月10日(三谷 晋 准教授)
社 会 連 携	3	【研究会等】中部三県景気予測プロジェクト研究会：全国と地域経済の景気動向には乖離が生じており、景気回復や落ち込みの度合いにも地域差が見られ、産業構成比、企業規模、近隣都市との依存関係、人口動向の変化は、景気循環のタイミングや景気感のずれを引き起こす原因となっている。そこで、愛知県、岐阜県、三重県の景気分析担当部局間と連携しながら景気分析の手法の共有化とスキルアップを図った。岐阜大学サテライトキャンパス。3月1日(三井 栄 教授)[産官学連携活動]
	4	【研究会等】平成29年度岐阜大学技術交流研究会：「乗鞍社会実験研究会」研究代表者。今年度は、自転車による来訪者を対象に観光振興策として小型自動販売機を用いた社会実験：クーポン付きガチャチャ事業を行った。(三井 栄 教授)[産官学連携活動]
	5	【審議会等】岐阜県行政不服審査会：10月11日、11月8日(三谷 晋 准教授)
	6	【審議会等】岐阜市行政不服審査会：12月18日、1月26日(三谷 晋 准教授)
	7	【審議会等】関市公文書公開審査会：10月31日(三谷 晋 准教授)
	8	【審議会等】裁判所委員：(三谷 晋 准教授)
	9	【審議会等】岐阜市自然環境保全推進委員会(岐阜市)：委員として参加。(向井 貴彦 准教授)
	10	【審議会等】加茂地区生物多様性基礎調査(美濃加茂市)：委員として参加。(向井 貴彦 准教授)
	11	【審議会等】岐阜県レゾナントデュータブック改訂調査検討委員会(岐阜県)：委員として参加。(向井 貴彦 准教授)

※緑色の番号は環境活動を表す

12	【審議会等】愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会（愛知県）：委員として参加。（向井 貴彦 准教授）
13	【講演】日本科学者会議福井支部2月例会：2月10日（高木 和美 教授）
14	【講演】「地方自治法と議会」：関市NPOブレーメン等が主催する勉強会にて講演を行った。関市の然の膳開店。1月23日（三谷 晋 准教授）
15	【講演】第7回乗鞍フォーラム「ともに考える乗鞍の明日」：パネルディスカッション「魅力を高める、子どもに伝える」でコーディネーターを務めた。H29年8月11日（乗鞍岳・量平）参加者約120名。岐阜新聞・中日新聞に関連記事掲載。（三井 栄 教授）
16	【講演】飛騨山脈ジオパーク構想フォーラム「飛騨山脈ジオパーク構想と持続可能な地域づくり」：パネルディスカッション「ジオパークの魅力」でコーディネーターを務めた。H29年12月3日（奥飛騨総合文化センター）参加者約120名。（三井 栄 教授）
17	【講演】「相模原障がい者施設殺傷事件と優先思想」：兵庫県加古川市のNPO法人「知的障がい者を持つ人の余暇活動をサポートする会」が主催する講演会で、自閉症療育講座の一環として、「相模原障がい者施設殺傷事件と優先思想」と題する講演を行った。加古川市陵南公民館。5月14日。（竹内 章郎 教授）
18	【講演】「相模原事件から学ぶ：『弱者』の哲学：いのちの平等論から能力の共同性論まで」：滋賀県長浜市の健康福祉部しょうがい福祉課が主催する学習会「しょうがいのあて」で、安心して住み慣れた地域で暮らすための一環として、「相模原事件から学ぶ：『弱者』の哲学：いのちの平等論から能力の共同性論まで」と題する講演を行った。長浜市民交流センター。7月28日。（竹内 章郎 教授）
19	【講演】津保川の魚と環境について：関市西部ふれあいのまちづくり推進委員会主催の津保川自然観察会において、津保川の魚と環境についての講演を行った。関市小屋名。5月28日。（向井 貴彦 准教授）
20	【講演】「絶滅危惧種vs.外来種」身近な自然を守るために：十六銀行主催の高齢者向けセミナーで、「絶滅危惧種vs.外来種」身近な自然を守るために」と題した環境問題に関する講演を行った。開催は岐阜市十六ビルにて7月26日。（向井 貴彦 准教授）
21	【講演】オオサンショウウオの生態と和良川の環境について：和良おこし協議会主催のオオサンショウウオ観察会「はざこ探検隊」に参加し、オオサンショウウオの生態と和良川の環境について講演した。郡上市和良町。7月30日、8月26日（向井 貴彦 准教授）
22	【講演】岐阜県の魚類：岐阜県の全魚種と会うために：長良川市民学習会主催の講演会において、「岐阜県の魚類：岐阜県の全魚種と会うために」と題して岐阜県内の水環境について講演した。岐阜市メディアコスモス。8月19日。（向井 貴彦 准教授）
23	【講演】「魚を通して自然の姿を考える」：NPO法人東海自然学園「東海シニア大学」の受講生を対象に「魚を通して自然の姿を考える」というテーマで水環境についての講演を行った。岐阜大学地域科学部向井研究室。8月25日（向井 貴彦 准教授）
24	【講演】「岐阜県の魚の話」：みのかも文化の森主催のサイエンスカフェにおいて、「岐阜県の魚の話」と題して水辺の環境と淡水魚についての講演を行った。みのかも文化の森。8月26日（向井 貴彦 准教授）

社会連携

※緑色の番号は環境活動を表す

25	【講演】「長良川の生態系と生物多様性について」：岐阜県環境企画課主催の県外者向けの講座において、「長良川の生態系と生物多様性について」をテーマに河川環境と淡水魚についての講演を行った。岐阜市うかいミュージアム。8月30日（向井 貴彦 准教授）
26	【講演】各務用水の魚と環境について：各務用水土地改良区主催の地元親子向けの生物観察会において、各務用水の魚と環境についての講演を行った。開催は関市小屋名にて10月1日。（向井 貴彦 准教授）
27	【講演】「アユのほかにいゝるよ！ 岐阜県の魅力的な魚たちと残された謎」：世界淡水魚園水族館と岐阜大学共催の講演会において、「アユのほかにいゝるよ！ 岐阜県の魅力的な魚たちと残された謎」と題して岐阜県内の魚と水環境について講演した。各務原市世界淡水魚園水族館。10月29日（向井 貴彦 准教授）
28	【講演】「ウシモゾゴの現状について」：愛知県主催のウシモゾゴ保全連絡会議において、ウシモゾゴの現状についてと題して愛知県の希少種条例対象種であるウシモゾゴの保全に関する現状について講演した。愛知県三の丸庁舎。10月31日（向井 貴彦 准教授）
29	【メディア出演】新聞記事「絶滅危惧種の『ウシモゾゴ』 県内ゴルフ場で繁殖か」：岐阜新聞12月30日掲載。（向井 貴彦 准教授）
30	【メディア出演】新聞記事「中池の水ぜんぶ抜く」：中日新聞中濃版12月28日掲載。（向井 貴彦 准教授）
31	【メディア出演】新聞記事「池の水抜き生物調査」：岐阜新聞県内版1月9日掲載。（向井 貴彦 准教授）
32	【メディア出演】新聞記事「琵琶湖産オйкаワ 木曾 三川に広がる」：岐阜新聞1月25日掲載。（向井 貴彦 准教授）
33	【メディア出演】NHK「プラタモリ」：12月2日放送の岐阜編に出演。岐阜城と信長居館跡から引き継いで、川原町では町家や伝統の美濃和紙を、中心部では円徳寺から織田塚、栄市場跡と想定される場所まで案内して好評を得た。（富樫 幸一 教授）
1	【教職員】教職員に対して、環境や省エネに関する「監視記録（チェックシート）」の報告を四半期毎に実施して、学部内での自己啓発を進め、より効果的な環境保全と省エネに取り組んだ。
2	【教職員】休憩時間における消灯、講義室の消灯・空調確認、裏紙活用など資源の再利用を促進し、省エネルギーの取り組みを行った。
3	【教職員】不要物品の再利用など廃棄物の削減を図った。

その他（運営面等）

地域科学部の共同研究による数多くの共著書

地域科学部の発足後、地域の経済や社会、歴史について総合的に研究することを目指して「地域学」のあり方を追求している(1999)



中山間地域にある郡上市和良町の農業、家族、生活、産業、健康などについて総合的な調査を行った(2009)。現在も集落点検や移住者調査などで地域づくりの支援を行っている。



地域学実習などの調査結果にもとづいて、岐阜市の歴史、中心市街地、繊維産業、歴史的地区、郊外住宅団地を論じ、サステナブルな地方都市再生を論じている(2007)。総合計画、地区別のまちづくりの実習や支援を継続している。



地元地銀と十六銀行・岐阜大学産学連携地域経済活性化研究会を6年間、継続して、その研究成果と提言をまとめた(2006)。十六銀行と岐阜市、岐阜県、商工会議所などとは、2001～14年にわたって「ぎふまちづくりセンター」の取り組みを続けて、市民、行政の間支援の役割を果たしている。



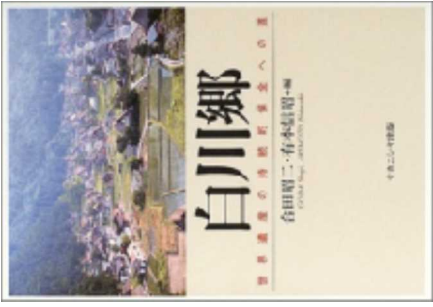
文化講座を中心として、「メディア・ことば・社会」、「イメージ・思想・風土」を共通軸として社会に起きる様々な事から文化に関するそれぞれに関心、問題意識を出し合いとりまとめている(2000)。



地域科学部のベテランと若手の共同研究により、グローバル化、規制緩和などが続く中で、経済と社会のあり方を根本的に問い直している(2014)。



近代日本の批評の成立、若者たちの言語行動、三木清と近代批判、西欧近代の自然観をめぐって、文化的近代を多面的に問い直している(2004)。



世界遺産となった白川郷をめぐって、地理学・林学・農業経済学・交通経済学・日本文学の学際的研究をとおして、変わりゆく白川郷の将来像を展望している(2004)。観光や移住者などの調査も引き続いて行われている。

地域政策講座

氏名（ローマ字）生年度		西村 貢（Nishimura, Mitsugu）1953 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		京都大学大学院理論経済学・経済史学専攻博士後期課程単位取得満期退学(1985 年) 経済学修士			
研 究 活 動	専門分野		財政学，地方財政		
	研究 テ ー マ	(1) 日本財政の構造に関する研究 (2) 地方公共団体の行財政運営に関する研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「地方財政破綻の構造」, 地域学への招待(松田之利, 西村 貢編), 世界思想社, 223-247 頁, 1999 年. (2) 「持続可能な地域社会とまちづくり」, 生協と住みよいまちづくり(西村 貢, 中井健一, 黒田 学編), 文理閣, 87-103 頁, 2000 年. (3) 「協働型まちづくりの時代」, 「地方都市のまちづくり」, 「まちづくり活動と地域金融機関」, 「住民活動支援組織と住民自治」, 協働型まちづくりのすすめ(西村 貢編), まつお出版, 11-35 頁, 35-53 頁, 85-99 頁(三浦文彦との共著), 101-121 頁, 2004 年. (4) 「地方行財政の構造改革と住民自治」, 地域ルネッサンスとネットワーク(仲村政文, 蔦川正義, 伊東維年編), ミネルヴァ書房, 197-208 頁, 2005 年. (5) 「町村合併と地域振興策の変容」, 中山間地域は再生するか(白樫 久, 今井 健, 山崎仁朗編), アカデミア出版会, 230-249 頁, 2008 年.			
	学 会	所属学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 財政学, 現代のまちづくりと住民 [学 部 科 目] : 財政学, 地方財政論, 地域学実習, 専門セミナー, 卒業研究 [大 学 院 科 目] : 地方財政特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		宮野雄一（Miyano, Yuichi） 1954 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程単位取得退学（1988 年） 経営学修士			
研 究 活 動	専門分野		地域経済学		
	研究 テ ー マ	(1) 地域経済・政策研究 (2) 水資源政策研究 (3) 社会資本論研究 (4) 公共事業評価論研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「関一と住宅政策」, 大阪の歴史, 18, 106-146 頁, 1986 年. (2) 「不動産資本論序説」, 経営研究, 38-1, 89-99 頁, 1987 年. (3) 「水源地域対策の原理と行財政制度」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 1, 13-47 頁, 1997 年. (4) 「長良川河口堰の費用便益分析とアロケーション」, 水資源開発の失敗 (伊藤達也, 在間正史, 富樫幸一, 宮野雄一), 成文堂, 141-203 頁, 2003 年. (5) 「芦田川河口堰の費用便益分析」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 30, 61-115 頁, 2012 年.			
学 会	所属学会	日本財政学会, 日本地方財政学会, 水資源・環境学会, 日本経済地理学会, 環境経済・政策学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 初年次セミナー [学 部 科 目] : 経済学B, 国土開発論, 社会資本論, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 社会資本論特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		富樫幸一（Togashi, Koichi） 1956 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		東京大学大学院理学系研究科単位取得退学（1987 年）		博士(理学)	
研 究 活 動	専門分野		経済地理学		
	研究 テ ー マ	(1) 産業立地・地域経済に関する理論的研究 (2) 水資源開発と需要予測 (3) 商店街，歴史的町並みのまちづくり			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「ポスト開発主義における地域政策の展望」，地域経済学研究, 27, 2-16 頁, 2014 年. (2) 「国際化時代の地域経済学 第 4 版 (岡田知弘, 川瀬光義, 鈴木誠, 富樫幸一)」, 有斐閣, 1-62 頁, 2016 年. (3) 「長良川河口堰の「開門調査」をめぐって」, 日本の科学者, 52-4, 18-23 頁, 2017 年. (4) 「岐阜市におけるコンパクトシティ政策と現実の課題」, 住民と自治, 648, 16-20 頁, 2017 年. (5) 「地方都市のまちづくりにおける住民・行政の役割と展開」, ローカルガバナンスと地域 (佐藤正志, 前田洋介 編), ナカニシヤ出版, 133-152 頁, 2017 年.			
学 会	所属学会	経済地理学会, 日本地域経済学会, 人文地理学会, 日本地理学会			
	役員等	経済地理学会評議員, 日本地域経済学会理事			
担授 当業	[全学共通科目] : 都市論, 現代のまちづくりと住民, 社会科学入門 [学 部 科 目] : 地域研究入門, 地理学, 地域経済論, 地域学実習, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 地域産業特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		三井 栄（Mitsui, Sakae） 1967 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		名古屋市立大学大学院経済学研究科後期博士課程修了（1995） 博士（経済学）			
研 究 活 動	専門分野		計量経済学		
	研究 テ ー マ	(1) 時系列モデル（一般型多変量自己回帰モデル）の統計的手法に関する研究 (2) 金融理論モデルの開発および数理ファイナンスの実証分析に関する研究 (3) 地域経済の景気分析・労働市場分析・交通インフラ整備の効果等に関する研究 (4) 公的施設の評価やまちづくり事業に対する地域住民満足度に関する研究			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「改良型ネフチモデルによる景気転換点の予測と地域経済への応用」, 地域学研究, Vol.39-No.4, 951-962 頁, 2010 年. (2) 「都道府県別製造業・卸小売業・サービス業の生産性と産業集積」, 地域学研究 Vol.42-No.4, 847-869 頁, 2013 年. (三井 栄, 溝口晃洋) (3) 「地域住民によるまちづくり事業への評価—名古屋市「港まちづくり協議会」を事例として—」, 地域学研究, Vol.44-No.1, 123-135 頁, 2014 年. (三井 栄, 東 善朗) (4) 「住民参加型予算とまちづくり事業への活用」, 中部の都市を探る—その軌跡と明日へのまなざし— (中部都市学会編), 風媒社, 165-177 頁, 2015 年. (5) 「新幹線設置に伴う地域づくり事業に対する住民意識の把握—リニア中央新幹線岐阜県駅を事例に—」, 地域学研究, Vol.47-No.2, 191-205 頁, 2018 年.			
学 会	所属学会	日本経済学会, 日本金融・証券計量・工学学会, 日本地域学会, 日本都市学会			
	役員等	日本都市学会中部都市学会理事			
担授 当業	[全学共通科目] : 地域産業と企業戦略入門, 地域資源の活用と観光デザイン, 初年次セミナー, 環境マネジメントと環境経営 [学部科目] : 現代経済学, 計量経済学, 社会活動演習, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 計量経済学特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		小西 豊（Konishi, Yutaka）1965 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）学位		関西大学大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学（1997 年） 修士(商学)			
研 究 活 動	専門分野		比較経済学, 比較経営学, Business and Society		
	研究 テ ー マ	(1) ロシアにおける C S R、ソーシャル・イノベーションの研究—障害者雇用を中心に— (2) 米欧経済制裁下におけるプーチノミクスの実像 (3) 障害者雇用の国際比較研究 (4) 企業不祥事とコーポレートガバナンスの国際比較研究			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「企業社会と法」, 現代社会を読む経営学第 15 巻『市場経済の多様化と経営学—変わりゆく企業社会の行方— (溝端佐登史, 小西 豊, 出見世信之 編著), ミネルヴァ書房, 第 1 章, 21-40 頁, 2010 年. (2) 「ロシア経済の歴史と政治システム」, 現代ロシア経済論 (溝端佐登史, 吉井昌彦 編著), ミネルヴァ書房, 28-48 頁, 2011 年. (3) 「ロシアの障害児教育・インクルーシブ教育の実情と課題—モスクワ・サンクトペテルブルグ調査報告 (2011～2014 年)」 (黒田 学, 小西 豊, 小西文子, 荒木美知子), 『世界の特別ニーズ教育と社会開発シリーズ 1 ロシアの障害児教育・インクルーシブ教育(黒田 学 編)』, クリエイツかもがわ, 68-98 頁, 2015 年.			
	学 会	所属学会	比較経済体制学会, 日本比較経営学会, ロシア東欧学会, 企業と社会フォーラム		
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : [学 部 科 目] : 経営学, 比較経済体制論, 国際経済論, 地域学実習, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 比較経済体制論特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		三谷 晋（Mitani, Susumu）1971 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）学位		中央大学法学研究科博士課程後期課程単位取得退学（2002 年） 修士(法学)			
研 究 活 動	専門分野		行政法		
	研究 テ ー マ	(1) 行政手続法の日米比較研究 (2) 地方自治法の研究 (3) 環境法の研究			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「椿洞不法投棄事件をめぐる岐阜市の対応についての法的検討」, 自治研ぎふ, 80 号, 29-38 頁, 2006 年. (2) 「米国における規則制定手続と和解(Rulemaking-Settlement)についての一考察」, 法学新報, 112 巻 (11・12 号), 563-569 頁, 2006 年. (3) 「SEC の和解行政についての一考察」, 比較法雑誌, 45 (2), 125-158 頁, 2011 年. (4) 「不当労働行為と NLRB の和解について」, 法學新報, 119 (7/8), 293-335 頁, 2013 年. (5) 「協働とその前提について」, 自治研ぎふ, 114 号, 9-20 頁, 2016 年.			
学 会	所属学会	日本公法学会, 環境法政策学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 法学 [学 部 科 目] : 行政法, 地方自治法, 環境法, 社会活動演習, 基礎セミナー, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 行政法特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		山本公徳（Yamamoto, Koutoku）1971 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）学位		一橋大学大学院社会学研究科社会問題政策専攻博士課程修了（2008 年） 博士(社会学)			
研 究 活 動	専門分野		行政学，地方自治論，近現代日本政治史		
	研究 テ ー マ	(1) 新自由主義時代における政官関係の変容に関する研究 (2) 福祉国家型中央地方関係のもとでの現代的な地方自治に関する研究 (3) 日本国憲法体制および明治憲法体制のもとでの統治機構に関する比較研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「第一次大戦期における国家意思形成システムの再編と原内閣」, 日本史研究, 554 号, 26-51 頁, 2008 年. (2) 「シャープ勧告における地方制度改革構想と現代地方自治」, 年報行政研究, 47 号, 134-149 頁, 2012 年. (3) 「変容する民主主義と公共性」, なぜ、市場化に違和感をいだくのか?（高橋 弦, 竹内章郎 編）, 晃洋書房, 59-88 頁, 2014 年.			
学 会	所属学会	日本政治学会，日本行政学会，歴史学研究会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目]：現代のまちづくりと住民 [学 部 科 目]：行政学，地域計画論，専門セミナー，法学・国家論 A，卒業研究 [大学院科目]：行政学特論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		立石直子（Tateishi, Naoko）1974 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）学位		関西学院大学法学研究科博士後期課程満期退学（2003 年） 修士(法学)			
研 究 活 動	専門分野		民法（家族法），ジェンダー法		
	研究 テ ー マ	(1) 離婚法における男女平等法理の研究 (2) 離婚後の子どもの処遇 (3) 親密圏における暴力の問題（DV，児童虐待） (4) 性の多様性と家族法			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「家族法とその課題」,「離婚をめぐる諸問題」,「親子関係と生殖補助医療」,「親密圏における暴力」, ジェンダー法学入門〔第2版〕, 法律文化社, 136-151 頁, 152-167 頁, 168-183 頁, 184-191 頁, 2015 年. (2) 「離婚当事者の非対称性と子の処遇」,「オーストラリアの家族法をめぐる近年の動向—日本は何を学べるか」, 離別後の親子関係を問い直す:子どもの福祉と家事実務の架け橋をめざして（小川富之, 高橋睦子, 立石直子編）, 法律文化社, 78-86 頁, 163-196 頁, 2016 年. (163-196 頁:リサ・ヤング著, 高橋睦子, 立石直子 共訳) (3) 「家族法学におけるジェンダー視座の意味」, 法学セミナー, 61(6), 20-24 頁, 2016 年. (4) 「婚姻前の氏を通称として使用する権利の現代的意味 —東京地裁判決平成 28 年 10 月 11 日事件を素材として」, 立命館法学, 369=370 号, 421-438 頁, 2017 年. (5) 「「家」から憲法 24 条下の家族へ」, 右派はなぜ家族に介入したがるのか: 憲法 24 条と 9 条, 大月書店, 73-98 頁, 2018 年.			
学 会	所属学会	日本私法学会, 日本家族〈社会と法〉学会, ジェンダー法学会, 日本司法福祉学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 民事法(家族生活と法), ジェンダー法(ジェンダーと法) [学 部 科 目] : 民法, 労働法, 法学・国家論 B, 地域研究入門, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 民法特論, 特別演習 I～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		林 琢也（Hayashi, Takuya）1980 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）学位		筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科修了（2009 年） 博士(理学)			
研 究 活 動	専門分野		経済地理学（観光地理学/農業・農村地理学），農村振興論		
	研究 テ ー マ	(1) 日本における観光農業発展の地域システム (2) 都市における農の役割，食のあり方に関する研究 (3) 農山村の観光振興・地域づくりの実証的・実践的研究 (4) 農業分野における知的財産権の保護・活用に関する研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Sustainable Systems of Agri-tourism in a Cherry-growing Area：A Case Study of the Miizumi Area, Sagae City, Yamagata Prefecture」, Geographical Review of Japan Series B, vol.82, pp.60-77, 2010. (2) 「長良ぶどう発達史」, 長良ぶどう部会・記念誌出版実行委員会, 2013 年. (3) 「山梨県南アルプス市西野地区におけるアグリ・ツーリズムの変化と観光農園経営者の適応戦略」, 地学雑誌 122, 418-437 頁, 2013 年. (4) 「知的財産権を活用した農業振興の可能性」, 経済地理学年報 61, 71-88 頁, 2015 年. (5) 「「取り残される農村」は消滅していくのか？—郡上市和良村での「経験」とそれをもとにした「反証」—」, 地理空間 8, 323-338 頁, 2015 年.			
学 会	所属学会	日本地理学会，経済地理学会，人文地理学会，東京地学協会，地理空間学会			
	役員等	経済地理学会中部支部幹事，地理空間学会編集委員，茨城地理学会編集委員			
担授 当業	[全学共通科目]：地理学(人間と社会) [学 部 科 目]：経済地理学，農村振興論，地域学実習，地域研究入門，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：経済地理学特論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		柴田 努（Shibata, Tsutomu）1980 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業／修了年）学位		一橋大学大学院経済学研究科博士課程経済理論・経済統計専攻単位修得退学(2012 年) 博士(経済学)			
研 究 活 動	専門分野		株主価値重視経営に関する政治経済学的研究		
	研究 テ ー マ	(1) 日本とアメリカにおける株主価値重視経営への転換とその要因の解明 (2) 企業法制の規制緩和と配当・自社株買いの増加 (3) 企業支配論における経営者支配論と機関投資家支配論の理論的解明 (4) 政治経済学理論と現代資本主義			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「第 5 章 絶対的剰余価値の生産」および「第 6 章 相対的剰余価値の生産」, 現代の経済学入門(松石勝彦 編著), 同成社, 161-218 頁, 2010 年. (2) 「失業・格差問題と経済危機—1970 年代後半以降のアメリカ経済の構造変化—」, 現代資本主義とマルクス経済学(高田太久吉 編著), 新日本出版社, 111-131 頁, 2013 年. (3) 「グローバル企業と国内生産」, なぜ、市場化に違和感をいただくのか?—市場の「内」と「外」のせめぎ合い(高橋 弦, 竹内章郎 編著), 晃洋書房, 35-57 頁, 2014 年. (4) 「経営者支配の構造変化と株主配分の増加」, 一橋大学大学院経済学研究科学位論文, 1-141 頁, 2016 年.			
学 会	所属学会	経済理論学会, 唯物論研究協会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 経済学入門(現代の日本経済) [学 部 科 目] : 政治経済学, 日本経済論, 経済学 A, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 理論経済学特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		宇山 翠（Uyama Midori）1984 年度		職 名		助 教	
最終学歴（卒業/修了年）学位		中央大学大学院商学研究科商学専攻博士課程後期課程修了（2014 年） 博士（経済学）					
研 究 活 動	専門分野		地域産業論，中小企業論				
	研究 テ ー マ	(1) 産業集積の歴史的展開に関する研究 (2) 産業集積地域の比較分析 (3) 地場産業産地の変容に関する研究					
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「両毛地域における産業集積の形成と発展—中核企業 3 社の事業展開の分析から—」，日本中小企業学会論集 32（2013 年度），日本中小企業学会，45-57 頁，2013 年. (2) 「地場産業産地における構造変化の実態と要因—2000 年代以降の多治見市笠原のタイル産地の分析—」，工業経営研究，工業経営研究学会，第 30 巻第 1 号，54-62 頁，2016 年. (3) 「諏訪地域における産業集積の再編に関する論点整理」，企業研究，中央大学企業研究所，第 30 号，179-200 頁，2017 年. (4) 「2000 年代以降における両毛地域の産業集積の変容—SUBARU の業績拡大の影響に着目して—」，中小企業季報，大阪経済大学中小企業・経営研究所，第 1 号，21-37 頁，2018 年.					
学 会	所属学会	日本中小企業学会，日本経営学会，経営史学会，工業経営研究学会					
	役員等	日本中小企業学会幹事，工業経営研究学会幹事					
担授 当業	[全学共通科目]：地域論（地域経済と中小企業） [学 部 科 目]：地域産業論，地域づくり論，地域学実習，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：						

地域環境講座

氏名（ローマ字）生年度		肥後睦輝（Higo, Mutsuki）1958 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		北海道大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学（1987 年） 農学博士			
研 <					

氏名（ローマ字）生年度		和佐田裕昭（Wasada, Hiroaki）1962 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		名古屋大学大学院理学研究科化学専攻博士課程後期課程修了（1991 年） 理学博士			
研 究 活 動	専門分野		量子化学		
	研究 テ ー マ	(1) 遷移金属イオン配位化合物の構造安定性と反応性に関する理論的研究 (2) 金属タンパク質による小分子の活性化に関する理論的研究 (3) グラファイト類縁化合物と小分子の相互作用に関する理論的研究 (4) 分子軌道の視覚化／解析ソフトウェアの開発			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Hydrogen trapping state associated with the low-temperature TDS peak in hydrogenated nanostructured graphite」, Journal of Applied Physics, vol.104, pp.044311.1-044311.7, 2008. (Y. Miyabe, T. Yoshida, S. Muto, T. Kiyobayashi, H. Wasada) (2) 「Theoretical study of acetonitrile-exchange reactions on hexasolvated divalent cations in the first transition series elements」, International Journal of Quantum Chemistry, vol.109, pp.2208-2226, 2009. (H. Wasada, Y. Tsutsui-Wasada, T. Hashimoto, S. Funahashi) (3) 「Preparation, Characterization, and Reactivity of Dinitrogen Molybdenum Complexes with Bis(diphenylphosphino)amine Derivative Ligands that Form a Unique 4-Membered P-N-P Chelate Ring」, Inorganic Chemistry, vol.52, pp.182-195, 2013. (T. Ogawa, Y. Kajita, Y. Tsutsui-Wasada, H. Wasada, H. Masuda) (4) 「Microscopic origin of ultra-low friction coefficient between the wear track formed on carbon nitride coating and transfer layer on sliding ball in friction tests under dry N ₂ 」, Surface & Coatings Technology, vol.313, pp.31-39, 2017. (H. Inoue, S. Muto, S. Arai, H. Wasada, N. Umehara)			
学 会	所属学会	日本化学会, American Chemical Society, QCDB 研究会, 日本コンピューター化学会			
	役員等	QCDB 研究会 QCLDB 編集メンバー			
担授 当業	[全学共通科目] : 教養の化学(化学概論) [学部科目] : 化学Ⅰ, 化学実験, 線形代数Ⅰ, 微分方程式, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 数理化学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		應 江黔（Ying, Jiang Qian）1962 年度	職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		名古屋大学大学院工学研究科電気工学・電気工学第二および電子工学専攻博士課程後期課程修了(1992 年) 工学博士		
研 究 活 動	専門分野		交通システム科学	
	研究 テ ー マ	(1) システム理論 (2) 交通ネットワーク解析 (3) 土地利用と交通システムの統合解析 (4) 交通経済		
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「On the Strong Stabilizability of MIMO n-Dimensional Linear Systems」, SIAM J. Control and Optimization, vol.38(1), pp. 313-335, 2000. (2) 「Sensitivity Analysis for Stochastic User Equilibrium Network Flows - A Dual Approach」, Transportation Science, vol.35(2), pp. 124-133, 2001. (J. Q. Ying, T. Miyagi) (3) 「Continuous Optimization Method for Integrated Land Use / Transportation Models」, Journal of Transportation Systems Engineering and Information Technology, vol.7(3), pp. 64-72, 2007. (4) 「Optimization for Multiclass Residential Location Models with Congestible Transportation Networks」, Transportation Science, vol.49(3), pp. 452-471, 2015.		
学 会	所属学会	電気学会, 世界交通学会(WCTRS)		
	役員等			
担授 当業	[全学共通科目] : [学 部 科 目] : 応用解析学, 数理計画学, システム工学, 情報演習 A/B, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 数理システム特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究			

氏名（ローマ字）生年度		合掌 颯（Gassho, Akira）1969 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		横浜国立大学工学研究科計画建設学専攻退学（1998 年）博士(工学)			
研 究 活 動	専門分野		複数の環境要因により構成される「複合環境」の評価に関する研究		
	研究 テ ー マ	(1) 視聴覚要因が温熱感覚に与える影響に関する研究 (2) 注意回復環境についての研究 (3) 被験者のポジティブな感情が環境評価に与える影響について (4) アクアリウムが子どもの興味関心、情緒に与える影響について			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「アクアリウムの注意回復効果について」, 人間・環境学会誌 (MERA Journal) , 15(2), 13-17 頁, 2012 年. (合掌 颯, 牧田真奈, 吉田恵史郎) (2) 「Effect Of Visual And Auditory Factors On The Evaluation Of An Experimental Combined Environment Under Different Temperatures」, Proc. CLIMA2013, Prague, Czech Republic, June 16-19, pp. 599-1-10, 2013. (A. Gassho, N. Matsubara, Y. Kurazumi, K. Tobita, T. Sawashima, Y. Yamato, Y. Shibata) (3) 「The Effects of Visual, Auditory And Thermal Factors on the Psychological Response Shown on Perceived Restorative Scales and Comfort Sensation」, Proc. The Fifth International Conference on Human-Environment System, Nagoya, Japan, October 29 - November 2, 2011-1-10, 2016. (A. Gassho, N. Matsubara, Y. Shibata)			
学 会	所属学会	日本建築学会, 日本心理学会, 人間環境学会, 人間生活環境系学会, IAAP			
	役員等	日本建築学会環境心理生理運営委員会委員, 人間生活環境系学会評議員			
担授 当業	[全学共通科目] : 心理学実験・調査法 [学 部 科 目] : 地域研究入門, 地域学実習, 推測統計学, 環境調査法, 居住環境と心理, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 環境心理学特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）		生年度	向井貴彦（Mukai, Takahiko）1970 年度	職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）			学位	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了（1998 年） 博士(理学)	
研 究 活 動	専門分野		魚類の種分化, 生物地理, 保全に関する研究		
	研究 テ ー マ	(1) 魚類の種分化に関する研究 (2) 日本列島の淡水魚の生物系統地理に関する研究 (3) 外来種の導入経路の特定と対策に関する研究 (4) 絶滅危惧種の保全に関する研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「見えない脅威“国内外来魚”（日本魚類学会自然保護員会編（向井貴彦, 鬼倉徳雄, 淀太我, 瀬能 宏 責任編集））」, 東海大学出版会, 1-254 頁, 2013 年. (2) 「東海地方におけるヒガイ属魚類の遺伝的集団構造と攪乱」, 魚類学雑誌, 63 巻, 107-118 頁, 2016 年. (鈴木美優, 北西 滋, 淀太我, 向井貴彦) (3) 「岐阜県の魚類」, 岐阜新聞社, 1-214 頁, 2017 年. (4) 「A simple SNP genotyping method reveals extreme invasions of non-native haplotypes in pale chub <i>Opsariichthys platypus</i> , a common cyprinid fish in Japan」, PLoS ONE 13(1): e0191731. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0191731 , 2018. (S. Kitanishi, N. Onikura, T. Mukai)			
	所属学会	日本魚類学会, 日本生態学会, 日本生物地理学会, 日本爬虫両棲類学会, ASIH			
学 会	役員等	日本魚類学会代議員, 日本魚類学会自然保護委員, 日本生物地理学会評議員			
担授 当業	[全学共通科目] : 岐阜学, 環境マネジメントと環境経営, 初年次セミナー [学 部 科 目] : 生物学I, 動物生態学, 環境保全論II, 微分積分II, 地域研究入門, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] :				

氏名（ローマ字）		生年度	橋本智裕（Hashimoto, Tomohiro）	1971 年度	職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）			学位	東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻博士課程修了（1999 年） 博士(工学)		
研 究 活 動	専門分野		計算化学			
	研究 テ ー マ	(1) 分子の電子励起状態に関する理論的研究 (2) 量子化学計算による大気化学反応機構の解析 (3) 生体関連分子の反応性についての計算化学的研究 (4) 化合物毒性予測ソフトウェアの開発				
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Theoretical study of the Q and B bands of free-base, magnesium, and zinc porphyrins, and their derivatives」, The Journal of Physical Chemistry A, vol. 103, pp. 1894-1904, 1999. (T. Hashimoto, Y.-K. Choe, H. Nakano, K. Hirao) (2) 「Theoretical study on the weakly-bound complexes in the reactions of hydroxyl radical with saturated hydrocarbons (methane, ethane, and propane)」, The Journal of Physical Chemistry A, vol. 106, pp. 2652-2658, 2002. (T. Hashimoto, S. Iwata) (3) 「Ab initio fragment molecular orbital studies of influenza virus hemagglutinin-sialosaccharide complexes toward chemical clarification about the virus host range determination」, Glycoconjugate Journal, vol.25, pp. 805-815, 2008. (T. Sawada, T. Hashimoto, H. Tokiwa, T. Suzuki, H. Nakano, H. Ishida, M. Kiso, Y. Suzuki) (4) 「新版 すぐできる量子化学計算ビギナーズマニュアル」, 講談社, 1-212 頁, 2015 年. (武次徹也, 橋本智裕, 中尾嘉秀, 八木 清, 前田 理, 小林正人, 武次(小野)ゆり子)				
学 会	所属学会	日本化学会				
	役員等					
担授 当業	[全学共通科目] : 教養の化学(化学概論) [学 部 科 目] : 化学演習, 物理化学, 線形代数Ⅱ, 微分方程式, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 環境計算化学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究					

氏名（ローマ字） 生年度		神谷宗明（Kamiya, Muneaki） 1977 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年） 学位		東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻博士課程修了（2005 年） 博士(工学)			
研 究 活 動	専門分野		物性物理学		
	研究 テ ー マ	(1) スピン軌道相互作用を考慮する励起状態を記述する電子状態理論の開発 (2) 高次項を取り込んだ高精度電子相関理論の開発 (3) 高次応答量や弱い相互作用を記述する密度汎関数理論の開発 (4) 超並列分子軌道プログラムの開発			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Nonlinear optical property calculations by the long-range-corrected coupled-perturbed Kohn-Sham method」, J. Chem. Phys. 122, pp.234111-1-234111-10, 2005. (M. Kamiya, H. Sekino, T. Tsuneda, K. Hirao) (2) 「Explicitly correlated coupled-cluster singles and doubles method based on complete diagrammatic equations」, J. Chem. Phys. 129, pp.071101-071101-4, 2008. (T. Shiozaki, M. Kamiya, S. Hirata, E. F. Valeev) (3) 「NTChem: A High-Performance Software Package for Quantum Molecular Simulation」, International Journal of Quantum Chemistry 115(5), pp.349-359, 2015. (T. Nakajima, M. Katouda, M. Kamiya, Y. Nakatsuka) (4) 「Relativistic Time-Dependent Density Functional Theory for Molecular Properties」, Frontiers of Quantum Chemistry, pp.223-247, 2018. (M. Kamiya, T. Nakajima)			
	学 会	所属学会	American Physical Society, 分子科学会		
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 初年時セミナー [学 部 科 目] : 物理学Ⅱ, 物理学Ⅲ, 環境物理学Ⅰ, 環境物理学Ⅱ, 微分方程式, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 環境物理学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		十二村佳樹（Junimura, Yoshiki）1978 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業／修了年）学位		東北工業大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程修了（2007 年）博士(工学)			
研 					

氏名（ローマ字）生年度		中塚 温（Yutaka, Nakatsuka）1982 年度		職 名	助 教
最終学歴（卒業/修了年）学位		東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻博士課程修了（2010 年）博士(工学)			
研 究 活 動	専門分野		電子状態計算理論		
	研究 テ ー マ	(1) 量子モンテカルロ法の相対論的拡張に関する研究 (2) 超並列計算機に適した電子状態プログラムの開発 (3) 超並列計算機に適した電子状態計算理論の研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Relativistic quantum Monte Carlo method using zeroth-order regular approximation Hamiltonian」, The Journal of Chemical Physics, vol.132, pp.054102-1-054102-7, 2010. (Y. Nakatsuka, T. Nakajma, M. Nakata, K. Hirao) (2) 「Relativistic diffusion Monte Carlo method: Zeroth-order regular Approximation-diffusion Monte Carlo method in a spin-free formalism」, The Journal of Chemical Physics, vol. 137, pp.154103-1-154103-6, 2012. (Y. Nakatsuka, T. Nakajima) (3) 「Relativistic Quantum Monte Carlo Method, Practical Aspects of Computational Chemistry I」, An Overview of the Last Two Decades and Current Trends (edited by J. Leszczynski, M. K. Shukla), Springer-Verlag, pp.293-317, 2014. (T. Nakajima, Y. Nakatsuka)			
	学 会	所属学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : [学 部 科 目] : 物理学Ⅰ, 環境物理学Ⅰ, 環境物理学Ⅲ, 記述統計学, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 数理物理学特論				

地域文化講座

氏名（ローマ字）生年度		竹内章郎（Takeuti, Akiro）1954 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了（1983 年）社会学修士			
研 究 活 動	専門分野		社会哲学，生命倫理学，障がい者論		
	研究 テ ー マ	(1) 現代平等論の構築 (2) ハイエクを領袖とする新自由主義の把握とその批判 (3) ヘーゲルを中心とし、カントからマルクスに至るドイツ古典哲学の現代的把握 (4) Life 全般の問題と関連づけた優生思想の新たな把握			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「ヘーゲルにおける主体客体の同一性と概念判断の論理」，哲学(日本哲学会編)，32 号, 127-137 頁, 1982 年. (2) 「「弱者」の哲学」，大月書店, 1-206 頁, 1993 年. (3) 「能力に基づく差別の廃棄」，哲学(日本哲学会編)，49 号, 15-28 頁, 1998 年. (4) 「平等論哲学への道程」，青木書店, 1-365 頁, 2001 年. (5) 「いのちの平等論：現代の優生思想に抗して」，岩波書店, 1-253 頁, 2005 年. (6) 「新自由主義廃棄の第一歩」，唯物論(東京唯物論研究会編)，83 号, 8-28 頁, 2009 年. (7) 「平等の哲学：新しい福祉思想の扉を開く」，大月書店, 1-246 頁, 2010 年. (8) 「哲学塾 新自由主義の嘘(改定版)」，岩波書店, 1-158 頁, 2011 年(2007 年初版) . (9) 「社会権」，大月書店, 11-26, 59-118, 204-314, 337-361 頁, 2017 年. (竹内章郎, 吉崎祥司)			
学 会	所属学会	日本哲学，唯物論研究協会，中部哲学会，総合人間学会，社会臨床学会			
	役員等	日本哲学会理事(旧制度下の元委員)，唯物論研究協会委員(元事務局長，元委員長)			
担授 当業	[全学共通科目]：近現代思想(近現代の平等)，初年次セミナー [学 部 科 目]：社会哲学，生命倫理学，社会活動演習，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：価値哲学概論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		林 正子（Hayashi, Masako）1955 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		神戸大学大学院文化科学研究科博士課程単位修得退学（1987 年）文学修士			
研究 活 動	専門分野		日本近代文学, 比較文学		
	研究 テ ー マ	(1) 近代日本の文明評論におけるドイツ思想・文化受容の意義 (2) 文学の創造契機としての風土論, 地域学としての郷土文学論 (3) 日本近代小説における〈自己探究〉の様相と作家の手法 (4) 日本近代女性作家による自己表現獲得の営為と成果			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「〈地域学〉としての〈郷土文学〉論 ――森田草平『煤煙』と江夏美好『下々の女』の〈故郷〉」, 〈東海〉を読む ――近代空間と文学(日本近代文学会東海支部 編), 風媒社, 309-331 頁, 2009 年. (2) 「〈エクソフォニー小説〉としての『舞姫』」, 森鷗外『舞姫』を読む(清田文武 編), 勉誠出版, 2013 年, 32-57 頁, 2013 年. (3) 「森鷗外ドイツ三部作のイコノロジー」, 森鷗外と美術(森鷗外記念会 編), 双文社出版, 91-109 頁, 2014 年. (4) 「博文館「太陽」と近代日本文明論 ――ドイツ思想・文化の受容と展開」, 勉誠出版, 1-519 頁, 2017 年.			
	学 会	所属学会	日本近代文学会, 日本比較文学会, 日本独文学会, 国際比較文学会, 森鷗外記念会		
	役員等	日本近代文学会東海支部支部長, 日本比較文学会中部支部幹事, 森鷗外記念会常任理事			
担授 当業	[全学共通科目] : 日本文学, ワーク・ライフ・バランス, 岐阜大学の教育研究と運営, 高年次教養セミナーⅡ [学 部 科 目] : 文学, 文化基礎論, 文化受容論, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 日本近代文学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		松尾幸忠（Matsuo, Yukitada）1956 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了（1990 年）文学修士			
研 究 活 動	専門分野		中国古典学		
	研究 テ ー マ	(1) 詩跡（中国の歌枕）研究 (2) 古典詩文（主に六朝～唐宋） (3) 日中比較文化研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「瀟湘考」，中國詩文論叢，第 14 集（中國詩文研究會），71-82 頁，1995 年。 (2) 「中国における「詩跡」形成についての試論－日本の「歌枕」との対比から－」，日本中國學會報，第 51 集，日本中國學會，209-222 頁，1999 年。 (3) 「唐代の類書における詩跡的觀點について」，中國文學研究，第 29 期，早大中國文學會，25-39 頁，2003 年。 (4) 「北宋時期の書物に見られる詩跡的觀點について」，松浦友久博士追悼記念 中國古典文學論集，研文出版，696-708 頁，2006 年。 (5) 「詩跡としての汴河」，中國詩文論叢，第 36 集，中國詩文研究會，87-97 頁，2017 年。			
学 会	所属学会	日本中国学会，早稲田大学中国文学会，中国詩文研究会，日本宋代文学学会			
	役員等	中国詩文研究会監事			
担授 当業	[全学共通科目]：中国語Ⅱ，ワーク・ライフ・バランス [学 部 科 目]：アジア文化論，文学A，応用中国語Ⅱ，応用中国語B，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：中国文学特論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		稲生 勝（Inoo, Masaru）1956 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学（1992 年）文学修士			
研 究 活 動	専門分野		哲学, 科学思想論, 環境思想論, 自然弁証法		
	研究 テ ー マ	(1) 近代の自然観の批判的検討及び現代自然科学のありかたの検討 (2) 環境問題の哲学的検討 (3) ヘーゲル、マルクス、エンゲルスの自然観の研究 (4) 科学技術政策と自然科学を含む学術の比較検討 (5) 産業遺産の調査、研究			
	著 書・ 論 文・ 特 許・ 作 品 等	(1) 「今西錦司氏の進化論について」, 唯物論, 61 号, 67-76 頁, 1987 年. (2) 「自然史における人間—主体としての自然と人間—」, 転学の探求, 18 号, 49-55 頁, 1990 年. (3) 「ヘーゲルの化学説」, 理想, 649 号, 90-100 頁, 1992 年. (4) 「知覚論の現代的課題」, 認識・意識・知識 (仲本章夫 編), 創風社, 143-173 頁, 1992 年. (5) 「新たな市場としての地球温暖化」, エコフィロソフィーの現在 (尾関周二 編), 大月書店, 209-226 頁, 2001 年. (6) 「『自然の無力』から精神へ」, 精神の哲学者ヘーゲル (岩佐 茂, 島崎 隆 編), 創風社, 180-197 頁, 2003 年. (7) 「マルクスと自然」, 経済, 272 号, 52-60 頁, 2018 年.			
学 会	所属学会	唯物論研究協会, 子どもと自然学会, 科学哲学会, 産業考古学会			
	役員等	子どもと自然学会副会長 (前会長) , 産業考古学会元理事			
担授 当業	[全学共通科目] : 科学論, 現代文化論 [学 部 科 目] : 哲学, 哲学 A, 環境思想論, 科学思想論, 社会活動演習, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 自然哲学特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		内海智仁（Utsumi, Tomohito）1958 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		京都大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻修士課程修了（1985 年）文学修士			
研 究 活 動	専門分野		アイルランド文学		
	研究 テ ー マ	(1) 現代アイルランド文学の研究 (2) アイリッシュ・ディアスポラと文化 (3) 英文学における非定住民の表象			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「ジョイスの言語」, Albion, 復刊第 39 号, 京大英文学会, 50-69 頁, 1993 年. (2) 「1934 年の James Joyce —Joyce / Radek / Eisenstein」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 3 号, 73-94 頁, 1998 年. (3) 「マーフィーの“エンドゲーム”—もう一度終わるために—」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 18 号, 43-57 頁, 2006 年. (4) 「スウィフトの「控えめな提案」: 改革者と奴隷」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 28 号, 33-40 頁, 2011 年. (5) 「「大飢饉」("the Famine") を報道する: 1849 年のアイルランド」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 33 号, 1-10 頁, 2013 年.			
学 会	所属学会	日本英文学会, 日本アイルランド協会, 日本ジェイムズ・ジョイス協会, 京大英文学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 英語 2 [学 部 科 目] : 応用英語Ⅲ・Ⅴ, 境界文化論, ヨーロッパ文化論, 文学A, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 英語圏文学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		内田 勝（Uchida, Masaru）1962 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了（1988 年）文学修士			
研 究 活 動	専門分野		英文学（18 世紀イギリス小説）		
	研究 テ ー マ	(1) 18 世紀イギリスの作家ローレンス・スターン（Laurence Sterne）の作品研究 (2) 18 世紀イギリスの滑稽小説・諷刺小説における自己言及性の研究 (3) 英語圏における自己言及的な物語作品の研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「『トリストラム・シャンディ』はハイパーテキスト小説か」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 1 号, 201-216 頁, 1997 年. (2) 「ジェームズ・キャメロンの『アバター』に自然はあるのか? ——仮想世界の風景論」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 28 号, 17-31 頁, 2011 年. (3) 「モノが語る物語 ——『黒外套の冒険』とその他の it-narratives」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 30 号, 15-36 頁, 2012 年. (4) 「ローレンス・スターン研究を展望する」, 「『ヨリック氏説教集』の技法」, 「漫画版および映画版の『トリストラム・シャンディ』」, 「ローレンス・スターン書誌」, ローレンス・スターンの世界 (坂本 武編), 開文社出版, 15-27 頁, 95-110 頁, 304-322 頁, 324-368 頁, 2018 年.			
学 会	所属学会	日本ジョンソン協会, 日本 18 世紀学会, 日本英文学会			
	役員等	日本英文学会中部支部理事			
担授 当業	[全学共通科目] : 英語 2, 初年次セミナー [学 部 科 目] : ヨーロッパ文化論, 文学B, 応用英語Ⅱ, 地域研究入門, 文化解釈論, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 文化解釈論特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		洞澤 伸（Horasawa, Shin）1962 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了（1988 年）文学修士			
研究 活 動	専門分野		言語学		
	研究 テ ー マ	(1) 言語コミュニケーションの研究 (2) 若者言葉の意味と用法 (3) 日本語学 (4) ドイツ語学			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「「親疎の意識」を基軸とする若者たちの言語行動」, 文化的近代を問う, 文理閣, 79-120 頁, 2004 年. (2) 「バイト敬語「～になります」の使用場面と聞き手が覚える違和感について」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 34 号, 13-29 頁, 2013 年. (3) 「若者言葉「フツーに」と「フツー(だ)」が表す程度の相違について」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 35 号, 25-41 頁, 2014 年. (4) 「若者言葉「～とか」の強調用法について」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 37 号, 1-17 頁, 2015 年.			
学 会	所属学会	社会言語科学会, 日本独文学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : ドイツ語Ⅱ, 現代文化論 [学 部 科 目] : 言語文化論, 言語生活論, 言語学B, 応用ドイツ語, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 社会言語学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		橋本永貢子（Hashimoto, Ekuko）1963 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		大阪外国語大学大学院言語社会研究科博士課程修了（2008 年） 博士（言語文化学）			
研 究 活 動	専門分野		現代語中国語を中心とした統語論，意味論，社会言語学		
	研究 テ ー マ	(1) 中国語の量詞に関する研究 (2) 中国語の文レベルに関する研究 (3) 中国語と日本語における言語行動に関する対照研究			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「《量词“张”的产生及其历史演变》读后」，中国語文，第 1 期, 35-37 頁, 2013 年. (2) 「中国語量詞の機能と意味について——文法化の観点から」，白帝社, 1-207 頁, 2014 年. (3) 「中国語の量詞“条”と日本語の助数詞「本」の多義的ネットワーク」，日中語彙研究，4， 1-31 頁, 2014 年. (4) 「日本と中国の言語行動様式に関する一考察——大学生に対するアンケート調査の結果 から——」，日中言語研究と日本語教育，第 7 号, 22-33 頁, 2014 年. (5) 「中国語個体量詞選定プロセスについて」，杉村博文教授退休記念中国語学論文集，白帝 社, 197-216 頁, 2017 年. (6) 「副詞“都”と文の叙述レベル」，現代中国語研究，第 19 期, 73-82 頁, 2017 年.			
学 会	所属学会	日本言語学会，日本中国語学会，国際中国語語言学会，社会言語科学会			
	役員等	国際中国語語言学学会理事（2013-15） ， 日本中国語学会編集委員会委員（2015-2018）			
担授 当業	[全学共通科目]：中国語Ⅰ [学 部 科 目]：言語学Ⅱ，社会言語学，応用中国語Ⅳ，応用中国語A，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：中国語学特論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		牧 秀樹（Maki, Hideki）1966 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		コネチカット大学大学院言語学科博士課程修了（1995 年）Ph.D.（言語学）			
研 究 活 動	専門分野		生成文法		
	研究 テ ー マ	(1) アイルランド語文法研究 (2) モンゴル語文法研究 (3) 日本語文法研究 (4) 英語教育			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Ga/No Conversion」, The Oxford Handbook of Japanese Linguistics（edited by S. Miyagawa, M. Saito）, pp.192-216, Oxford University Press, 2008.（H. Maki, A. Uchibori） (2) 「The Minimal English Test: A New Method to Measure English as a Second Language Proficiency」, Evaluation & Research in Education, 23.2, pp.91-104, 2010.（K. Goto, H. Maki, C. Kasai） (3) 「Essays on Irish Syntax」, 開拓社, 1-214 頁, 2011 年.（H. Maki, D. P. Ó Baoill） (4) 「Essays on Mongolian Syntax」, 開拓社, 1-185 頁, 2015 年.（H. Maki, L. Bao, M. Hasebe） (5) 「最小英語テストの有用性」, 日本の英語教育の今、そして、これから（長谷川信子 編）, 302-318 頁, 開拓社, 2015 年. (6) 「Essays on Irish Syntax II」, 開拓社, 1-215 頁, 2017 年.（H. Maki, D. P. Ó Baoill）			
学 会	所属学会	日本言語学会, 日本英語学会, 中部地区英語教育学会, 全国英語教育学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 英語 4 [学 部 科 目] : 言語学, 言語意味論, 言語と社会 A, 言語学 A, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 言語文化論特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		ゲラン ジル（Guerrin, Gilles）1960 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業／修了年）学位		Université de Rouen - UFR Lettres et Sciences Humaines - (1997 年) Maitrise Français Langue Etrangère			
研 究 活 動	専門分野				
	研究 テー マ	(1) フランス語基礎システムの教授方法の研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Tenter de démystifier le français」, 獨協大学フランス語教授法研究, pp.14-14, 2012 年. (2) 「D’abord... se familiariser avec le système de la langue française」, 関西フランス語教育研究会, pp.20-24, 2013 年. (3) 「Les grands maux des petits mots」, 関西フランス語教育研究会, pp.40-44, 2014 年. (4) 「À la recherche de la Troisième Intelligence -Dialogue n° 1」, Edilivre, pp.1-152, 2018. (5) 「Pourquoi l'approche Maugi ?」, FRANÇAIS LANGUE ARDENTE, Volume II, L’enseignement du français entre tradition et innovation, pp.169-178, 2018.			
学 会	所属学会				
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ, 応用フランス語Ⅲ, 言語学(フランス語論) [学 部 科 目] : 応用フランス語Ⅲ, 応用フランス語A(V), 応用フランス語B(VI), 言語と社会 A/B [大学院科目] :				

氏名（ローマ字）生年度		Alexandra von Fragstein 1965 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業／修了年）学位		Universitaet Heidelberg（1998 年）Magistra Artium（Anglistik / Japanologie）			
研 究 活 動	専門分野		英文学，日本文学		
	研究 テー マ	(1) イギリスの処世術本についての研究 (2) 日本文学の独訳			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「Kunikida Doppo: Kyuushi - Eine Übersetzungskritik」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 12 号, 217-237 頁, 2003 年. (A. v. Fragstein, H. v. Fragstein) (2) 「Natsume Souseki: Yume juuya - Eine Übersetzungskritik」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 14 号, 139-156 頁, 2004 年. (A. v. Fragstein, H. v. Fragstein) (3) 「James Fordyce: Sermons To Young Women. Hauptargumente und Gedankengang」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 20 号, 39-58 頁, 2007 年. (4) 「John Gregory: A Father's Legacy To His Daughters. Hauptargumente und Gedankengang」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 20 号, 59-68 頁, 2007 年. (5) 「Hester Chapone: Letters On The Improvement Of The Mind. Hauptargumente und Gedankengang」, 岐阜大学地域科学部研究報告, 第 21 号, 111-126 頁, 2007 年.			
学 会	所属学会				
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : ドイツ語Ⅰ・Ⅱ [学 部 科 目] : 応用ドイツ語Ⅱ, 応用ドイツ語Ⅳ, 応用ドイツ語A, 言語と社会A/B [大学院科目] :				

氏名（ローマ字）生年度		笠井千勢（Kasai, Chise） 1968 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）学位		University of Essex, Department of Language and Linguistics（2002 年）PhD in Linguistics			
研 究 活 動	専門分野		第二言語習得論		
	研究 テ ー マ	(1) 第二言語習得における個人差：年齢 (2) 第二言語が及ぼす思考過程への影響 (3) 脳画像でみる第二言語習得 (4) 最少英語力測定テスト			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Language and thought in bilingualism: The case of grammatical number and nonverbal classification preferences」, Applied Psycholinguistics, vol.29, pp.105-123, 2008. (P. Athanasopoulos, C. Kasai) (2) 「English /l/ and /r/ acquisition by Japanese children and adults」, The Age Factor and Early Language Learning, Studies on Language Acquisition 40 (edited by M. Nikolov), Mouton de Gruyter, pp.161-198, 2009. (3) 「Searching for happiness across cultures」, Journal of Cognition and Culture 10, vol.10, No.1-2, pp.85-107, 2010. (L. Damjanovic, D. Roberson, P. Athanasopoulos, C. Kasai, M. Dyson)			
	学 会	所属学会	日本第二言語習得学会, 日本言語科学会, Organization for Human Brain Mapping		
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : [学 部 科 目] : 言語理解論, 言語と社会 B, 応用英語 I・II, 言語学 A, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 言語教育学特論, 特別演習 I～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		柴田和宏（Shibata, Kazuhiro） 1986 年度		職 名	助 教
最終学歴（卒業/修了年）学位		東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程単位取得退学（2014 年） 修士（学術）			
研 究 活 動	専門分野		西欧初期近代科学史, 思想史		
	研究 テ ー マ	(1) フランシス・ベーコンの自然哲学形成過程 (2) 17 世紀初頭のイングランドにおける物質理論と生命観 (3) 西欧初期近代の自然哲学における実験の役割			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「フランシス・ベーコンにおける濃と希:物質理論, 精気, 自然の支配」, 科学史研究, 第 50 巻, No. 257, 25-30 頁, 2011 年. (2) 「フランシス・ベーコンの初期手稿にみる生と死の概念」, 知のミクロコスモス: 中世・ルネサンスのインテレクチュアル・ヒストリー（ヒロ・ヒライ, 小澤 実 編）, 中央公論新社, 305-329 頁, 2014 年. (3) 「フランシス・ベーコンの自然誌における実験の記述」, 中部哲学会年報, 第 48 号, 12-25 頁, 2017 年. (4) 「（翻訳・解題）「フランシス・ベーコン『森の森』第 7 センチュリー」」, 原典ルネサンス 自然学 上巻（池上俊一 監修）, 名古屋大学出版会, 43-80 頁, 2017 年.			
学 会	所属学会	日本科学史学会, 中部哲学会			
	役員等	日本科学史学会欧文誌編集委員会委嘱委員, 中部哲学会委員			
担授 当業	[全学共通科目] : 哲学入門 [学 部 科 目] : 地域研究入門, 哲学 B, 言語と社会入門, 近・現代思想論, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] :				

地域構造講座

氏名（ローマ字）生年度		土岐邦彦（Toki, Kunihiko）1953 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		筑波大学大学院心身障害学研究科博士課程中退（1981 年）修士（心身障害学）			
研 究 活 動	専門分野		発達心理学，障害者臨床教育学		
	研究 テ ー マ	(1) 障害のある青年の「自己の育ち」に関する臨床教育学的研究 (2) 障害児教育実践論に関する研究 (3) 障害児のコミュニケーション関係の発達に関する研究			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「障害児の発達とコミュニケーション」，全障研出版部，1-188 頁，1998 年. (2) 「障害児と遊びの教育実践論」，群青社，17-35 頁，115-187 頁，2006 年.（土岐邦彦，白沢 琢） (3) 「いま、ひとりになる。ー小説「バッテリー」に学ぶ子ども・若者の発達と自立」，群青社，1-159 頁，2009 年. (4) 「ラフ・ラブ・ライブー障害をもつ若者たちの発達と演劇」，全障研出版部，1-159 頁，2011 年. (5) 「演じて育つー演劇活動が育む友情と若者たちの“自己”の育ちー」，劇団ドキドキわくわくー障害のある若者たちの発達と演劇活動（土岐邦彦 編著），41-59 頁，群青社，2015年.			
学 会	所属学会	日本臨床教育学会，日本発達心理学会，日本特殊教育学会			
	役員等	日本臨床教育学会学会誌編集委員			
担授 当業	[全学共通科目]：教育心理学概論 [学 部 科 目]：教育・心理学，発達心理学，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：心理学特論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		近藤眞庸（Kondo, Masanobu）1954 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		東京都立大学人文科学研究科博士課程単位取得退学（1985）文学修士			
研 究 活 動	専門分野		健康教育論，教育保健学，保健科教育学，学校保健・養護教諭(史)論		
	研究 テ ー マ	(1) 養護教諭の成立史研究 (2) 保健科の成立史研究 (3) 保健教育内容・教材の教育方法学的研究 (4) 子どものからだと健康の教育保健学的研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「保健室の三十一文字」，星雲社，1-80 頁，1988. (2) 「エイズ教育の進め方」，日本性教育協会，1-52 頁，1988. (3) 「保健授業づくり実践論」，大修館書店，1-240 頁，1997. (4) 「はじめて出会う性の授業」，日本性教育協会，1-48 頁，1998. (5) 「〈シナリオ〉形式による保健の授業」，大修館書店，1-211 頁，2000. (6) 「養護教諭の成立史研究」，大修館書店，1-222 頁，2003. (7) 「触発・追究型の健康教育」，明治図書，1-127 頁，2007. (8) 「教師のための教育保健学」，東山書房，1-258 頁，2016. (数見隆生，近藤眞庸 他 50 名) (9) 「保健指導 おたすけパワーポイントブック」，少年写真新聞社，1-135 頁，2017.			
学 会	所属学会	日本教育保健学会，日本教育方法学会，保健教材研究会			
	役員等	日本教育保健学会理事長，保健教材研究会代表			
担授 当業	[全学共通科目]： [学 部 科 目]：健康教育論，環境教育論，教育学，社会活動演習，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：健康教育学特論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		高木和美（Takaki, Kazumi）1954 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		金沢大学大学院社会環境科学研究科地域社会環境学専攻博士課程修了(1998) 博士(学術)			
研 究 活 動	専門分野		労働問題と生活問題の構造分析と労働・生活問題対策の方法に関する研究		
	研究 テ ー マ	(1) 生活問題対策としての社会福祉の制度的位置と性格に関する理論研究 (2) 看護労働と介護労働の本質からみた社会福祉労働者政策の研究 (3) 原子力発電所末端労働者の労働・生活問題の構造分析と労働・生活問題対策の方法に関する研究			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「新しい看護・介護の視座」，看護の科学社, 1-270 頁, 1998 年. (2) 「介護問題対策とは何かー介護保険と介護保障の違いー」，日本医療経済学会会報, No.62, 1-29 頁, 2000 年. (3) 「ドイツにおける高齢者看護師（AltenpflegerIn）の職業領域に関する判決とその理由」，社会医学研究, No23, 63-73 頁, 2005 年. (4) 「社会福祉労働者政策」，桐書房, 1-135 頁, 2007 年. (5) 「原発被曝労働者の労働・生活実態分析」，明石書店, 1-482 頁, 2017 年.			
学 会	所属学会	社会政策学会，日本社会福祉学会，日本社会医学会，日本医療福祉政策学会			
	役員等	日本医療福祉政策学会幹事(2017 年度まで)，日本社会福祉学会査読委員			
担授 当業	[全学共通科目]： [学 部 科 目]：社会福祉原論，地域福祉論，地域学実習，社会福祉学，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：社会福祉論特論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		ジョン・G・ラッセル（John G. Russell）1956 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		Harvard University, Graduate School of Arts and Sciences, Department of Anthropology (1988), Ph.D.			
研 究 活 動	専門分野		文化人類学		
	研究 テ ー マ	(1) 人種概念 (2) 日本における人種表象 (3) 日本とアメリカの大衆文化における人種言説 (4) SF における人種描写と人種概念の再生			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「日本人の黒人観～問題は「ちびくろサンボ」だけではない」, 新評論, 1-232 頁, 1991 年. (2) 「偏見と差別はどのようにつくられるか」, 明石書店, 1-173 頁, 1995 年. (3) 「Race as Ricorso: Blackface(s), Racial Representation and the Transnational Apologetics of Historical Amnesia in the United States and Japan」, Racial Representations in Asia. Kyoto University Press and TransPacific Press (edited by Y. Takezawa), pp. 124-147, 2011. (4) 「Don't It Make My Black Face Blue: Race, Avatars, Albescence and the Transnational Imaginary」, Journal of Popular Culture, 46.1, pp. 192-217, 2013. (5) 「Replicating the White Self and Other: Skin Color, Racelessness, Gynoids, and the Construction of Whiteness in Japan」, Japanese Studies, 37:1, pp. 23-48, 2017.			
学 会	所属学会	Japanese Soc. of Cult. and Anthro., Assoc. for Asian Studies, Amer. Anthro. Assoc., 日本文化人類学			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 英語 4 [学 部 科 目] : 地域研究入門, 文化人類学, 応用英語Ⅳ, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 社会人類学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		野原 仁（Nohara, Hitoshi）1966 年度		職 名	教 授
最終学歴（卒業/修了年）学位		同志社大学大学院文学研究科新聞学専攻博士後期課程単位取得満期退学（2001 年）修士（新聞学）			
研 究 活 動	専門分野		ジャーナリズム論		
	研究 テ ー マ	(1) 放送政策（現代日本の放送政策と法制度） (2) ジャーナリズム（ジャーナリズムの倫理と現代的意義） (3) 映像コンテンツ制作（企画・ビデオ撮影・ノンリニア編集） (4) メディア・リテラシー教育（メディア批評・メディアと権力の関係性）			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「日本のメディア市民運動に関する一考察——KBS 京都をめぐる運動を中心に——」, 城西国際大学紀要, 第 10 巻, 第 2 号, 33-42 頁, 2002 年. (2) 「「問われる戦時性暴力」改竄事件にみる NHK の放送倫理の形骸化」, 同志社大学メディア・コミュニケーション研究, 4 号, 113-129 頁, 2008 年. (3) 「メディア用語基本事典」, 世界思想社, 1-360 頁, 2011 年.（渡辺武達・山口功二・野原 仁） (4) 「NIE の概要と国語科教育における留意点」, 日本語学, 2016 年 8 月号, 明治書院, 54-63 頁, 2016 年.			
学 会	所属学会	日本マス・コミュニケーション学会, 日本公共政策学会, 政治経済学会, 唯物論研究協会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : メディア論, 広報・PR 論入門 [学 部 科 目] : メディア論, 社会活動演習, 社会学, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : メディア論特論, 特別演習 I ～IV, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		伊原亮司（Ihara, Ryoji）1971 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）学位		一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了（2004 年）博士(社会学)			
研 究 活 動	専門分野		労働社会学		
	研究 テ ー マ	(1) 自動車産業における労働 (2) 権力と主体 (3) 生産システムの浸透と社会システムの変容 (4) 「新しい働き方」について			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「Globalization and Japanese-style Management: Image and Changing Reality」, The International Political Economy of Production (edited by Kees van der Pijl), Edward Elgar Publishing, pp.264-282, 2015. (2) 「私たちはどのように働かされるのか」, こぶし書房, 1-241 頁, 2015 年. (3) 「トヨタと日産にみる＜場＞に生きるカー労働現場の比較分析」, 桜井書店, 1-534 頁, 2016 年. (4) 「ムダのカイゼン、カイゼンのムダートヨタ生産システムの＜浸透＞と現代社会の＜変容＞」, こぶし書房, 1-341 頁, 2017 年.			
学 会	所属学会	日本社会学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : [学 部 科 目] : 現代社会学, 労働社会学, 社会調査法Ⅰ, 地域学実習, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 労働社会学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		南出吉祥（Minamide, Kisshou）1978 年度		職 名	准教授
最終学歴（卒業/修了年）学位		首都大学東京大学院人文科学研究科単位取得退学（2011 年） 修士(教育学)			
研 究 活 動	専門分野		教育学，青年期教育		
	研究 テ ー マ	(1) ユースワークの実践的価値と専門性に関する研究 (2) 青年期教育論と教育福祉論の結びつきに関する研究 (3) 若者支援の日本の特質とその実践展開に関する研究			
	著 書 ・ 論 文 ・ 特 許 ・ 作 品 等	(1) 「高卒5年 どう生き、これからどう生きるのか(乾 彰夫編)」，大月書店, 213-245 頁, 2013 年. (2) 「『居場所づくり』実践の多様な展開とその特質」，社会文化研究, 第 17 号, 69-90 頁, 2014 年. (3) 「若者支援政策の変遷とその課題」，総合社会福祉研究, 第 45 号, 12-19 頁, 2015 年. (4) 「『若者支援』のこれまでとこれから(若者支援全国協同連絡会編)」，かもがわ出版, 1-99 頁, 2016 年. (5) 「男性問題から見る現代日本社会(池谷壽夫, 市川季夫, 加野 泉編)」，はるか書房, 81-107 頁, 2016 年. (6) 「フリースクールの位置づけをめぐる教育実践運動の課題」，〈教育と社会〉研究, 第 26 号, 43-55 頁, 2016 年. (7) 「危機のなかの若者たち(乾彰夫, 本田由紀, 中村高康編)」，東京大学出版会, 365-387 頁, 2017 年. (8) 「若者支援において社会教育が果たしうる役割」，岐阜大学地域科学部研究報告, 第 41 号, 113-126 頁, 2017 年. (9) 「『若者支援』を考えていく際の論点素描」，岐阜大学地域科学部研究報告, 第 40 号, 73-91 頁, 2017 年.			
学 会	所属学会	日本教育学会，日本社会教育学会，日本生活指導学会，社会文化学会，唯物論研究協会			
	役員等	日本生活指導学会理事，社会文化学会運営委員・紀要編集長			
担授 当業	[全学共通科目]：教育論(学校の社会的意味を問う)，初年次セミナー [学 部 科 目]：人間発達論，生活福祉論，専門セミナー，卒業研究 [大学院科目]：生活指導論特論，特別演習Ⅰ～Ⅳ，特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		加藤公一（Kato, Koichi）1966 年度		職 名	講 師
最終学歴（卒業/修了年）学位		一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学（2002 年）修士(社会学)			
研 究 活 動	専門分野		1940 年代東アジア国際関係史		
	研究 テ ー マ	(1) アメリカ合衆国の対東アジア政策 (2) 中華民国国民政府の外交政策 (3) 中国共産党の対外政策 (4) アメリカ社会における親中・親日的知識人のネットワークと国際的影響			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「中国共産党の対米認識とソ連の対日参戦問題、1944-1945 年」, 歴史学研究, 751 号, 32-51 頁, 2001 年. (2) 「『スティールウェル事件』と重慶国民政府」, 重慶国民政府史の研究 (石島紀之・久保 亨 編), 東京大学出版会, 147-167 頁, 2004 年. (3) 「ある本の運命—1949 年の『中国革命』を見つめるアメリカ社会 (特集 再論・1949 年前後の中国)」, 近きに在りて, 53 号, 47-63 頁, 2008 年. (4) 「戦後東アジアで『アメリカ』を学び捨てる—『冷戦としての戦後』と脱植民地化の記憶喪失 (特集「戦後日本」の問い方と世界史認識: 冷戦・脱植民地化・平和(1))」, 歴史学研究, 920 号, 2-13 頁, 2014 年.			
学 会	所属学会	歴史学研究会, 日本アメリカ史学会			
	役員等	名古屋アメリカ研究会代表幹事			
担授 当業	[全学共通科目] : 世界近・現代史 [学 部 科 目] : 近・現代史, 歴史学, 社会活動演習, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

氏名（ローマ字）生年度		山口未花子（Yamaguchi, Mikako）1976 年度		職 名	助 教
最終学歴（卒業/修了年）学位		北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了（2008 年）博士(文学)			
研 究 活 動	専門分野		カナダ先住民の狩猟活動を通じた動物との関係に関する人類学的研究		
	研究 テ ー マ	(1) カナダ先住民カスカの自然誌 (2) カナダ先住民カスカと内陸トリンギットにおける動物表象の比較 (3) 日本における狩猟採集漁労活動 (4) 生業と世界観			
	著書・論文・特許・作品等	(1) 「A Struggle for Co-existence between the Euro-Canadians and the Kaska First Nations」, Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies (T.YAMADA, T. IRIMOTO 編), 北海道大学出版, 211-225 頁, 2007 年. (2) 「動物と話す人々」, 人と動物の人類学 (奥野克己, 山口未花子, 近藤祉秋 編), 春風社, 3-28 頁, 2012 年. (3) 「Part of the Animal : カナダ先住民カスカと動物との関係の諸相」, 文化人類学, 76-4, 398-416 頁, 2012 年. (4) 「ヘラジカの贈り物 : 北方狩猟民カスカと動物の自然誌」, 春風社, 1-378 頁, 2014 年. (5) 「狩猟と儀礼-動物殺しにみるカナダ先住民カスカの動物観」, 動物殺しの民族誌 (シンジルト, 奥野克己 編), 昭和堂, 137-167 頁, 2016 年.			
学 会	所属学会	日本文化人類学会, カナダ学会, 生態人類学会, 文学・環境学会			
	役員等				
担授 当業	[全学共通科目] : 人類学入門, 高年次教養セミナーⅠ [学 部 科 目] : 日本文化論, ジェンダー論, 地域学演習, 地域研究入門, 専門セミナー, 卒業研究 [大学院科目] : 文化人類学特論, 特別演習Ⅰ～Ⅳ, 特別研究				

編集後記

自己評価実施委員長 洞澤 伸

岐阜大学地域科学部・地域科学研究科の『自己評価報告書』をここに取りまとめることができました。この間、富樫学部長、和佐田副学部長(教学担当)、自己評価実施委員の各氏、そして、宮川事務長を始めとして、若井学務係長、田中総務係長および事務室のみなさんには、自己評価の実施計画作成の段階から、資料準備、そして編集作業と大変お世話になりました。心から感謝いたします。

岐阜大学 地域科学部・地域科学研究科 自己評価報告書

平成30年10月発行

〔編集〕岐阜大学地域科学部自己評価実施委員会

富樫 幸一 (学部長)
洞澤 伸 (評価担当副学部長・自己評価実施委員長)
和佐田裕昭 (教学担当副学部長)
内海 智仁 (教務厚生委員長)
内田 勝 (前教務厚生委員長)
稲生 勝 (入試委員長)
ラッセル, ジョン・ゴードン (大学院入試委員長)
松尾 幸忠 (カリキュラム検討委員長)
伊原 亮司 (就職委員長)
合掌 顕 (国際交流委員長)
宮川 孝明 (事務長)
若井 英治 (学務係長)
田中 健一 (総務係長)

〔発行〕岐阜大学地域科学部

〒501-1193

岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部

電話(058)293-3002 (総務係)

岐阜大学
地域科学部・地域科学研究科
外部評価報告書
第4回

平成31年3月発行

〔編集〕 岐阜大学地域科学部自己評価実施委員会

富樫 幸一（学部長）
洞澤 伸（評価担当副学部長・自己評価実施委員長）
和佐田裕昭（教学担当副学部長）
内海 智仁（教務厚生委員長）
内田 勝（前教務厚生委員長）
稲生 勝（入試委員長）
ラッセル, ジョン・ゴードン（大学院入試委員長）
松尾 幸忠（カリキュラム検討委員長）
伊原 亮司（就職委員長）
合掌 顕（国際交流委員長）
宮川 孝明（事務長）
若井 英治（学務係長）
田中 健一（総務係長）

〔発行〕 岐阜大学地域科学部

〒501-1193

岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部
電話(058)293-3002（総務係）